

2022年度休眠預金活用事業

堺市における地域の居場所のトータルコーディネート事業
～校区単位のアセスメントを基盤とした居場所の総合化による地域づくり～

居場所活動に関するアンケート調査 報告書

令和6年3月

社会福祉法人 堺市社会福祉協議会

目 次

| | |
|--|-----|
| 1. 調査の実施概要 | 1 |
| (1) 調査の目的 | 1 |
| (2) 調査の内容と実施方法 | 1 |
| (3) 回収状況 | 2 |
| 2. 校区福祉委員会調査の結果 | 3 |
| (1) 現在実施しているグループ援助活動について | 3 |
| (2) グループ援助活動の経過や、今後の意向について | 8 |
| (3) 居場所活動（グループ援助活動）の連携について | 11 |
| (4) 活動を通じて感じている地域の状況などについて（記述回答の要旨） .. | 13 |
| 3. 子ども食堂調査の結果 | 30 |
| (1) 現在の子ども食堂の活動について | 30 |
| (2) 子ども食堂の経過や今後について | 36 |
| (3) 居場所活動の連携について | 37 |
| (4) 記述回答の要旨 | 38 |
| 4. 団体・機関調査の結果 | 51 |
| (1) 本来の業務以外で行う、地域貢献としての「居場所活動」について ... | 52 |
| (2) 地域で居場所活動を行っている団体等への支援や交流について | 55 |
| (3) 記述回答の要旨 | 56 |
| 5. 調査票 | 84 |
| 校区福祉委員会調査票 | 84 |
| 子ども食堂調査票 | 92 |
| 団体・機関調査票 | 102 |

1. 調査の実施概要

(1) 調査の目的

本調査は、2022年度休眠預金活用事業に採択された「堺市における地域の居場所のトータルコーディネート事業～校区単位のアセスメントを基盤とした居場所の総合化による地域づくり～」において、居場所活動を推進するための基礎資料として、地域の居場所の現状や課題を把握するために実施しました。

また、調査票は今後の取組をすすめるためのデータベースとして活用することも企図しました。

(2) 調査の内容と実施方法

居場所活動や活動への支援を行っている、あるいは、今後の取組を期待する団体・機関などに対して、居場所活動や支援の現状、課題や今後の意向、活動や業務を通して把握している地域課題、それらの解決に向けた取組や意見などについて設問しました。

調査は、団体・機関の種別による居場所活動との関わりの違いを考慮し、下記の3つに区分して実施しました。

※大阪公立大学 東根ちよ研究室に調査を委託し、以下のとおり調査を実施しました。

「休眠預金活用事業『堺市における地域の居場所のトータルコーディネート事業～校区単位のアセスメントを基盤とした居場所の総合化による地域づくり～』における評価監修および調査業務」を、堺市社協が大阪公立大学 現代システム科学研究科 東根ちよ研究室に委託しました。

1) 校区福祉委員会調査

① 調査の対象

堺市内のすべての校区福祉委員会（活動休止中の1校区を除く）【92件】

② 調査の内容

校区福祉委員会で実施しているグループ援助活動を居場所活動と捉え、他団体との連携や気がかりな参加者への対応なども含めた活動の現状や課題、今後の意向を尋ねました。

あわせて、校区福祉委員会活動を通じて感じている地域の課題や資源などについて、記述方式での回答を求めました。

③ 調査の方法

堺市社会福祉協議会各区事務所の日常生活圏域コーディネーターが校区福祉委員会の役員や居場所活動担当者を訪問し、意見を聴き取って記載する方法で実施しました。

④ 調査の実施時期

各校区福祉委員会の聴き取りは、令和5年7月～9月に実施しました。

2) 子ども食堂調査

① 調査の対象

「さかい子ども食堂ネットワーク」（子ども食堂を実施する団体間の交流や情報共有、人材や食材のマッチングなどの支援を通じて子ども食堂の輪を広げていくことを目的として設立）に加盟している、すべての子ども食堂実施団体【92件】

② 調査の内容

子ども食堂を運営する活動について、他団体との連携や気がかりな参加者への対応なども含めた現状や課題、今後の意向を尋ねました。

あわせて、子ども食堂の活動を通じて、地域や居場所などに関して気づいたことなどについて、記述方式での回答を求めました。

③ 調査の方法

さかい子ども食堂ネットワークの一斉メールを通じて、Web上のフォームへの回答を依頼しました。なお、本調査は堺市のクラウドファンディング型ふるさと納税を活用した子ども食堂応援プロジェクトに応募された寄附金による、活動支援のためのプリペイドカードの配分の申込とあわせて実施しました。

④ 調査の実施時期

Webアンケートの回答期間を令和5年8月7日～8月18日17時までとして実施しました。

3) 団体・機関調査

① 調査の対象

福祉に関する活動・事業を行っているボランティアグループ、NPO法人、社会福祉法人、事業所等から、活動・事業の内容をふまえて抽出【1,324件】

② 調査の内容

団体・機関等での本来業務や社会貢献としての居場所活動の実施状況と、実施している場合の課題、今後の意向、地域で居場所活動を行っている団体等への支援の実施状況と今後の意向を尋ねました。

あわせて、団体・機関等の活動や事業等を通じて感じている地域の課題や資源などについて、記述方式での回答を求めました。

③ 調査の方法

郵送で配付、回収を行う、自記式質問紙方式で実施しました。

④ 調査の実施時期

調査票を令和5年8月28日に発送し、9月15日を返送の期限としました。なお、10月18日までに到着したものは選択肢項目の集計と記述回答の集約に、また、その後、11月13日までに到着したのも記述回答の集約に加えました。

(3) 回収状況

各調査の回収状況は、下記のとおりです。

1) 校区福祉委員会調査

調査の対象とした92件、すべてから回答を得ました。有効回収率は100%です。

2) 子ども食堂調査

対象とした92件のうち、86件から回答を得ました。有効回収率は93.5%です。

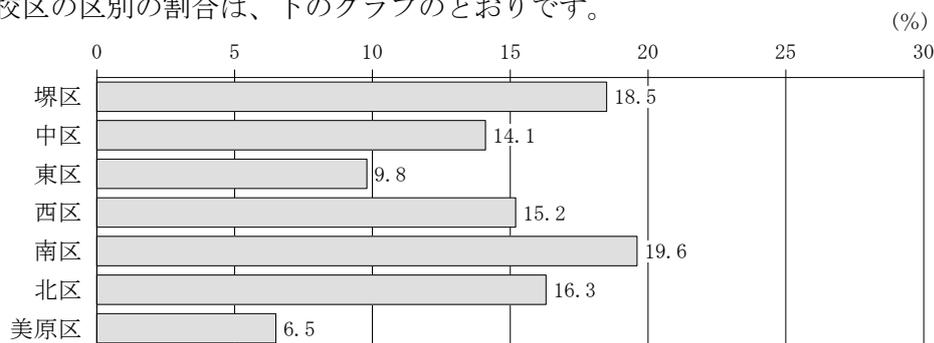
3) 団体・機関調査

有効発送数1,296件（発送数1,324件のうち、宛先不明等で返送された28件を除く）に対して、476件が返信されました。このうち、事業所廃止による白紙回答1件を除く有効回収数は475件で、有効回収率は36.7%です。なお、選択肢項目の集計は10月18日までに返送された468件（有効発送数の36.1%）を対象として実施しました。

2. 校区福祉委員会調査の結果

回答した校区の区別割合

回答した校区の区別の割合は、下のグラフのとおりです。



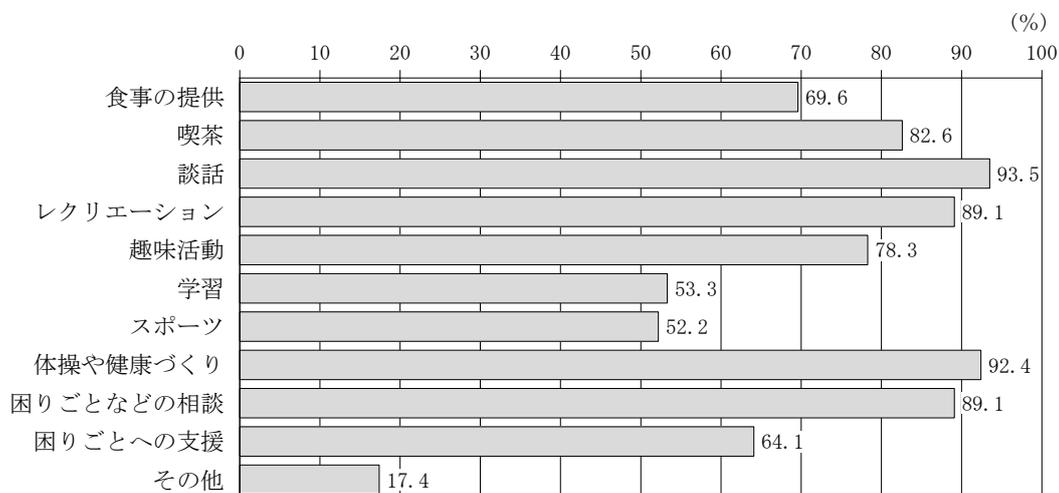
(1) 現在実施しているグループ援助活動について

問1 グループ援助活動全体を通じて、どのような取組をしていますか（複数回答）

談話（93.5%）、体操や健康づくり（92.4%）、レクリエーション（89.1%）、趣味活動（78.3%）、学習（53.3%）、スポーツ（52.2%）など、地域の方々が集まって楽しんだり、学べる、多様な活動が行われています。

また、グループ援助活動を通じた困りごとなどの相談が89.1%、困りごとへの支援も64.1%の校区で取り組まれています。

飲食をともなう活動は、喫茶が82.6%、食事の提供が69.6%の校区で行われています。

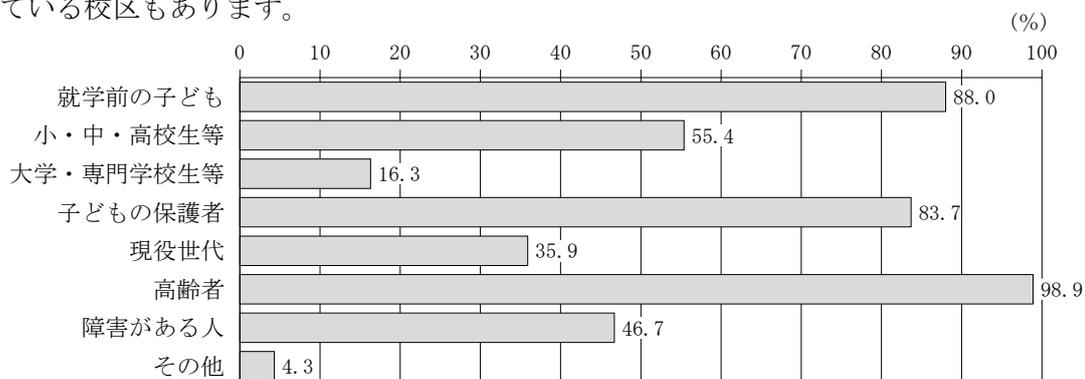


問2 活動に参加されている方は、どのような方が多いですか（複数回答）

（世代や年齢など）

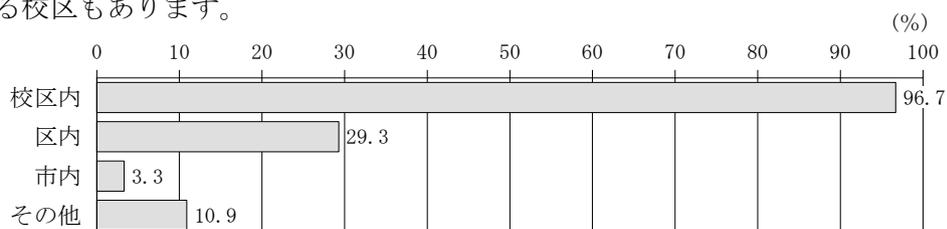
前問のような多様な活動が行われているなかで、高齢者は98.9%の校区で参加し、就学前の子ども（88.0%）や子どもの保護者（83.7%）も多く、多くの校区でグループ援助活動に参加しています。

また、小・中・高校生（55.4%）や障害のある人（46.7%）も半数程度の校区で参加しており、現役世代（35.9%）や大学生・専門学校生等（16.3%）などの多様な世代が参加している校区もあります。



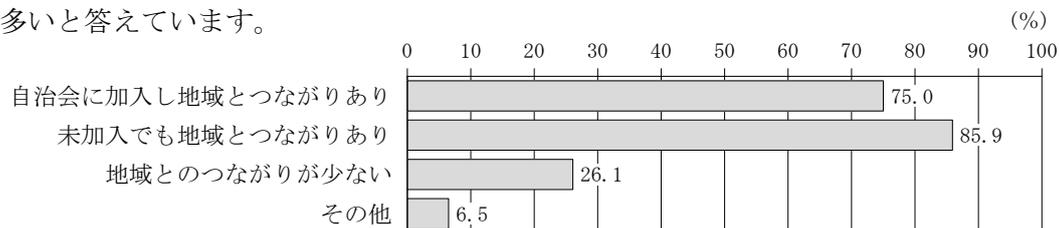
（居住エリア）

活動の内容によっては、校区内（96.7%）に加え、区内（29.3%）や市内（3.3%）からの参加がある校区もあります。



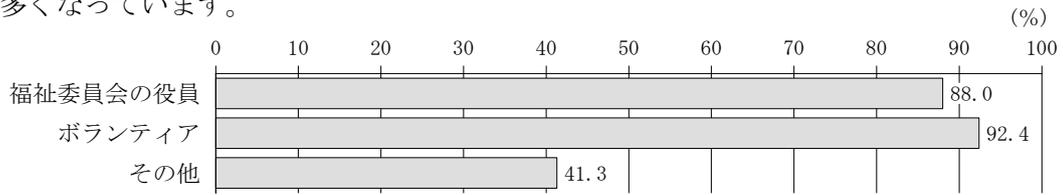
（地域とのつながり）

自治会の加入率が低下してきた状況も反映し、自治会未加入でも地域とつながりがある人をあげた校区が85.9%と、自治会に加入し地域とつながりがある人（75.0%）をあげた校区よりも多くなっています。また、26.1%の校区は地域とのつながりが少ない人の参加も多いと答えています。



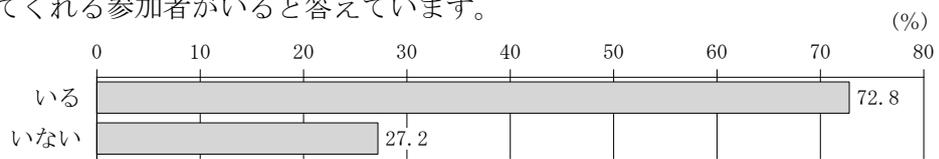
問3 グループ援助活動のスタッフは、どのような方ですか（複数回答）

ボランティアをあげた校区が92.4%で、福祉委員会の役員（88.0%）をあげた校区よりも多くなっています。



問4 参加者とスタッフの両方として参加している方（参加者で少しの手伝いをしてくれる方なども含め）がいますか

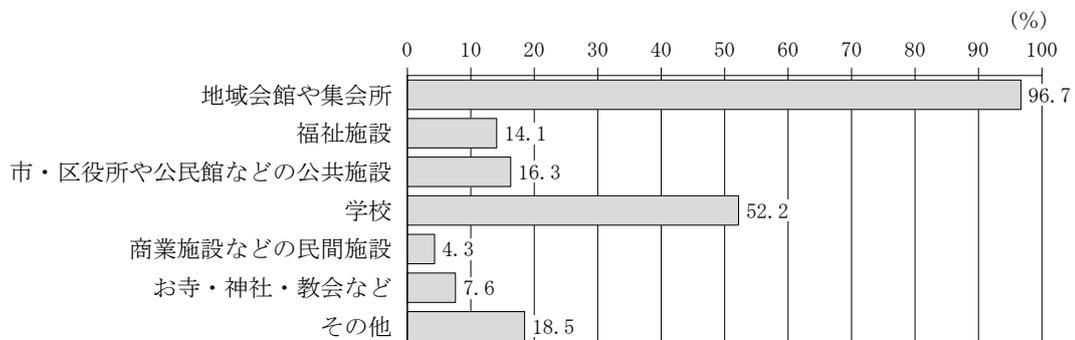
72.8%の校区が、参加者、スタッフの両方としてグループ援助活動に参加している人や手伝いをしてくれる参加者がいると答えています。



問5 グループ援助活動を実施している場所はどこですか（複数回答）

地域会館を96.7%の校区があげています。また、学校も52.2%と半数程度の校区で利用されています。

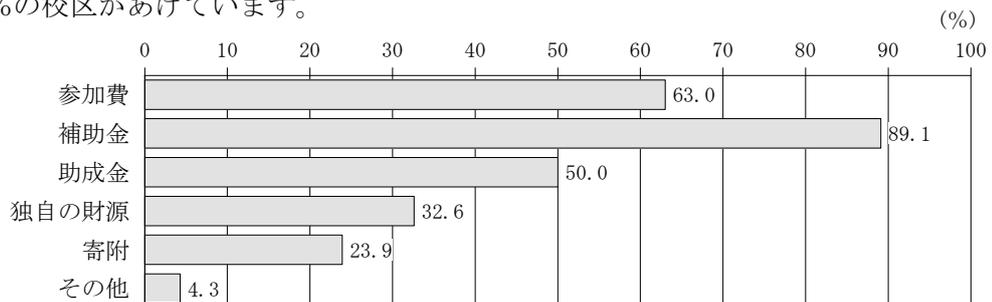
また、市・区役所や公民館などの公共施設を16.3%、福祉施設を14.1%、お寺・神社・教会などを7.6%、商業施設などの民間施設を4.3%と、多様な場所が利用されています。



問6 グループ援助活動の財源はどのようなものですか（複数回答）

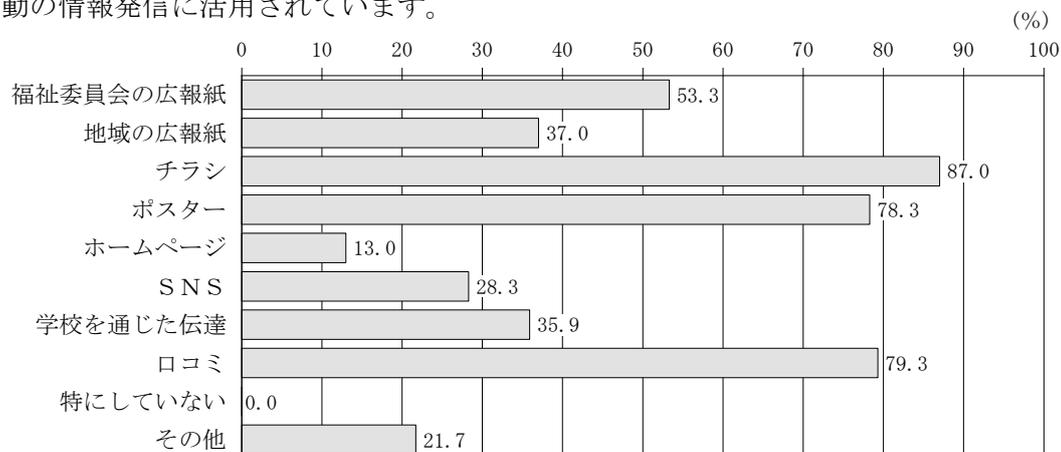
グループ援助活動で参加費を財源にしている校区は63.0%です。

補助金を89.1%、助成金を50.0%の校区があげているほか、独自の財源を32.6%、寄附を23.9%の校区があげています。



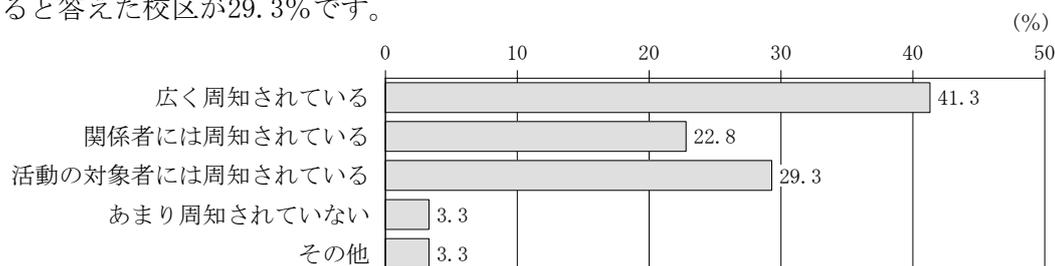
問7 グループ援助活動についての情報発信は、どのような方法でしていますか（複数回答）

チラシを87.0%、口コミを79.3%、ポスターを78.3%と、多くの校区があげています。また、校区福祉委員会の広報紙を53.3%の校区があげているのに加え、地域の広報紙（37.0%）や学校を通じた周知（35.9%）など、連携して情報発信を行っている校区もあります。新たな情報発信方法のSNSは28.3%、ホームページも13.0%の校区で、グループ援助活動の情報発信に活用されています。



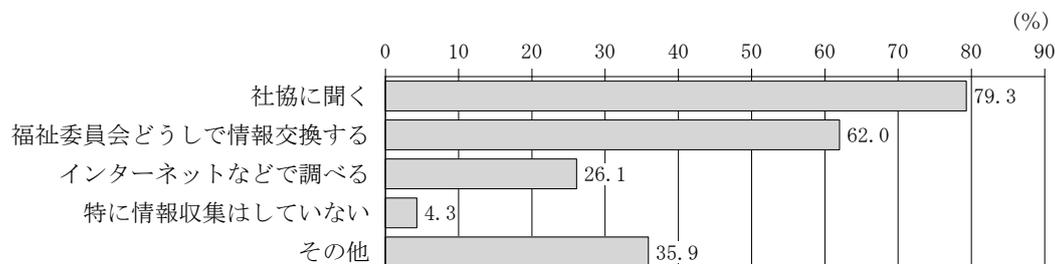
問8 グループ援助活動について、地域の人にどれくらい周知されていると感じていますか

41.3%の校区は、グループ援助活動が広く周知されていると答えています。また、関係者には周知されていると答えた校区が22.8%、関係者以外の活動の対象者には周知されていると答えた校区が29.3%です。



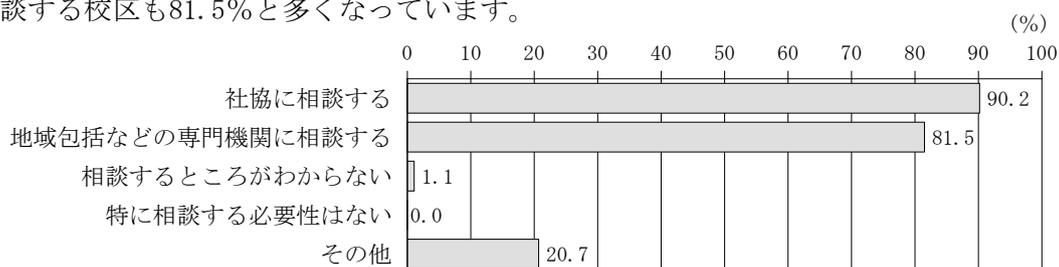
問9 グループ援助活動に関する情報収集は、どのような方法でしていますか（複数回答）

79.3%の校区が社協に聞く、62.0%の校区が校区福祉委員会どうして情報交換することをあげています。また、インターネットで調べると答えた校区も26.1%でした。



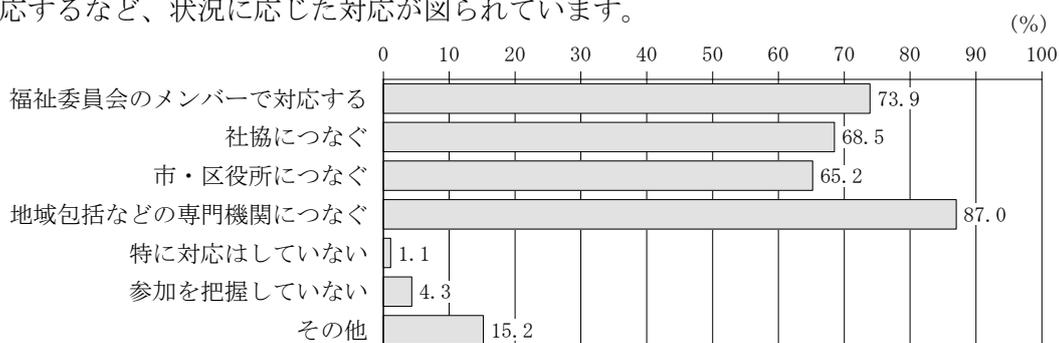
問10 グループ援助活動について気軽に相談するところがありますか（複数回答）

社協をあげた校区が90.2%と最も多いですが、地域包括支援センターなどの専門機関に相談する校区も81.5%と多くなっています。



問11 グループ援助活動に、生活上の困りごとがあるなど相談や支援が必要な人が参加された場合は、どのように対応していますか（複数回答）

相談や支援が必要な人の参加を把握していないと答えた校区は4.3%のみで、ほとんどの校区では、グループ援助活動を通じて相談や支援が必要な人を把握しています。それらの人への対応としては、地域包括支援センターなどの専門機関に87.0%、社協に68.5%、市・区役所に65.2%の校区がつないでいるほか、73.9%の校区では福祉委員会のメンバーで対応するなど、状況に応じた対応が図られています。



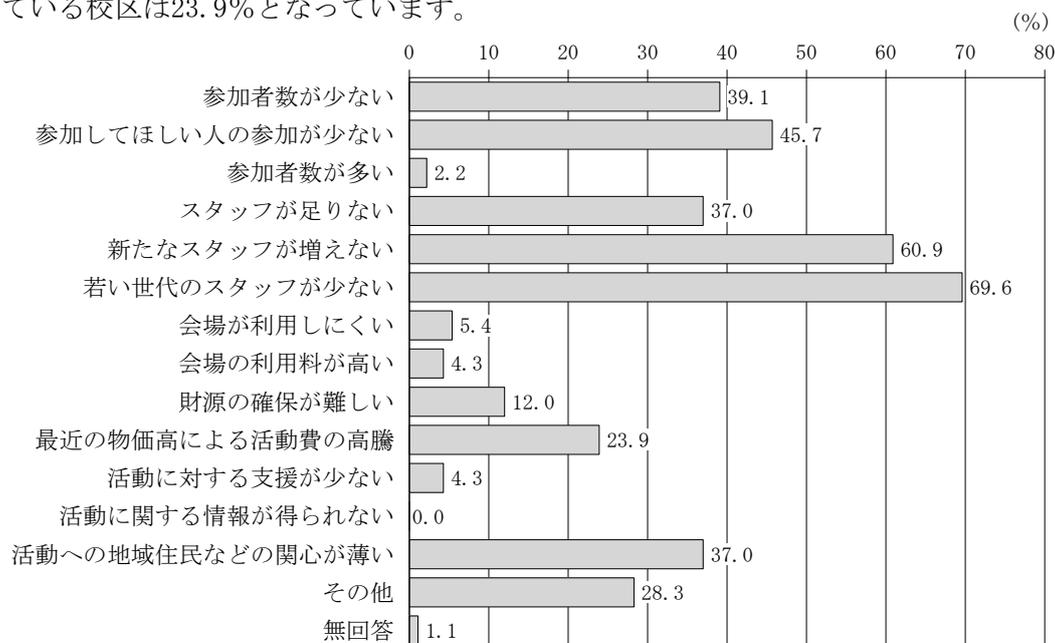
問12 グループ援助活動を行ううえで課題と感じていることがありますか（複数回答）

若い世代のスタッフが少ないことを69.6%、新たなスタッフが増えないことを60.9%の校区があげています。スタッフが足りないことをあげた校区は37.0%で、人数だけでなく、スタッフが固定化し、年齢も高いことを課題と感じる校区が多いことが示されています。

参加者については、参加者数が少ない（39.1%）こととともに、参加してほしい人の参加が少ないことを課題と感じている校区が、45.7%と半数近くにのぼっています。

また、活動への地域住民などの関心が薄いことも、37.0%の校区があげています。

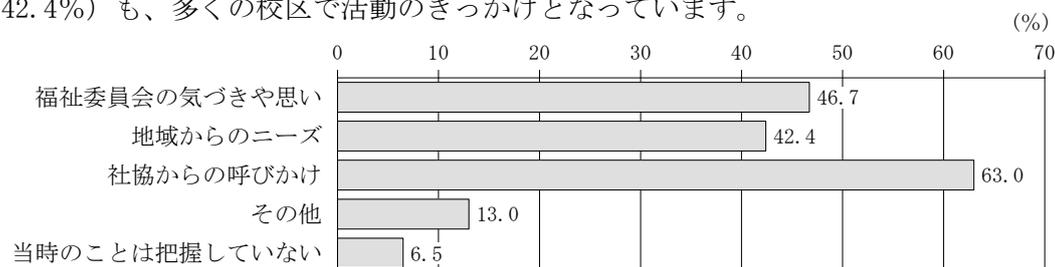
財源の確保が難しい校区は12.0%ですが、最近の物価高による活動費の高騰を課題と感じている校区は23.9%となっています。



(2) グループ援助活動の経過や、今後の意向について

問13 グループ援助活動をはじめた動機やきっかけはどのようなことですか（複数回答）

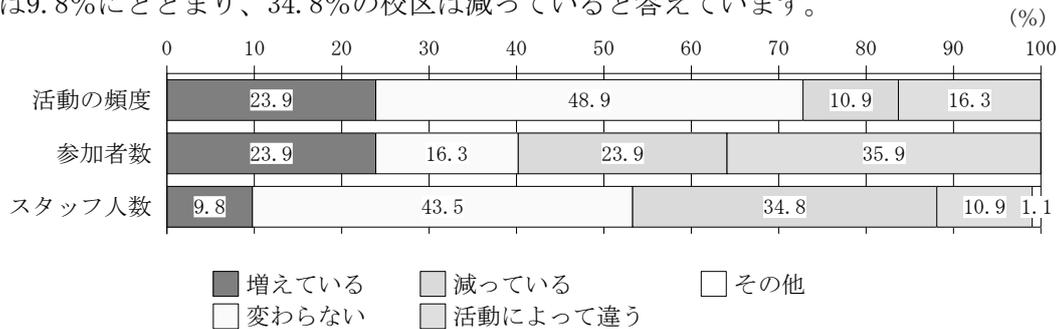
社協からの呼びかけをあげた校区が63.0%で、活動の大きなきっかけとなったことが示されています。あわせて、福祉委員会の気づきや思い（46.7%）や地域からのニーズ（42.4%）も、多くの校区で活動のきっかけとなっています。



- 問14 グループ援助活動を実施する頻度は変化していますか
 問15 グループ援助活動の参加者数は変化していますか
 問16 グループ援助活動のスタッフの人数は変化していますか

グループ援助活動の頻度、参加者数、スタッフ人数の変化をたずねました。いずれも、活動によって違うと答えた校区が少なくなく、校区で取り組んでいる活動によって回答に差が生じていることも考えられますが、全体で見ると、頻度は増えている校区が23.9%で、減っている校区（10.9%）よりもかなり多くなっています。

参加者数は増えている校区が23.9%、減っている校区が23.9%と同じ割合ですが、活動によって違うと答えた校区が35.9%と多くなっています。一方、スタッフが増えている校区は9.8%にとどまり、34.8%の校区は減っていると答えています。



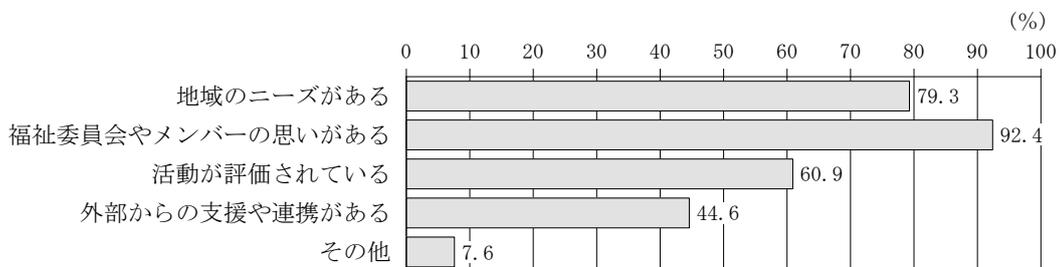
- 問17 グループ援助活動へのコロナ禍の影響は解消されてきましたか

59.8%の校区は解消されてきたと答えています。解消されていないや活動によって違う（いずれも18.5%）と答えた校区もあります。



- 問18 グループ援助活動を続けられている要因は、どのようなことだと考えますか（複数回答）

福祉委員会やメンバーの思いがあることを92.4%と大部分の校区があげています。また、地域のニーズがあることを79.3%があげるとともに、活動が評価されていること（60.9%）や外部からの支援や連携があること（44.6%）も、活動の継続を後押ししています。

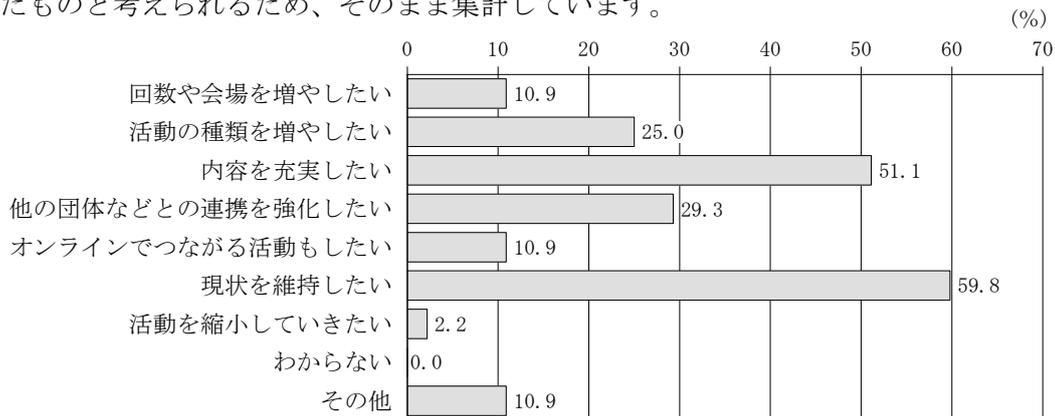


問19 グループ援助活動について、今後、どのようにしたいと考えていますか（複数回答）

活動の拡充については、内容を充実したいと答えた校区が51.1%と多く、活動の種類を増やしたい校区が25.0%、回数や会場を増やしたい校区と新たな活動の方法としてオンラインでつながる活動もしたいと答えた校区が10.9%でした。

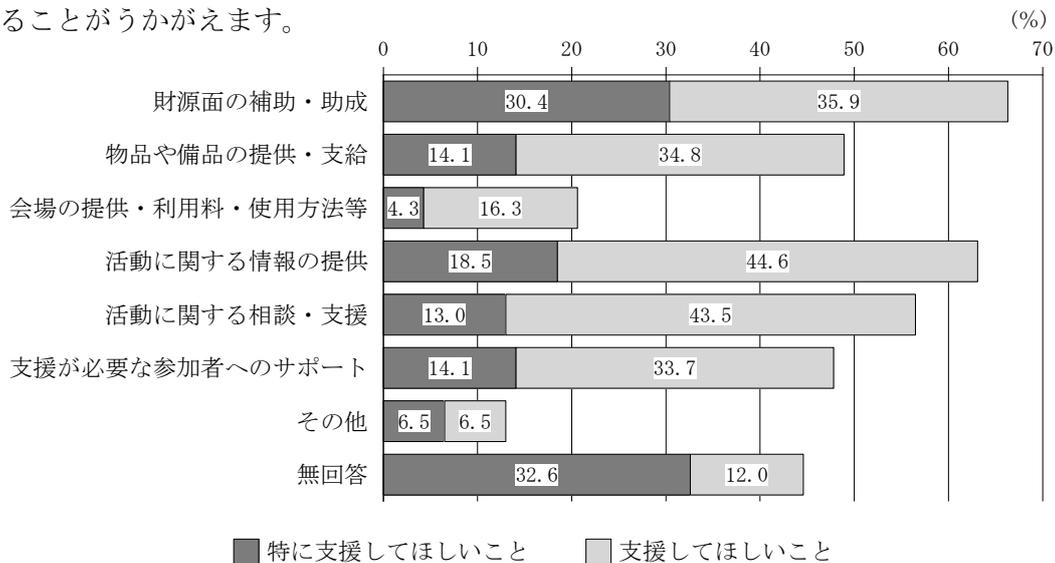
また、活動をすすめるうえで、他の団体などとの連携を強化したいと答えた校区も29.3%にのぼっています。

一方、59.8%の校区が現状を維持したいと答えています。この選択肢は、活動を拡充または縮小する選択肢とは重複しないことを想定していましたが、多くの校区が拡充と現状維持の両方に○をつけています。これは、問12や問16で示されたように、スタッフ人数が減ったり固定化、高齢化しているなかでも、活動は維持していきたいという思いが反映されたものと考えられるため、そのまま集計しています。



問20 グループ援助活動を継続、発展させるうえで支援してほしいことはどのようなことですか
また、特に支援してほしいことはどれですか（複数回答）

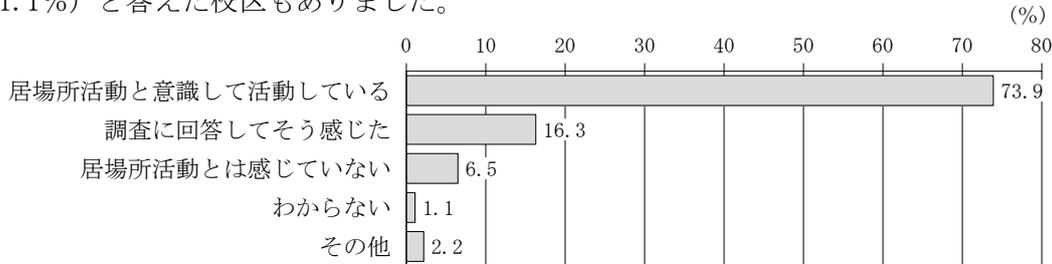
【支援してほしいこと】と【特に支援してほしいこと】をあわせると、財源面の補助・助成を66.3%と最も多くの校区があげ、そのうち、30.4%は【特に支援してほしいこと】としてあげています。ついで、活動に関する情報の提供を63.1%、活動に関する相談・支援を56.5%、物品や備品の提供支援を48.9%、支援が必要な参加者へのサポートを47.8%の校区があげ、支援が必要な参加者への対応もグループ援助活動の大きな課題になってきていることがうかがえます。



(3) 居場所活動（グループ援助活動）の連携について

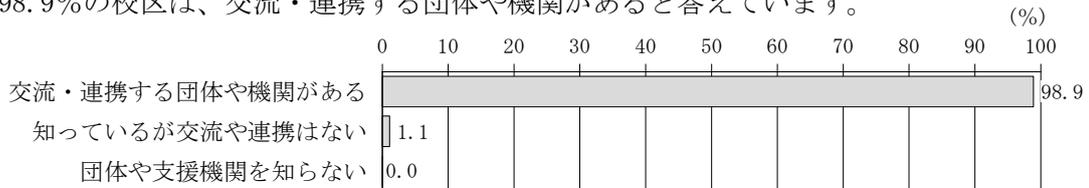
問21 堺市社会福祉協議会は、校区福祉委員会が行われているグループ援助活動を「居場所活動」だと考えていますが、貴福祉委員会ではどのように思われますか

居場所活動だと意識して活動している校区が73.9%で、今回、調査に回答してそう感じたと答えた校区も16.3%と、多くの校区が、居場所活動としてグループ援助活動をすすめることに同意しています。一方、居場所活動とは感じていない校区（6.5%）やわからない（1.1%）と答えた校区もありました。



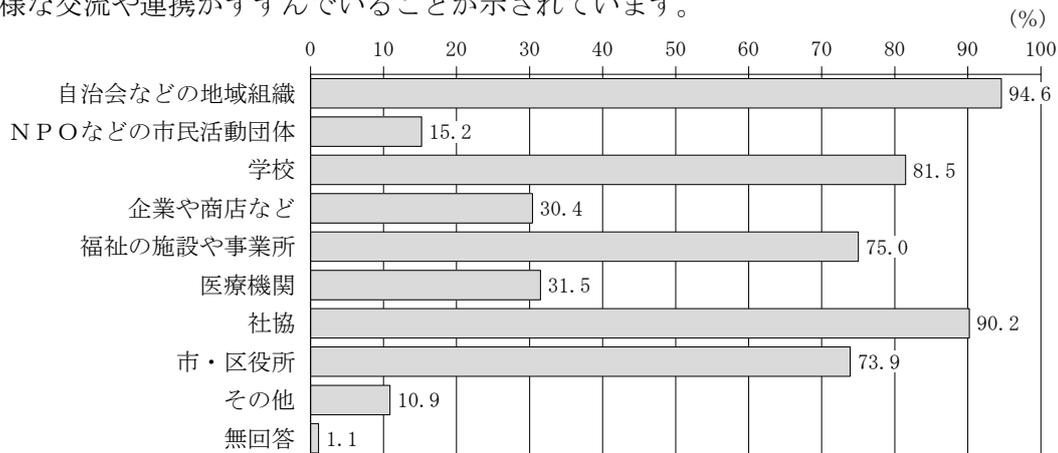
問22 貴福祉委員会では、居場所活動を行っている団体や活動を支援する機関などと交流や連携がありますか

98.9%の校区は、交流・連携する団体や機関があると答えています。



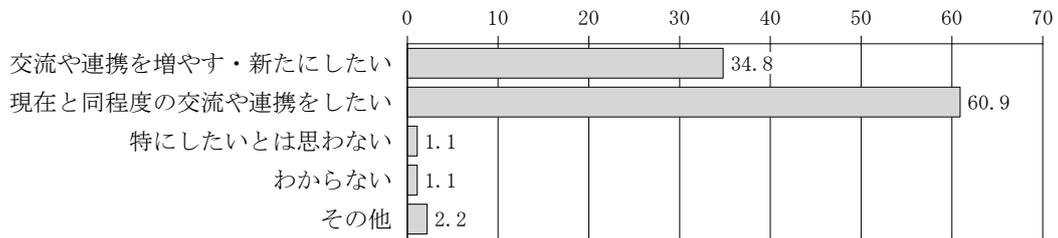
(交流・連携している団体)

交流・連携している団体・機関は、自治会などの地域組織を94.6%、社協を90.2%、学校を81.5%、福祉の施設や事業所を75.0%、市・区役所を73.9%と多くの校区があげていますが、医療機関（31.5%）、企業や商店など（30.4%）、市民活動団体（15.2%）など、多様な交流や連携がすすんでいることが示されています。



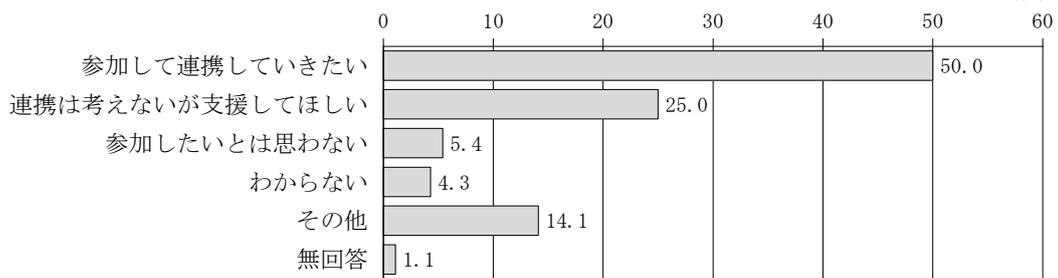
問23 居場所活動を行っている団体や支援機関との交流や連携について、今後どのようにしたいですか

今後も、現在と同程度の交流や連携をしたいと答えた校区が60.9%と多いですが、交流や連携を増やしたり、新たにしたいと答えた校区も34.8%でした。



問24 堺市社会福祉協議会は、さまざまな市民の「居場所」のニーズに応えるため、多様な居場所活動（グループ援助活動）を行われている団体や支援機関等の連携や支援に取り組めます。貴福祉委員会は、この取組への参加について、どのように思われますか

社協の取組には、50.0%の校区が参加して連携していきたいと答えています。また、連携は考えないが支援してほしいと答えた校区は25.0%です。参加したいとは思わないと答えた校区は5.4%と多くはありませんが、わからない（4.3%）や、その他（14.1%）の欄に「内容による」などと記載された校区もありました。



(4) 活動を通じて感じている地域の状況などについて (記述回答の要旨)

問25 貴福祉委員会の活動を通じて感じている地域の課題がありますか

① 活動の継続に関する課題

【後継者の不足】

- ・次世代の育成
- ・現役世代が現役世代を支える必要あり
- ・子どもが少ない。小学校ほぼ各学年1クラス。
- ・若い人のボランティア募集
- ・活動を立ち上げていく上での代表者となる人がいない
- ・若いボランティアいない
- ・子ども少ない
- ・参加者、ボランティアの高齢化が進んでいる。
- ・ボランティアの高齢化
- ・少子化
- ・府庁と相談し3割は若い世代を入れると回答を得られたが、若い世代を入れるには収入条件の改善が不可欠な状況があり、割増家賃策などの陳情書を府に提出している。
- ・活動の担い手であるボランティアの高齢化による減少、新たな若いボランティアの確保が困難。
- ・若い世代が入ってこない
- ・参加者・スタッフ共に高齢化がすすんでいること
- ・若い方の自治会への未加入によって、裾野が広がらない。
- ・(現状) 高齢者の参加は多いが今後 (5年後、10年後どうなるか。若い世代の参加も少ない)
- ・スタッフの高齢化
- ・活動スタッフの高齢化・固定化
- ・皆さんは毎年歳をとられ、だんだんと仲間が減少して行くことでいかに続けていただければいいか。これからの問題と考える。
- ・若い年代層の地域住民を活動に結びつけるしかけ
- ・地域活動のボランティアスタッフの高齢化
- ・ボランティアの高齢化、固定化。若いスタッフが気軽に活動に参加してもらうにはどうすればいいか。
- ・新しい(次世代の)担い手がなし
- ・スタッフの高齢化(65~70歳代が少なく80歳以上になっている)
- ・若い世代の方との接点
- ・高齢化による担い手不足
- ・ボランティアの高齢化、共働きなどによる若年層の人手不足
- ・少子高齢化
- ・次の世代の担い手づくり
- ・地域の役員になってくれる方がいない。
- ・後継者がいない
- ・若いスタッフが集まらない
- ・ボランティアが増えない、引き継いでくれる人がいない。
- ・団地の建て替えにより、住民が減っている。一方で新しい住民が入ってこない。役員の方も引っ越しをしてしまう。
- ・地域住民の高齢化から、ボランティアも高齢化してきている。(働く世代年齢が高くなってきている。)

- ・スタッフの高齢化、若い世代への世代交代ができない。
- ・福祉委員の高齢化
- ・参加者・福祉委員会共に高齢化。委員は、単位自治会から抽選等で選出。短期の任期で交代するためボランティア意識に欠ける嫌いあり。また、若い人が選出されても仕事世代なので活動に参加できない。
- ・若い女性が活動してくれるのは子ども会役員の人達である。また講演会にはなかなか若い人達には参加してもらえない。これも時代の流れか（共働きの多い）。興味あるイベントを企画すべきではないか。

【担い手の不足】

- ・参加者、スタッフが固定されている。それが高齢化してきており、若い世代の担い手がいない。イベント時は参加・手伝いあり。
- ・新しい参加者増えても、古い方が施設入所などで減り、プラマイゼロ。
- ・集会所の開放型サロン新たにやりたいが使用料とスタッフの負担が課題。
- ・人口減少、高齢化（スタッフ含めて）、スタッフが少ない。
- ・現在高齢化率が30%を超え、今後その比率や独居老人の人口は増加していくことになり、現状の福祉委員会活動では限界を感じる。
- ・高齢化の為活動にも限度を感じております
- ・高齢者においては当番等ができない理由で自治会退会されます。若い世帯においては元々自治会に加入されない。グループ活動で特に子育て支援活動の参加者が減っている。
- ・担い手不足（発足から20年近くメンバーがほとんど変わっていない）
- ・ボランティア人数の減少
- ・人口減少→今後は分譲の宅地となる予定（団地とりこわし）
- ・担い手不足（1年任期）、年2回の大きなイベントは特に不足
- ・V0スタッフの人員不足
- ・担い手不足で民生委員の負担が年々大きくなっている
- ・男性のスタッフが少ない
- ・地域の担い手が少なくなっている
- ・企画書、活動を起こす人が限られる
- ・活動の担い手が少なくなっている。
- ・ボランティアの減少
- ・一人の役員さんに負担がかかっている。
- ・平日のスタッフの確保が困難。（現役世代のスタッフが多いため）
- ・高齢化、現役世代のお手伝いが難しい。
- ・活動の減少（男子達の子育てサロンが×）
- ・スタッフの減少（若いスタッフが生まれない）
- ・ボランティアが増えない。
- ・手伝ってくれるスタッフがいらない。
- ・高齢者が増えているが、お世話する福祉役員、スタッフが減って来ている。
- ・福祉委員のなり手が少ない

【参加者の減少や固定化】

- ・参加者が固定化。
- ・サロンの参加人数がコロナ禍で特に減り、課題。6, 70代ぐらいの高齢者が新規で参加して欲しい。
- ・コロナ禍により喫茶への参加者の減少（赤字の拡大）。
- ・参加される方々が固定している。幅広く周知していますが、広がらない。

- ・参加者が固定されている。
- ・活動の広がり難さ。参加者が固定化されている。
- ・参加者固定しがち
- ・活動に参加されていた方が、参加しなくなり、参加者が減った。
- ・参加者は常に同じ方である為に、多くの参加者に来て頂くには「どのようにすればいいのか」との課題
- ・新規の参加者がいない（高齢者一方）
- ・参加者も固定化している
- ・参加者が固定されている。戸建てエリアの参加がなく、情報が入りにくい、連携しにくい。
- ・長年参加している人達で、それぞれグループ化が感じられ、新しい仲間として入りにくいのではとも思える。

② 地域コミュニティの変化に関する課題

【自治会加入率の低下】

- ・自治会加入率が低い。
- ・自治会に加入しない。
- ・自治会ばなれ
- ・自治会への加入率が低い。
- ・自治会離れ（高齢者が増えている、連れ合いが亡くなることによる意欲の低下、緊急時の対応など）
- ・自治会加入率の低下
- ・自治会加入の減少のため福祉活動の広がりが少ない。
- ・地域や町会の繋がりが希薄。昔は困ったことがあったら町会長に相談していたが、そのような仕組みがなくなってきた。自治会離れ。
- ・新しい住居が建ち校区外から人が流入することが増えているが、自治会に加入していないため、人の把握が難しい。（例）賃貸物件に住んでいる人。災害が起きたときに人の把握ができていないと、援助が難しい。
- ・新しくマンションが建ち、多くの人校区に住むようになるが、自治会加入は少なく、地域の繋がりが希薄になる。

【人間関係の希薄化】

- ・ワンルームマンション多い、分譲あまりない。
- ・ボランティアの意識が薄れている。
- ・福祉委員会の活動に無関心層の方がいる。
- ・参加者の意欲の低下、つながりの低下
- ・互助の精神が消えてきている。つながりを維持することが大変。
- ・老人会の組織解体
- ・核家族化、集合住宅の住民は隣近所の顔を知らない。挨拶しない。
- ・人と人との繋がりが希薄。→昔の近所の繋がりが、助け合いが再びつくることができるように地域活動をしている。
- ・隣、近所の繋がりが希薄となる。
- ・他者や外に興味、関心を持たない人が増えている。（年代を問わず）

【地域活動への関心の低下】

- ・活動への積極的な参加が少ない
- ・地域への関心が低い人が多い
- ・自治会や福祉委員会活動に対して興味・関心が低すぎ、委員会などから関わっていかなければ

ば参加してもらえない。しかし人の数として対応しきれない。又、反応少なく嫌事を聞くとやる気が下がる。

- ・若い世代の地域への関心がやすい。
- ・地域に関わる人が少ない
- ・地域活動に参加したくない人がいる。そんな人たちはどうしたらいいか。

③ 生活環境について

【地理的制限】

- ・参加者の移動課題（距離問題）
- ・買いものに困る
- ・買い物ができる場所が、近くだと品揃えが悪く、普通は遠くの店に行く。しかし高齢になると移動が困難になり、近くの店でがまんしなければならない
- ・地域の高齢化と坂などの起伏による居場所への参加し難さ。
- ・高齢化に伴う移動困難、坂も多い。
- ・地域内は坂が多いのでコミュニティバスの様なものが必要になるのではと思います。
- ・広すぎる校区（各町会で実施しないと活動に参加できない。遠い。）

【地域の活動拠点】

- ・活動場所（拠点）広めのところがない。
- ・会館の場所が校区の端に偏っているため、遠方の方は参加できない。
- ・小学校が避難所になっているが設備が整っていない。
- ・地域会館がない校区なので、活動の拠点がなかったことが一番大きな課題になっている。

④ 支援体制について

【高齢者に関すること】

- ・高齢者の増加
- ・地域住民の高齢化
- ・高齢化。外に出れない人が増えてきている。そういう人。ボランティアの方。
- ・老人会の活動が活発ではない
- ・サロン等の参加者が家を出ることが大変になっている
- ・高齢者イキイキサロンの内容のまんねり化
- ・地域住民の高齢化とそれに伴う孤立化。（自治会脱退など）
- ・単身・高齢者の見守り把握はできているが、支援を希望しない人がいる
- ・単身・高齢者が増えている
- ・高齢者の居場所がもっと必要。
- ・住民の高齢化が進んでおり、目配りがより必要に感じる。
- ・高齢化、介護サービスを受ける必要のある方が増えてきている。
- ・コロナ禍で弱った人が増えた。
- ・高齢者の方々が弱っている
- ・高齢者が増えている。
- ・高齢化、独居
- ・高齢化、外に出にくい人が増え、参加しにくくなっている。
- ・高齢化（老人クラブの解散が多い）
- ・独居高齢者が困ったとき、課題を持ったときにどこに相談したらいいのか分からない。
- ・当マンションの居住者様は若い世代は少なく子育てを終えられた世帯、子供さんが大きい世帯が多く今後、居住者様の高齢化が進むと思われる。どんな問題がでてくるのか、どんな

支援が必要なのか、孤独にならないように考えていかないといけないと思います。

【子どもに関すること】

- ・学校が子ども食堂のアナウンスをしてくれない。
- ・学童帰りの子どもは、子ども食堂を利用できない問題→学童帰りの寄り道禁止ルールあり
- ・子ども食堂（夜型）に戻したとしても、家までの送りの担い手がいない（これまでの担い手がコロナの間におとろえたため）
- ・保護者との教育観の違い
- ・校区で学童保育の場所がたりていない一日でも早く対処して欲しい。
- ・学校や学童保育に行けない子どもが増えている
- ・日常的な子どもの居場所がのびのびルームに集中、不足している。
- ・子育て世帯が増えているが、つながらない。
- ・だんじり等、地域に根づいた、伝統的な行事がなく、子どもを通じたつながりに欠ける。
- ・子育て世帯、地域の子どもに対する支援
- ・就労と子育ての両立
- ・多世代交流が少ない
- ・子どもの地域への愛着形成、社会性の醸成
- ・子育てサークルの世話役がいない。→民生委員に負担が増える。子育てサークルの参加者数も減っている。
- ・子ども数が増えないため、イベントや行事をしても子どもが参加しない。ポートボールやフットボールのチームもなくなってしまった。（放課後塾へ行くため。）

【周知・広報】

- ・情報が行き届かない。
- ・高齢者に呼びかけたいが、どこに住んでいて、どういう状況かわからない。守秘義務で住民の状況が把握できない。
- ・宣伝活動をもう少ししたらよいかなど思っています。当日の放送はしていただいています、張り紙等したら皆様に多少出席して頂けるかな…。気軽に開かれたふれあい喫茶でありたいと思っていますが…。中々新しい方が来にくいのかな…とったりします。
- ・小地域ネットワーク活動の行事開催の周知方法。自治会会員のみの行事と思われる人もおられる。
- ・活動のPR不足（校区新聞を作っているが、ほとんどの住民が読んでいない）
- ・家にこもっていたり、地域活動に目的を持ってない人に対して、どの様に人と人をつなぎ、参加してもらえるように情報をどう発信すれば良いかと悩む。

【アウトリーチの必要性】

- ・活動につながっていない方がいる。
- ・本当に支援を必要としている人になかなか届けられていない。生活しづらさを抱えている人、つながりのない人ほど参加してほしい。（介護サービスにもつながってほしい）
- ・校区全体まで支援が行き届かず、住民全てに周知できず、参加して欲しい人が参加できていない。
- ・見守りが必要な人を把握するのが難しい（高齢者、子育て世帯）
- ・福祉委員会として他の支援者を把握しきれない。
- ・高齢者（顔の見えない地域活動に来ない方たち）をどうやって捉えるか。

【外国籍の方との関わり】

- ・単身の外国人労働者が増えている
- ・外国籍の地域住民の存在（特に若い世代）
- ・近年、外国籍の住民（子育て世代）が増えているように感じる。制度についての説明や、交

流の場への案内が難しい。

- ・外国籍の住民が増えている。経済的に困窮していないか、必要なら子ども食堂の設立も考えている。但し実情把握してから検討。
- ・公園（分譲マンション）に外国籍の方が多く住むようになった。そのため、福祉活動が進まないことや自治会加入が減ること。

【連携体制】

- ・自治会（単位）の自治会員が福祉委員会に関心がない。
- ・自治会がお元気ですか訪問活動対象者のリストアップをしない。
- ・自治会との連携がとれていない（理解してもらえない）
- ・校区全体としての連携・役割分担

⑤ その他

- ・精神疾患のもつ方に対する偏見が強く感じる。
- ・村の意識が強く、介護保険など利用する人が少ない。（悪く思われてしまうことを気にする。）
- ・空き家問題
- ・本部総会に出席して、他地区の活動を見聞きましたが人の花は美しいと思い、私達も校区でがんばっています。
- ・コロナ前の活動に戻すのが大変
- ・見守りが必要な人が増えている
- ・校区内の町会がそれぞれで地域の取り組みを行っているメリットは大きいですが、会場規模や町会の違いにより取り組めないこともある。
- ・ICTの活用も検討しているが、個人情報の漏洩やウイルス感染などリスクもある。
- ・地域については大きな課題は感じていない
- ・今後、地域の様子が変わり、新たな転入者も増加する見込。
- ・各グループで課題解消している
- ・福祉委員会はボランティアグループに依存
- ・他の地域の方との交流が希薄なことが難点
- ・福祉委員会として組織的に活動できていない。多くの委員が1年で代わってしまうため、皆で相談して決めるということが難しい。
- ・ボランティアの高齢化もさることながら、無償ボランティアは私たちが終わりだと思います。今後は有償ボランティアを考えていくべきだと思います。
- ・ボランティアをまとめるリーダーシップ、集める力！
- ・福祉委員のレベルupを図ること（研修会等の開催を望みます。）
- ・校区を6地区に分かれて活動している時が（いきいきサロン・ビューローなど）地区の大小があり、統一して活動する事が難しいです。
- ・校区は広範囲ですが、社協を中心に情報交換を密にして活動を続けたい。
- ・物を買って与えている地域があるもっと皆で協力する事を考えてほしい。

問26 貴福祉委員会の活動を通じて感じている地域のよい点は、どのようなことですか

① 活動体制について

【関係機関との連携】

- ・企業と自治連との連携。防災は次のステップ。
- ・子育てが落ちついた元サロンの参加者が次の担い手としてつながっている。PTA、子ども会、人のつながり。世話になったので、次は世話する番。
- ・民生委員＝福祉委員会ボランティア（実働部隊）のため幅広く活動できる。組織的には自治連も福祉委員会だが、現状は民生委員が中心。
- ・自治連との関係良好。
- ・自治会と福祉委員が一体となって動いている（会長、副会長が同一）各町会長も福祉委員として認識している。
- ・少林寺の伝統として、自治連との一体的活動推進のため、活動が活発。
- ・自治会との連携が良い状態である。
- ・自治連合会・民生児童委員会と連携しての行事開催が行なわれています。
- ・地域が一体になって福祉活動に取り組んでいる
- ・校区内の様々な団体の連携がとれており、それぞれ活発に活動している（老人会以外）
- ・他校区や他区からも参加者やボランティアスタッフが来られている
- ・地域の各種団体の連携が強固である
- ・各単位自治会の福祉委員会活動への理解がある
- ・自治会、民生委員会、老人会等とのつながりが強い
- ・連合自治会、福祉委員会、民生委員会の協力体制がしっかりできている。
- ・学校園（保育園～大学）との交流がある。
- ・福祉委員会以外とのネットワークが広く、密である。
- ・近くの障害事業所とよく交流できる。
- ・自治連、福祉、民生の連携が良い、スムーズ。
- ・自治連、福祉、民生が一体になって活動にとりくんでいる
- ・福祉委員会は連合自治会、民生委員会との連携で成り立っています。地域は「ひとつ」との思いで頑張ってくれています。
- ・福祉委員会とボランティアと上手く連携が取れている。
- ・ボランティアグループのチームワークが良い。
- ・自治連合会と一体的に運営している。
- ・小学校がとても協力的で校区の子ども見守り隊にお礼の会を開催してくれる。
- ・小学校から地域行事のお知らせを手紙として出してくれている。
- ・各種団体が福祉活動に協力的
- ・自治連合会と連携がとれている。
- ・サロンに青年団が手伝いに来てくれる。
- ・絆や連携ができています。（お祭りがあるから。）
- ・校区が福祉活動に対して理解がある。そのため、活動の場所を提供してくれるので、積極的に活動をすすめることができる。
- ・世代間交流の活動につきましても小学校等のご協力で毎回多くの児童の参加をいただいています。
- ・コロナ禍で中断していたが、学校とも連携し合い世代間交流を活発に行なってきた。

【情報網】

- ・住民同士の顔がよく見える。住民情報が得やすい。
- ・きめ細かく、地域の実情を把握できている（民生委員、児童委員活動等で）

- ・民生委員が情報を把握しやすい
- ・回覧板で「ボランティアスタッフ募集」を募り。若手が手を挙げて来てくれた
- ・回覧板を回す時 ポスト投函ではなく声掛けしている。
- ・団地からの参加者が多く、一体感がある。参加者間で情報交換しやすい
- ・コミュニケーションがとりやすい。
- ・周知が行き届いている。
- ・地道な周知、啓発活動→活動参加に繋がっている。

② 活動の維持・充実について

【人間関係】

- ・参加者・スタッフが固定化の反面、関係は良好で活動継続につながっている。(一長一短)
- ・やると決まれば一丸となって実行する！（福祉、自治、民生 風通しがよい）
- ・子どもたちの学年を超えての交流
- ・昔から住んでいる人が多く、近所づきあいあり。向こう三軒両隣。
- ・公園で会ったり各会合で活動、小規模の活動が多く地域での知り合いが多い。
- ・世代間交流
- ・連帯意識がある
- ・横のつながりグループがいくつもあって、そのつながりで参加してくれていた。昔から住んでいる人多く、仲の良い方が多い
- ・ボランティアの人と人とのつながり
- ・地域のつながりが強い。
- ・地域の交流が良くなっている。
- ・活動を通じて色々な方と顔見知りになっていき地域の輪が広がっていると思う。
- ・小さな団地なので顔馴染みの方が多い
- ・人と人との連携（地域内の連携）
- ・特に秋まつり（だんじり）を通じての地域のつながりがる。
- ・多世代の交流が強み
- ・向こう三軒両隣が見えている、つながっている地域
- ・住民みんなで取り組む居場所活動・食事なども持ち寄って集まれる場所、それは居場所ではなく、人であっても良いが、あそこに行けば安らぎ（安心）がある。つながりがあること
- ・何々（なかなか）、人と人のおつき合いがむつかしい方もおられるがお話出来ることは非常によい。
- ・世代を超えてつながれる機会が多い
- ・だんじりでつながれるコミュニティ（青年団、少年団）
- ・ボランティアスタッフ皆仲が良く雰囲気が良い。←ボランティア継続できる理由
- ・スタッフ同士の仲が良い
- ・ボランティアスタッフも参加者も親切な人が多く、とても雰囲気が良い。トラブル等もほとんどない。
- ・スタッフの結束力
- ・地域内が密接
- ・地域住民同士の仲がいい。
- ・助け合い（互助）の気持ちが強い。
- ・まちびらきから50年以上経過し、古くから長く知っているつながっている人がいる。子育てを一緒に経験したなど
- ・助け合えるメンバーがそろっている。
- ・地域住民の繋がりが強い。

- ・輪が広がった、繋がりができてる
- ・旧村の繋がりが今でも人と人との繋がりが強い。自治連合会がしっかりしているため、災害が起きてもすぐに対応できる。以上の点からボランティア活動にも取り組みやすい。
- ・地域住民の繋がりがあり、絆が深い。
- ・参加者同士のコミュニケーション意識は、高いと思う。活動を通して友達の輪が広がっているように思われる。

【活動への積極性】

- ・参加者の意識高い。活動内容を考えてくれる。
- ・同じ人がいろんなボランティア活動をやっている。
- ・参加者が活動に対して積極的である。
- ・ボランティア部員が協力的。
- ・お互いの思いやりとボランティアを仕事と思って手伝ってくれている事
- ・若いスタッフの方が参加してくれている。皆さんが何かにつけ協力的に動いて助け合っています。
- ・各校区共に会員様方の努力は同じです。いやあんなめずらしいことしてくれているけれど私等の校区もこんなことしてるねと思います。
- ・活動をサポートしていただけるボランティアさんはよくやって下さいます。
- ・校区イベントは多数の参加者が来てくれる。そして役員になればアドバイス（考え）等を話してくれる。
- ・会長を筆頭に担い手不足の中、精一杯地域のためにより豊かな生活につながるように活動している。いきいきサロン、シアター、喫茶、食事会など会長自らが率直して活動に参加し、誰よりも汗をかく人。会長の人柄が地域の自慢。だから少ない人数でも皆協力的。
- ・様々ありますが福祉に理解があり、個人として協力していただける住民がおられること
- ・地域活動に協力的な住民が多い
- ・住民間のもめごともなく、地域活動に協力的であること
- ・地域活動の活性化が参加者だけではなく、スタッフにとってもよい影響を及ぼしている（世界がひろがる、様々な人に活動を手伝ってもらえる）
- ・スタッフが前向き
- ・人（ボランティア、参加者）
- ・地域活動に慣れられると長く参加して頂ける。
- ・高齢者がボランティアなどの役割を持てる。
- ・活動参加に前向きで協力的な住民が居る。（祭りの案内を出すと半数は参加してくれるなど）
- ・参加者が多い。
- ・スタッフが潑刺としている。
- ・地域の活動が理解されており、参画してくれている。
- ・現役世代のスタッフが多数。
- ・校区の行事や活動に高齢者、若い世代が参加している。
- ・活動しているスタッフがいきいきしている。
- ・老人会の方々がとても元気でスタッフとして動いてくれている。
- ・活動に参加する方が定着している。
- ・行事や地区の福祉活動を頑張っ行って下さいます。

【活動内容】

- ・訪問活動に力を入れている。（複数で訪問）
- ・対面で話を聞くことで、困りごとの相談に乗れ、包括、民生委員などの関係機関へつないでいる。

- ・いきいきサロンやいきいきモーニングにおいて、毎月異なる内容のイベント項目を実施することで、参加者は楽しみにしている。
- ・食事も手作り手芸などのサロンの内容も手作りにこだわっている。
- ・独りでいた人を行政や包括につなげたり課題のある家庭を支援につなげられたことがある。活動を通じて横断的な横のつながりができた。校区全体を見たときに比較的男性が参加できるプログラムが多い。
- ・他の校区と比べ、5ヶ所のわくわくクラブ（いきいきサロン）があり、近くの会場を選択することができ、参加者の増大につながっている。
- ・参加していただいている対象者の皆様は、ふれあい喫茶・高齢者イキイキサロン等満足して帰られます。
- ・町単位での活動が活発
- ・親切をモットーにきめ細かな支援ができています
- ・老人クラブ活動が特に活発に感じている。
- ・「ちょっと気になる」世帯を確認した際、地域の中でゆるやかに見守り、困ったときにSOSを出してもらいやすい形にしている
- ・福祉委員会はボランティアグループに依存している部分もあるが、校区の中で6グループで活動している為、より地域に密着して住民が参加しやすくなっている
- ・責任者を1人に決めず、数名の有志で工夫して運営していることもうまく継続している理由のひとつ
- ・民生委員の活動、役割が大きい
- ・ボランティアのメンバーが各担当毎になっているので少しは負担が少ないのかも。
- ・各町会（5町会）がしっかりしていて、それぞれに活動を展開。財力のある町会もあり、活動がさかん。
- ・気がねなく、集える場所になっている。
- ・地域の方々が気軽に挨拶をかわし、井戸端会議をしている。
- ・当初の予想より参加者が多くなってきた。

【楽しさの提供】

- ・行事の後は笑って、楽しさをしっかり感じて帰って頂くことを心掛けている。
- ・活動をする側がやりがい、楽しさを感じているところ。→結果、参加者も楽しんでいる。
- ・「いきいきサロン」「ビューロー」「ふれあい喫茶」等に参加された方が、口々に「参加してよかった」「楽しかった」「次回また来ます」と言っている点です。
- ・孤独にならず、近くの会館に歩いて行き、会話を楽しんでいます。

③ 暮らしやすさ

【生活環境】

- ・利便性が良い（駅、役所、HP、郵便局、消防、警察が近い）
- ・住みやすさ、スーパーマーケット等もあり環境の良さ。農地も多く、安全なのでウォーキング等もさかんで出かける方も多い（まち歩き）。今後、地域開発（発展）の計画もある。
- ・災害の被災リスクも少なく住みやすい地域であること
- ・利便性も高く、生活しやすい
- ・福祉施設の多さ。
- ・緑道や公園が多く、環境が良い。
- ・自然環境の良さを取り入れていきたい。健康作りなど
- ・高齢者にとって住み良い町。気楽に通える講座があったり買い物もしやすい。緑も多い。
- ・地下鉄の駅から近い立地で利便性が良い。そのため、人の流出が少なく、何世代にも渡って

住んでくれている。

- ・住みやすい。病院、電車、バス、買い物など行きやすいので高齢者でもひとりで生活しやすい。

【地域の活動拠点】

- ・会場の使用料がかからない。
- ・近くの会場に行ける。→参加人数多い 利点
- ・地域会館の立地が良い
- ・比較的地域会館の立地が良い
- ・すぐ近くで中心となる場所に大学や食堂がある。

④ その他

- ・祭りがあることで若い世代1クラスになるのかなー。3年間増えてきている2クラス。
- ・地域住民の性質（おしなべて穏やかな人が多い）
- ・元気な高齢者が多い
- ・住宅街であり トラブルや大きな問題が少ない
- ・地域が大きいからこそ、人材が何か行事ができる。
- ・少しずつ団地以外の住宅から子ども達も参加している
- ・風通しが良い。
- ・高齢者もいるが、若い世代、子どもも多く年代のバランスがとれている。
- ・旧村、新興住宅地がありバランスは良いと思います。

問27 貴校区で地域福祉の活動をすすめるうえで役立つこと（資源となるもの）や必要なことは、どのようなことだと思われますか

【人材】

- ・ボランティアの確保
- ・今まで出来たことが高齢になり（高齢者が増え）、出来なくなっているので、その部分をサポートしてほしい。
- ・福祉活動で今必要と思うのは人材でしょう。50～65才ぐらいの男性女性の力が考えが必要と思う時がある。
- ・ボランティアメンバーも高齢化していますが、メンバーのボランティア意識は高い。しかし、次の世代に引き継ぐ為の取り組みが必要。
- ・役員のなり手（現役員が長期に渡り任期を持たないといけない課題がある）
- ・「人」特に若い人の行動力、知識、技術が役立っている。ICTの活用や、校区のマスコットキャラクターの発案、運用など
- ・（アンテナをはっているが）地域活動に対する協力者がみつからない
- ・若い層の参加（福祉委員会役員・スタッフ共に）が必要
- ・マンパワー
- ・人（スタッフ、参加者）…スタッフ、ボランティアを増やしたい
- ・人手（担い手）（有償ボランティアとして担い手を募る、資金があればもっと活動できる、月に1回程活動や集会を継続していくこと）
- ・若い年代層のスタッフが参加しやすい、継続してもらいやすい仕組みづくり
- ・楽しさやおもしろさを持つ場所や人が欲しい。いきいきサロン等での講師役など
- ・人の力（ボランティア、参加者）
- ・福祉に携わる人、特に全体をまとめ引っ張っていくリーダー。

- ・次世代の参加者、スタッフが必要。(世代の連続性)
- ・やりがいを持って、意欲的に動いてくれる「人」
- ・ボランティアグループなど支えてくれる人材。
- ・有償ボランティア
- ・活動のアイデアを考えて実行してくれる人。
- ・自主的に動き、主体性を持ったスタッフ
- ・ボランティアの熱い思い(やりがい、生きがいとして活動してくれている。)
- ・スタッフの人のつながり
- ・人材。有償ボランティアなど人が協力しやすい環境
- ・大学生などの若い世代の有償ボランティア。
- ・スタッフの意識
- ・ボランティアの人材が多い地域でもあり、地域の輪や人材が大切である。
- ・スタッフの思い
- ・福祉委員の人材確保(ボランティア活動に興味のある方。やる気のある方)
- ・人的資源。
- ・力仕事を手伝ってもらえる方。

【人間関係】

- ・世代間の交流
- ・人との結びつき
- ・地域の活性化。防災、防災。
- ・高齢者の孤独化。犯罪や事故などを未然に防ぐために地域コミュニティが必要。
- ・昔は井戸端でご近所の方が集まってお話をすることが今では少ないと考えている。もう一度昔にもどっていただきたい。(自分が歳がいったと云うのではなく元気を出すことが大事であると考えること。)
- ・人と人との交流、あいさつできる環境づくりが必要と感じている
- ・夜店や花見等で多世代交流→今後もしていきたい
- ・参加者とのコミュニケーション
- ・ボランティア同士のちょっとした声かけ、気配りがモチベーションの維持に大切。
- ・人間関係を大切にすること
- ・世代交流の手段
- ・地域とのつながりやコミュニティ(幼い時から大人になるまで、ライフステージに合わせたもの)→祭りや青年団、自治会など。
- ・顔見知りになり、他の場所でも声をかけ合えられること
- ・地域住民のつながり
- ・人間関係。
- ・自治会加入
- ・地域に頼らなくても良いとの意識があり、自治会加入率の低下があるので地域の良さのアピールをする必要がある。

【関係機関との連携】

- ・企業との連携、防災、地元企業の見学、人的協力
- ・自治会の援助
- ・地域組織全体への意識啓発・連携強化
- ・近隣校区との連携
- ・専門的知識やそれを有する団体、機関との連携。
- ・地域内の各福祉施設や小学校、中学校、支援学校等、全ての団体で校区協議会を作り連携を

して助け合っています。校区にとっては全てが大きな資源です。人たちも含めて。

- ・関係機関（包括、保健C、社協等）との連携
- ・企業（プログラム提供）との連携
- ・校区内の団体の横のつながり（青指、民生など）
- ・学校との連携
- ・多様な主体との連携
- ・自治連合会、各種団体との連携や情報共有。
- ・在宅ボランティアグループ、立ち上げ当初から今までつづけてくることができたこと。ボランティア同士の仲が良い。団結力がある。「継続は力なり」
- ・社協と身近に話をする事ができる。

【活動環境の整備】

- ・公園にWi-Fi、モニター、設備が欲しい。
- ・ネット環境
- ・高齢者が聞き取りやすいマイクやスピーカー
- ・各活動行事の会場となる拠点がある。
- ・校区内の公園の管理・整備（雑草も多く、整備がおいついてないケースがある）※安全・安心に誰もが利用できる公園の整備・維持・管理
- ・公の会館などに誰もが立ち寄ることができ、そこに行けば落ちつける「自分の居場所」があること（町の喫茶店などでも良い）。普段の生活の一コマでいい。
- ・地域活動の拠点となっている会場の老朽化（会場の整備、拠点の充実）
- ・会場入口の段差解消。会場の広さ拡大（ムリと思いますが）
- ・地域会館の広い部屋（敬老会や成人の集いなどのイベントができる場所）
- ・災害時 避難所まで遠い
- ・地域会館が多く、利用する人も多い。集まった会館使用料で補助金が使えない福祉活動に活用することができている。

【情報提供】

- ・周知の大切さ。（より多くの人に知って頂く）
- ・校区内に子育て広場があり、子育て支援活動の告知ができる。
- ・活動を発信する力（ITスキル）
- ・若い年代層の地域住民が求めていることを把握し、発信したい
- ・若い年代層の住民を地域活動への参加に結びつけるためのノウハウ、情報提供
- ・住民の興味、関心を引く活動内容や広報。
- ・ボランティア活動の良さをアピールして欲しい。
- ・やって下さいという伝え方ではなく、思いがけない事がボランティアになるといった啓発をして欲しい。
- ・情報とコミュニケーション。
- ・ボランティアの声かけや言葉。
- ・情報発信（ホームページを活用）早い伝達

【スキルアップの機会】

- ・人「人に人がついてくる」そのためのスキルアップが必要
- ・福祉委員の経験
- ・他校区への見学・交流
- ・地域づくりの進め方を教えて欲しい
- ・学校教育（人権・福祉）
- ・福祉に熱心な人材の養成

- ・ITリテラシーの向上
- ・人権意識への興味、関心
- ・堺市以外でどんな活動をしているのか知りたい。

【活動内容の工夫】

- ・サロンのプログラムネタ。情報。
- ・わくわくクラブ等の内容の充実
- ・高齢者イキイキサロンで、次に何をしようかと悩みます。介護に素人のスタッフでは内容に困ってしまいます。サロンは地域の居場所、デイサービスのレクリエーション、医療介護防犯等の情報提供等、サロンの時間を遂行して下さる方々（資源）・専門職の方々を必要とします。福祉委員のメンバーだけでは、ネタがつき、おもしろみも少なくなります。
- ・福祉委員の活動について考える。
- ・地域活動のスタッフとして参加いただけるような興味ある活動を行なっていきたい。「居場所づくり応援グッズ」の充実をお願いします。

【活動参加のための支援】

- ・活動参加のための送迎。
- ・参加したくても参加できない方への移動・移送支援
- ・高齢者の会場への移手段
- ・高齢化が進む中、活動参加者の車での送迎。

【活動に必要な情報】

- ・ニーズがどこにあるか。ニーズを把握して応えていきたい。
- ・役所からいただいている「災害時 援助」の名簿からお元気ですか訪問の必要性の方をピックアップしている。
- ・支援が必要な方にお会いしたいときにまずはどこに連絡すればいいのかの情報。
- ・活動の情報
- ・地理的に広いので 住民の情報が把握しにくい
- ・ホームページで周知した内容のデータ（昔をふりかえることが出来る）

【活動費】

- ・活動費の支援があれば助かる
- ・財政面・物質的支援
- ・資金
- ・財源
- ・物価の上昇で、同じ資源で行事を行う事が出来なくなって来ている。

【その他】

- ・老人集会所管理しているが負担。委託してもらえたら。
- ・廃校になった小学校のリノベーション
- ・近くに体育館（空調が完備している。）があり、大きなスペースを活用して健康スポーツや健康測定などの総合的な健康福祉活動を展開することも考えられる。
- ・この問に対してすぐ税金と答える人が多いと思いますが私にはわかりません。
- ・長寿・健康増進のため地域の活動に興味・関心を持ってほしい
- ・住居専用地域のため店舗が少なく、買い物難民の問題が心配される。

問28 その他、堺市の地域福祉や活動に関するご意見があれば、ご自由にお書きください

【校区福祉委員会の運営に関すること】

- ・活動を継続できるようにしてほしい（マンパワー不足となった時）
- ・参加者やボランティアのニーズに応じた内容
- ・報告書などで、活動に関する事務的な負担が大きいため簡素化してほしい。
- ・校区福祉委員会の組織のあり方、自治連合会の傘下組織ではなく、福祉委員会が独自で幅広く地域全体を見ながら各組織の連携をすすめていく役割を待つことが重要
- ・地域活動の広報は現在の①年2回の広報誌（自治会員のみに配布）②ポスター掲示で行っていますが、活動に参加してもらうには（特に子育て中の若い世代＝次の地域活動の担い手）への情報発信が必要と思う。その為に校区のホームページを創りたいが、技術、お金がありません。堺市版モデルを作ってください、校区に展開したい。
- ・ボランティアに対する謝礼について少ないと言われたことがある。社協が間に立って「いくらぐらいか」など教えて欲しい。
- ・新しい活動を進めるならば高齢化した住民でもできる活動内容にして欲しい。
- ・困っている人の掘り起こしをどうやってしていくのか。
- ・今後有償ボランティアになっていくのでは。
- ・若い人が集まらない。
- ・ボランティア＝無償は難しい状況になっている。
- ・ボランティア保険は区全体や堺市全体で統一した方が良いと思う。サロンや活動ごと保障が異なると、差が出て問題になるのではないか。
- ・つながりハート事業の財源振り込みを4月頃にしてほしい。（今より早めてほしい。）
- ・大規模災害やコロナ等の流行病がおきたときの動き方や福祉委員会活動の基準をつくってほしい。
- ・ハート事業の補助金と訪問人数をひもづけるのは改善してほしい。（お元気ですか訪問活動について）
- ・福祉活動は福祉委員だけが行うと言う風な考えがあるが、社会全体で考えていく事が大切だと思う。
- ・いきいきサロンやビューローなどは校区で事務局により開催してほしい。小さい地区では福祉委員になってくれる方がなかなか見つかりません。福祉委員への活動を簡単にすれば、よいのではないかと思います。他市などは事務局がいろんな活動をされているようです。小さな地区ごとには行われていないと聞きます。
- ・今後も社協区事務所と相談しながら福祉活動を行なっていきたいと思えます。
- ・コロナで休止になっている「命の授業」を学校と連携し再開したい。
- ・区内他学区との人的交流を活発にする。
- ・キッズクラブの参加者は5名（子ども）程度であり、事故を想定して市民活動行事保険に加入したいのだが、最低20名の加入条件があり加入することができないので、何とか当該保険の加入条件の見直しを図るなど従事者が安心して活動することができるように検討してほしい。
- ・福祉委員を有償ボランティアにするなど検討してほしい。

【研修・スキルアップに関すること】

- ・子ども食堂円卓会議で「子どもたちへの教育について」をテーマとして取り上げて欲しい。
- ・いきいきサロンやいきいきモーニングの参加者を見ていると、ほとんどが女性であり、男性が少ない、男性の参加比率を高めるための方策について、ご教示願いたい。
- ・地域習い事などしている方に、発表の場を増したい。
- ・実社会用のDVD等の貸出をしてほしい。

- ・講演会・研究会の報告、または知識を深める会議が少ないように思われる。また高齢者自治会をこれからどのように運営していくのかアドバイスなど必要では。そしてIT技術（SNS）等をもっと活用することを広めることをお願いしたいと考えます。
- ・行政や社協から紹介された講座の申込み後に「受付完了」のフィードバックがない為、毎回申込者から連絡を入れている。受付済かどうかわかるようにするか主催者側からメール等にて連絡をするかしてほしい。
- ・研修等、継続して開催して欲しい。
- ・福祉に関係する講師を聞きたい。
- ・地域づくりの進め方を教えて欲しい
- ・活動に良い情報が欲しいが、役割や責任を求められると困る。
- ・校区内での活動状況等を話し合える意見交換会があれば良いと思います。例えばいきいきサロンの内容について他校区はどのようにされているか等をお聞かせ頂ければありがたいです。

【活動費に関すること】

- ・周年行事など地域への周知度アップに向けて開催したいが財政的に開催できないので、単発での補助をお願いしたい。
- ・物価高騰に対しての追加の助成、助成金の増額を願う。
- ・福祉委員会や自治会への助成金カットがない様にしてほしい
- ・イベントの補助費の削減に反対！（継続には資金と人出が必要）
- ・助成金が人件費に使えない
- ・財政面の支援を継続して欲しい。

【自治会に関すること】

- ・自治会加入の促進を進めて欲しい。（メリットをもっと打ち出すなどして！！）
- ・自治会の活動を生で見たい（たとえば朝早くから活動している所）
- ・自治会の加入率を高めたい。

【その他】

- ・「居場所」という言葉はマイナスイメージ→居場所がない人がいくイメージ、否定的、貧困イメージ。孤食がない状態をつくる。あそこに行けば誰かいる。
- ・アンケート集計・結果を必ずフィードバックして欲しい。
- ・現状の市の支援を活用し、校区の活動を真摯に取り組んでいきたい。
- ・堺市の若い職員がもっと地域に関わってほしい。（ICTや技術を活かした活動などでも）
- ・堺市の地域福祉についてはきめ細かく取り組まれていると感じている（特に意見はなし）
- ・行政の取組などにもって住民の力を。関わりを持たせてほしい。
- ・居場所活動について「世話する人」「される人」の差がなく、みんなで一緒に取り組む様になってほしい。
- ・社会福祉協議会の職員は皆さん献身的な方が多です。又、やさしいです。相手の方の気持をよくくみ取って業務を進められることに頭がさがります。
- ・若い人（65～70才くらいまでの人も含む）が地域福祉活動に参加しやすい仕組み
- ・高齢者向けの地域福祉を継続、拡大していくことが大切
- ・人への関心度を高めていくには、自分のことしか考えない人が多い？
- ・良くしていただいている。
- ・地域住民が身近な場所で、受け手や担い手と区別せず、気軽に参加できるようにアピールして欲しい。
- ・子ども、子育て支援取り組みが重要！！
- ・校区で起こる事は、校区でないと解決出来ないと思うので、地域で頑張りますが助けていた

だきたい時には、堺市や社協、包括支援センター等に相談をしますのでどうぞ宜しくお願い致します。区社協のかたには、お世話になっています。ありがとうございます。今後も宜しくお願い致します。

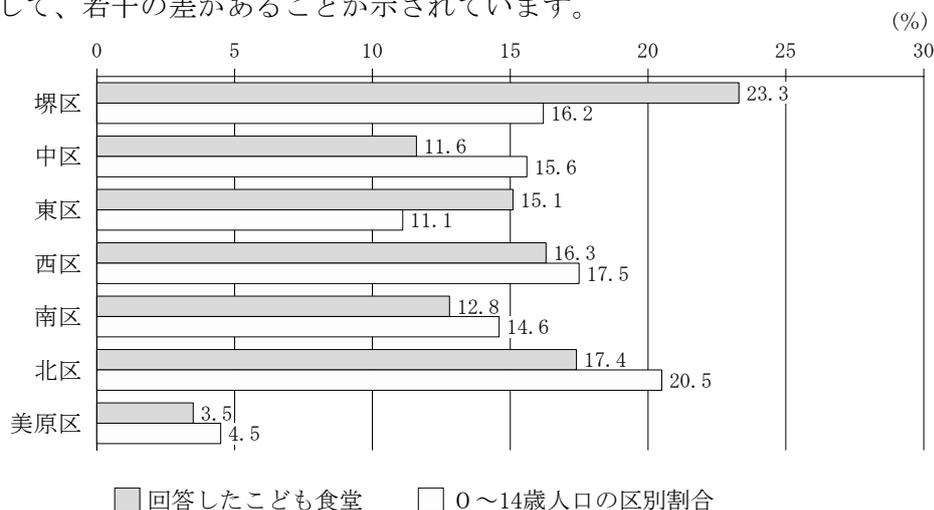
- ・防災、災害が起きたときに地域会館を避難所として使いたいと考えているが、基準や認可を出してほしい。
- ・堺市長にぜひ福祉活動を見に来て欲しい。
- ・市の福祉施策が少なくなった。

3. 子ども食堂調査の結果

子ども食堂を開設している区

回答した子ども食堂が開設されている区別の割合は下のグラフのとおりです。

活動の規模などが異なるため単純な比較はできませんが、0～14歳の年少人口の区別の割合と比較して、若干の差があることが示されています。

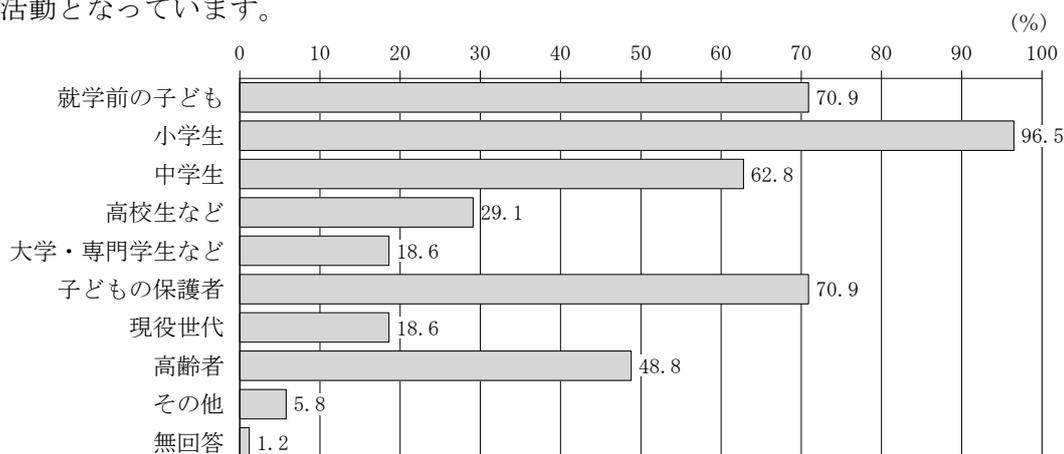


(1) 現在の子ども食堂の活動について

問1 どのような人が子ども食堂へ来ていますか（複数回答）

小学生が96.5%で、「その他」として全世代を対象などと回答した団体なども含め、ほとんど全ての子ども食堂に参加しています。また、就学前の子どもは70.9%、中学生は62.8%、高校生などは29.1%と、多様な年齢の子どもが参加しています。

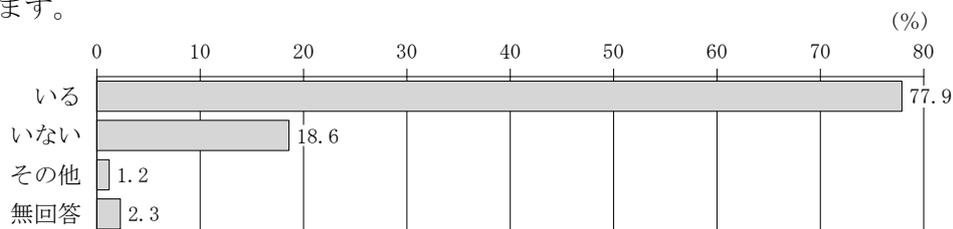
また、子どもの保護者も70.9%で参加していることに加え、大学・専門学生と現役世代がいずれも18.6%と若い世代が参加する一方で、高齢者も48.8%と、幅広い世代が参加する活動となっています。



問2-1 子ども食堂の参加者の中で、活動を手伝ってくれる人はいますか

77.9%と多くの子ども食堂で、スタッフ以外で活動を手伝ってくれる参加者がいると答えています。

手伝いの内容は調理、配膳や会場の準備、話相手や学習の支援など、多様なものがあげられています。また、手伝ってくれる人として学生や高齢者のボランティアが記載された団体も多く、前問の回答とあわせてみると、ボランティアも参加者と位置づけていることがうかがえます。

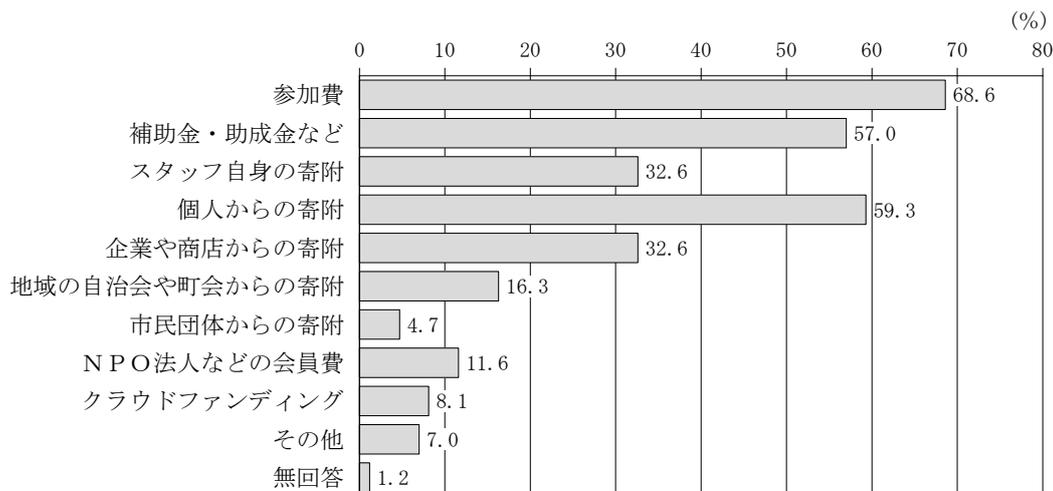


問3 子ども食堂の財源はどのようなものですか（複数回答）

財源のひとつとして、参加費をあげた団体は68.6%です。

補助金・助成金は57.0%と半数あまりにとどまり、個人が59.3%、企業や商店が32.6%、地域の自治体が16.3%、市民団体が4.7%と、多様な主体からの寄附が多く、多くの団体の財源となっており、スタッフ自身が寄附している団体も32.6%となっています。

また、新たな寄附の手法として、クラウドファンディングを8.1%が実施しています。

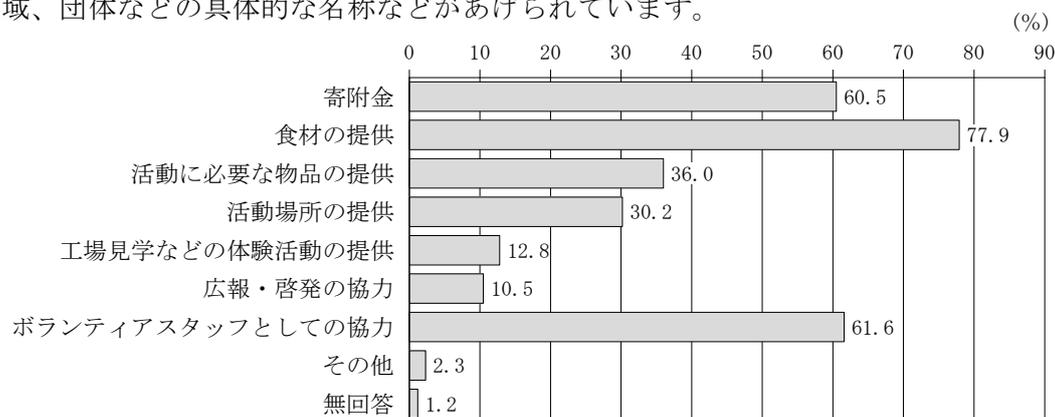


問4-1 子ども食堂にどのような応援を受けていますか（複数回答）

前問でも示されたように、寄附金を60.5%の団体が受けており、さらに、日常の活動を行うための食材を77.9%、物品を36.0%、活動場所を30.2%の団体が提供され、ボランティアスタッフとしての協力も61.6%の団体が受けています。

これらに加え、活動のプログラムを充実するうえでの体験活動の提供や、広報・啓発の協力など、多様な応援を受けています。

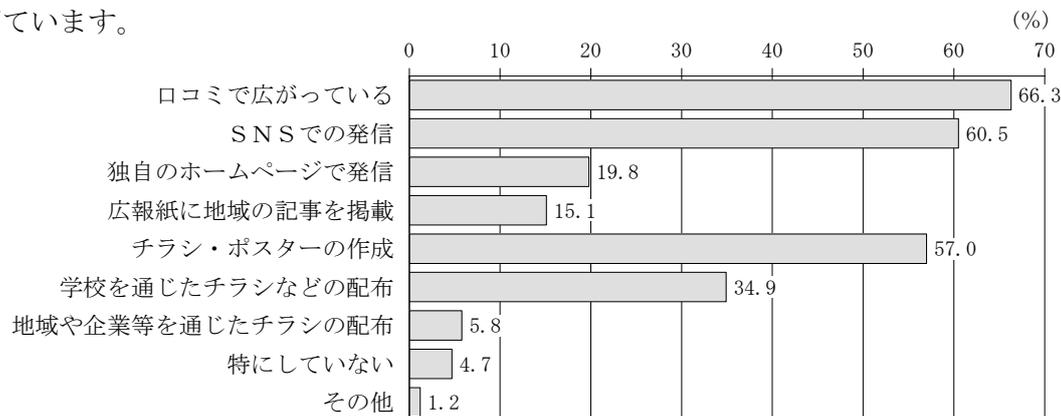
応援を受けている先は、前問で寄附をしてもらっている先としてあげられた個人、企業、地域、団体などの具体的な名称などがあげられています。



問5 子ども食堂について、どのように広報・周知を行っていますか（複数回答）

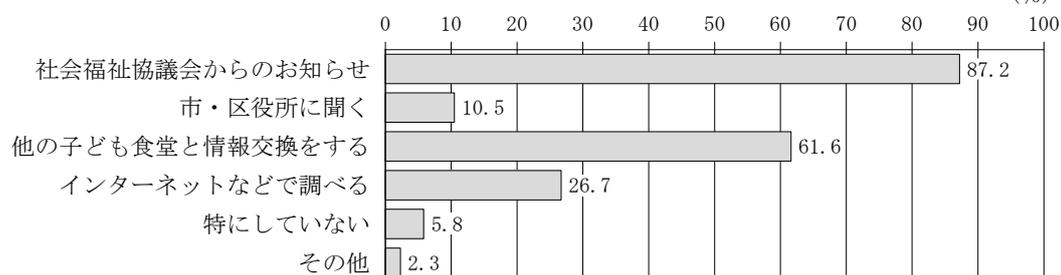
口コミが66.3%で最も多くあげられています。ついで、SNSが60.5%で、チラシ・ポスターの57.0%とならんで多くの団体で活用されています。また、ホームページは19.8%が活用しています。

他の機関や団体等と連携した取組では、学校を通じたチラシなどの配布を34.9%、広報紙に地域の記事を掲載を15.1%、地域や企業等を通じたチラシの配布を5.8%の団体があげています。



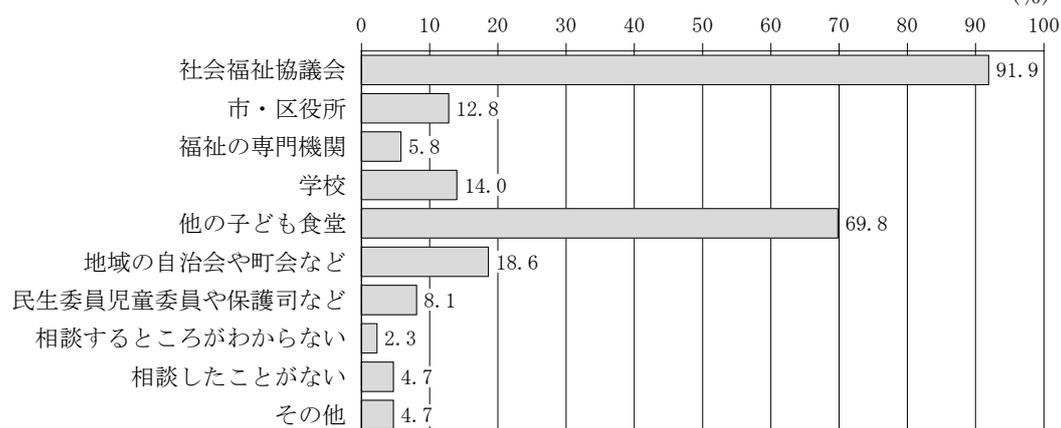
問6 子ども食堂に関する情報収集は、どのように行っていますか（複数回答）

本調査は社会福祉協議会が事務局を担う「さかい子ども食堂ネットワーク」の加盟団体を対象として実施したため、社会福祉協議会からのお知らせをあげた団体が87.2%と多くなっています。また、他の子ども食堂との情報交換も61.6%があげています。 (%)



問7 子ども食堂について気軽に相談できる場所がありますか（複数回答）

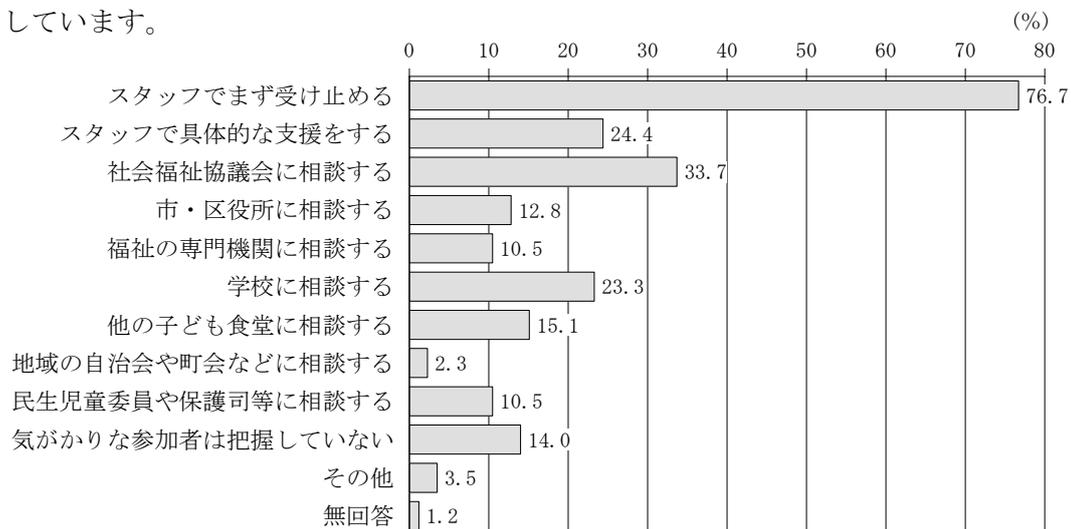
前問の情報収集と同様に、気軽な相談先としても社会福祉協議会を91.9%、他の子ども食堂を69.8%と、多くの団体があげています。また、地域の自治会や町会を18.6%、学校を14.0%、市・区役所を12.8%、民生委員児童委員や保護司などを8.1%、福祉の専門機関を5.8%など、多様な機関や団体が相談にのっていることが示されています。一方、少ないながら、相談するところがわからないと答えた団体もあります。 (%)



問8 子ども食堂に「ちょっと気がかりだな」と思う参加者がいた場合、どのような対応をしていますか（複数回答）

気がかりな参加者は把握していないと答えた団体は14.0%のみで、多くの団体が「ちょっと気がかりだな」と思う参加者がいることが示されています。

気がかりな参加者への対応では、76.7%と多くの団体がまずスタッフで受け止め、さらに、スタッフで具体的な支援をする団体が24.4%であるほか、社会福祉協議会に33.7%、学校に23.3%、他の子ども食堂に15.1%、市・区役所に12.8%、福祉の専門機関、民生委員児童委員や保護司等に10.5%、地域の自治会や町会に2.3%と、多様な機関や団体に相談しています。

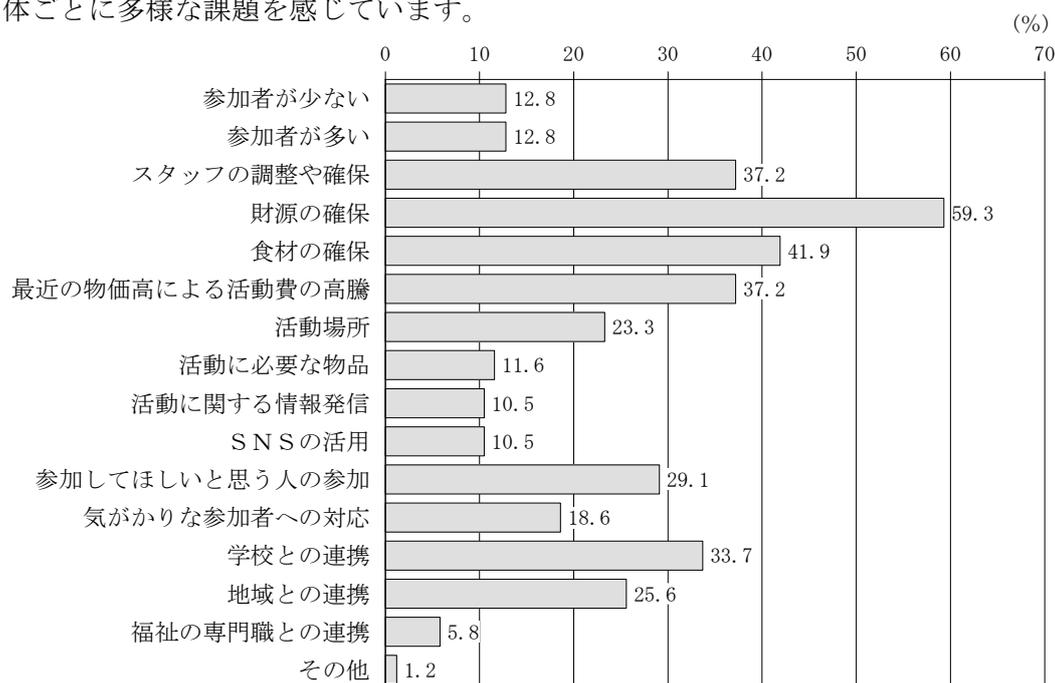


問9 子ども食堂の活動で、課題だと感じていることはありますか（複数回答）

財源の確保を59.3%、食材の確保を41.9%の団体があげていることに加え、最近の物価高による活動費の高騰を37.2%と、財源の課題をあげている団体が多いことが示されています。また、スタッフの調整や確保を37.2%の団体があげています。さらに、これらについて、学校との連携を33.7%があげたほか、地域との連携を25.6%、福祉の専門職との連携を5.8%と、さまざまな機関や団体との連携に関する課題もあげられています。

参加者については、参加者が多いこと、参加者が少ないことを、いずれも12.8%があげていますが、それら以上に、参加してほしいと思う人の参加を課題と感じている団体が29.1%となっています。一方で、気がかりな参加者への対応も18.6%があげ、支援が必要な子どもなどの参加と支援をいっそうすすめることの必要性も認識されているようです。

また、活動場所を23.3%と比較的多くの団体があげていることに加え、情報発信など、団体ごとに多様な課題を感じています。



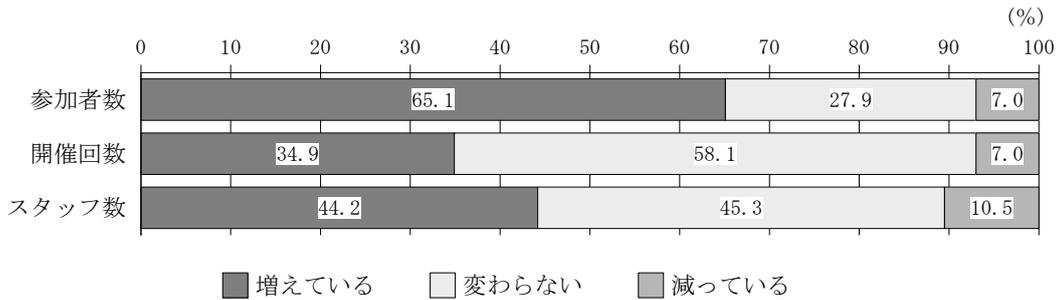
(2) 子ども食堂の経過や今後について

問11 活動を開始した当初の参加者数から、現在の参加者数はおおよそどのように変化していますか

問12 活動を開始した当初の開催回数から、現在の開催回数はおおよそどのように変化していますか

問13 活動を開始した当初のスタッフ数から、現在のスタッフ数はおおよそどのように変化していますか

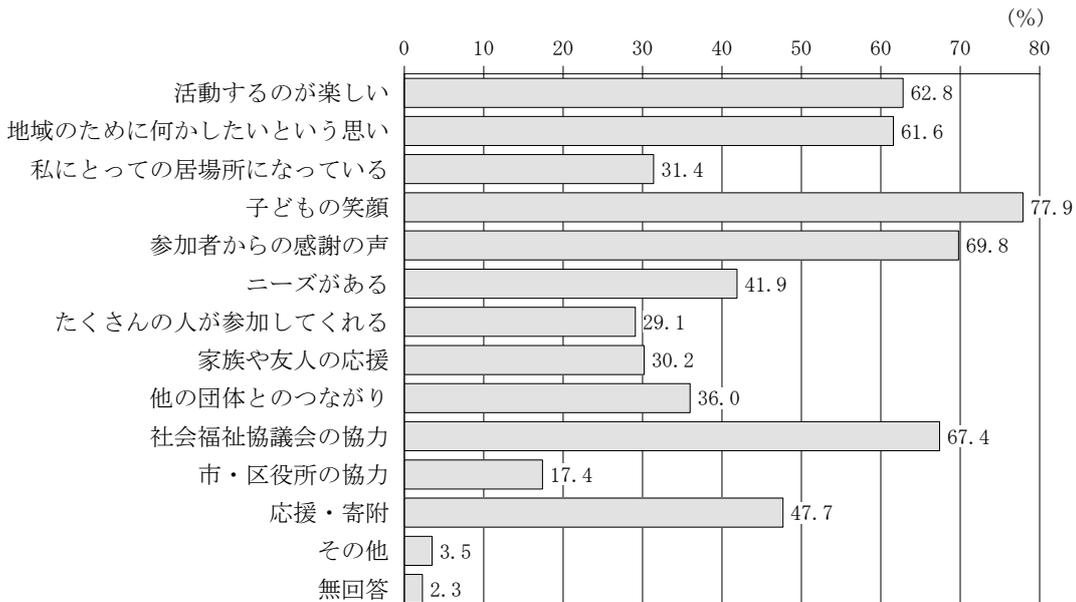
参加者数、開催回数、スタッフ数ともに、活動開始当初よりも増えた団体が多いですが、参加者数とくらべると、スタッフ数の増加は少ないという状況が示されています



問14 子ども食堂を続けられている理由はどのようなことだと思いますか（複数回答）

子どもの笑顔が77.9%、参加者からの感謝の声が69.8%と、多くの団体が活動を続けるモチベーションになっています。また、地域のために何かしたいという思い（61.6%）、ニーズがあること（41.9%）などの地域への関心とともに、活動するのが楽しい（62.8%）、私にとっての居場所になっている（31.4%）など、活動自体が楽しいと感じられることも、活動を続けられる要因となっています。

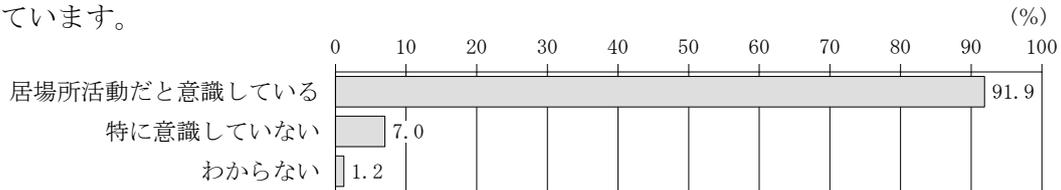
これらとあわせて、社会福祉協議会の協力（67.4%）をはじめ、応援・寄附（47.7%）他の団体とのつながり（36.0%）、家族や友人の応援（30.2%）、市・区役所の協力（17.4%）など、さまざまな応援や協力によって活動が継続されていることが示されています。



(3) 居場所活動の連携について

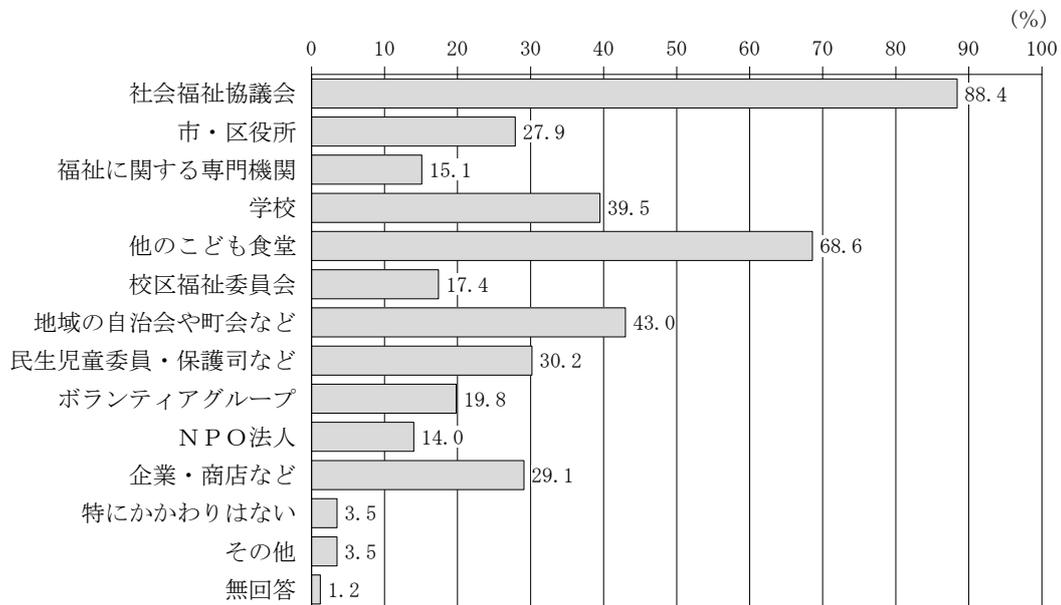
問17 子ども食堂の活動は「居場所」をつくる（提供する）活動だと思いますか

大部分にあたる91.9%の団体が、子ども食堂の活動を「居場所」をつくる活動だと認識しています。



問18 子ども食堂の活動の中で、他の団体や機関などのかかわりがありますか（複数回答）

子ども食堂ネットワークの事務局を担っている社会福祉協議会を88.4%の団体があげ、ついで、他の子ども食堂が68.6%と多くなっています。また、地域の自治会や町内などを43.0%、学校を39.5%、民生委員児童委員・保護司などを30.2%、企業・商店などを29.1%、市・区役所を27.9%など、多様な主体との関わりがあることが示されています。



(4) 記述回答の要旨

問2-2 子ども食堂の参加者の中で、活動を手伝ってくれるが「いる」と回答した場合、どのようなお手伝いをしてくれていますか

(※) 同様の記述が多かったため、類型で整理して記載しました。

【だれが】

- ・地域の小学生、中学生、高校生、大学生
- ・地域の高齢者、地域の方、住民
- ・社会人、成人男性、主婦の方々
- ・学生ボランティア、ママさんボランティア、大人のボランティア、高齢者のボランティア
- ・市民ボランティア、地域ボランティア
- ・地域で活動に賛同してくださる方
- ・地域団体、連合会 民生委員、地域の老人会の方
- ・保護者、ママ友同士、子育てが一区切りしたママパパ
- ・参加している子ども達、参加者が中学生になりお手伝いにきてくれている
- ・職場の同僚、従業員、仲間、施設利用者家族
- ・スタッフの家族、妻や姉、娘と娘の友達、友人・知人

【なにを】

- ・調理、調理補助、弁当を詰める作業の手伝い
- ・配膳、給仕、食器回収、洗い物
- ・食品配付の手伝い、仕分け、荷物運び
- ・運営全般の手伝い、会場準備、受付、案内、後片付け
- ・配布物の準備と掲示、メッセージカードを書いている
- ・子ども達への対応、声掛け、見守り
- ・子どもと一緒に遊んでくれる、遊びのサポート、ゲームコーナーの手伝い
- ・紙芝居、クラフト、ギター教室
- ・地域の習い事教室の先生方によるアクティビティ等
- ・無料学習塾のボランティア講師、宿題支援
- ・塾の講師による学習支援
- ・イベント時の手伝い、イベントで子どもの世話をしてくれる

問4-2 子ども食堂に、主にどのようなところからの応援がありますか

(※) 企業等の固有名詞が多く記載されていたため、類型で整理して記載しました。

- ・地域の方、個人の方
- ・校区福祉委員会、連合自治会、民生委員
- ・友人、知り合い、ママ友、お客様の寄附金
- ・参加者の保護者、利用者からの寄附
- ・農家の方、肉屋さん、校区内の商店
- ・企業、生協・福祉基金、ライオンズクラブ、各種団体
- ・近所のお寺
- ・他の子ども食堂
- ・文化振興財団によるアートとの触れ合い
- ・さかい子ども食堂ネットワーク
- ・区の子ども食堂ネットワークを通じた個人や企業等からの寄附

- ・ふーどばんく OSAKA、こどもの居場所サポートおおさか、大阪府子ども輝く未来基金
- ・むすびえ、全国食支援活動協力会、全国社会福祉協議会
- ・堺市、大阪府
- ・社会福祉協議会、フードドライブ

問10 子ども食堂をはじめた動機やきっかけはどのようなことですか

【子どもたちへの思い】

- ・子供達に対する思い
- ・何か子供に出来る事がないか
- ・子どもに関わることがしたい
- ・メンバーの思い

【気がかりな子どもの存在】

- ・気になる子がいたから
- ・地域で必要とするような子どもがいたこと
- ・困っている子どもがいることを知った
- ・娘の友人が孤食である現状を見て
- ・子どもの孤食を少しでも減らしたら
- ・朝ごはん抜きの子がクラスに3-5人はいた現場の経験から
- ・朝ご飯を食べて来ない子どもが多い、虫歯が多い
- ・養育に気がかりな子どもたちを含め、広く子どもたちが集まれるように
- ・子ども達の孤食をなくしたい
- ・子ども達がコンビニやファストフードで昼食を購入しているのを見たり・聞いたりした
- ・土曜日の午前中からカップめんを買って食べている子どもがいた
- ・子供たちが分け隔てなくお腹いっぱいになること
- ・心置きなくおなかいっぱい食べてもらいたい
- ・味噌汁を知らない子どもとの出会い
- ・子どもたちの経験値の格差
- ・貧困の子ども達のサポート
- ・テレビで見た子どもの貧困
- ・コロナ禍で子ども達が困っているニュースを見たから

【子どもの居場所づくり】

- ・子どもの居場所を作りたい
- ・地域の子どもたちの居場所になれたらなと思い始めた
- ・地域での子どもの居場所が必要と感じたから
- ・地域での子どもの居場所が公園以外になかったので
- ・子どもの居場所や交流の場所が必要どの思いから
- ・子ども達が少しでも笑顔に、のびのびと育てるようサポートし、居場所作りをしていきたい
- ・学童という形では出会いきれない子どもたちがたくさんいることを感じた
- ・不登校の子や地域の子どもの居場所がないと思って
- ・子ども達の居場所づくりの一環として
- ・子どもの居場所作りに参加出来れば
- ・子ども達の、安心、安全な居場所作り
- ・子どもの安心安全の地域づくり、コミュニケーションの場所
- ・居場所作りがしたかったから

【子育て支援】

- ・子育て中のママやパパを応援し、悩んだときに相談できる頼れる場所になりたい
- ・働いている親が安心して仕事に取り組み、子どもさん達に沢山のお友達と食事が出来ると良い
- ・子育て世代の負担感が増している現状の中、地域の安心できる居場所をつくりたい
- ・共働きによる子どもの孤食の増加に気づき

【地域みんなで子育て】

- ・みんなでする子育て・地域とつながり助け合えたらいいと感じた
- ・地域みんなで助けあって子育てしたいと感じたため

【食育・食を活かした支援】

- ・食育
- ・休日に栄養バランスの整った朝食を食べてほしい
- ・食支援から子どもの居場所となり子どもの夢や挑戦を支援する場に
- ・食の支援を通して地域の人と関わり、困りごとのある人に寄り添うような活動ができれば
- ・フードロス無くしたい

【地域のつながりづくり】

- ・地域の独居老人、子ども、大人の居場所作り
- ・地域の課題解決、つながりの場作り
- ・地域の誰もがつながりを持てる居場所を作りたい
- ・学生も含めた地域の居場所づくりをする
- ・地域交流
- ・地域の交流拠点になるため
- ・地域と子どもとの関係が希薄になってきたと感じた
- ・子どもが小さい頃からの継続的な地域のコミュニティを作りたかった
- ・子どもの豊かな居場所づくりで地域の活性化
- ・地域に根付いた活動をしたい
- ・地域に知り合いが少ないので、色々な人と声をかけ合える関係を築きたい

【地域のニーズ】

- ・地域からのニーズ
- ・区内に高校生まで無料提供の子ども食堂が無かった
- ・地域コミュニティを作るうえでニーズがあったため

【気づき】

- ・メンバーの気づき

【呼びかけ】

- ・町会、校区福祉委員からの働きかけ
- ・校区民生委員会の会合での委員長からの提案と指導から
- ・社協からお声がけいただいた
- ・社協からプレイベントのお話をいただいた
- ・社会福祉協議会、近隣の子ども食堂の先輩方、小学校からの声が後押しになった
- ・一緒にやろうとお誘いを受けた
- ・周りの人からの依頼
- ・知人からの勧め
- ・助けを求めた時に紹介され、外国籍の子どもたちに学習支援と食事提供をしている
- ・区役所から子どもの歯磨き習慣を提言され

- ・市の「子どもの居場所づくり」と連動して子どもの貧困問題などへの貢献をめざすため

【仲間】

- ・地域の子育て世帯の交流の場づくりに共感してくれているメンバーがいた
- ・やりたい方がいた
- ・知り合いがやっていて、地域に貢献できる何かをしたかったから
- ・ボランティアでしていて自分でしてみたくなった
- ・地域コミュニティメンバーの想い
- ・他施設の取組を参考にした

【活動の経験】

- ・元々、PTAなどの活動をしていた
- ・中学校PTAによる気づき
- ・地域とのつながり

【地域貢献】

- ・地域密着企業としての取組
- ・何か少しでも地域に貢献出来ればとの思いから
- ・地域への感謝を地域貢献でお返ししたい
- ・地域社会への恩返し
- ・法人の独自地域活動
- ・地域貢献がしたかった
- ・地域貢献事業として
- ・地域貢献やSDGsへの取り組み
- ・地域密着&福祉活動
- ・自分自身が子どもの頃に受けた恩をお返ししたい

問15 あなたの子ども食堂の強みを教えてください

【食事】

- ・おいしい食事
- ・子どもが好きな味、メニューを心がけている
- ・子どもが好む洋風な献立にしている
- ・バランスの取れた食事
- ・冷凍食品を使用せず、手作りで提供している
- ・できたてを食べてもらえる
- ・提供する数より、美味しいもので、なおかつ食の安心、安全を心がけている
- ・栄養のとれる朝ごはんの提供
- ・朝ご飯
- ・基本おかわり自由。好きな物を好きなだけ食べられる
- ・おかわりは何回でも
- ・ボリュームあり
- ・食事のボリュームは負けない
- ・アイスやお菓子がいつもある
- ・弁当の数

【食材】

- ・質の高い食材で完全手作りの食事
- ・畑からの野菜の提供

【弁当や食材の配布】

- ・お持ち帰り弁当あり、兄妹の分や、親御さんの分を持ち帰ることもできる
- ・お弁当だけでなく、提供していただいたお菓子等お土産を持って帰ってもらっている
- ・お弁当にお菓子・ゼリー・ジュース等持って帰ってもらっている

【食育】

- ・最近食育に力を入れ、クッキングなどを行なっている

【学習支援】

- ・子ども食堂と学習塾を毎週複数回開催している

【生活や子育ての支援】

- ・相談事やこどもの心配事などをきく機会が多いと思う
- ・気軽に子育てや生活の悩みを相談しやすいスタッフがいる
- ・ワンストップで色々な困り事を解決してあげられるといいなと思っている
- ・貧困層が来てくれ、必要な人に届いている
- ・平日の毎日子どもの夕食が無料で食べることができる
- ・ほぼ毎日活動している
- ・長期休みの平日の昼食はほぼ毎日開催
- ・お弁当は0歳児でも取りに来た親に配布し、子育て中のパパ・ママの応援にもなっている
- ・居場所にしてきている子ども達&スタッフがいる
- ・会場に代表家族が常駐しているので、参加者が困った時にいつでも訪ねてきてくれる
- ・住まいが子ども食堂なので いつでも子どもたちの悩みごと相談に対応できる
- ・法人なので色々な対応が可能

【活動内容やイベント】

- ・バラエティーに富んだ活動
- ・子どもたちの経験値を獲得する場
- ・子どもの夢、挑戦を支援する子ども食堂
- ・楽しい催しを考えている
- ・縁日など楽しめるイベントがある
- ・親子で楽しめるピザ焼き体験、綿菓子作り、工作、スーパーボールすくい等のイベント型
- ・遊びや思い出作りの時間を大切にしている

【多様性】

- ・子どもだけでなく高齢者、障害者、外国籍の方など多種多様な方々が来てくれるようになって多様性がある
- ・年齢、障害など関係なく利用できる
- ・シニアの仲間、ご家族の居場所にもなっている
- ・子どもと保護者の参加
- ・子ども以外でも参加OK
- ・多世代での交流
- ・色々な世代の大人がいる

【利用しやすさ】

- ・子ども無料、登録・予約不要で、その日の気分で立ち寄れる
- ・よっぽど参加者が多くない限りは、当日申込みでも断らない

【きめ細かさ】

- ・みんなの名前を覚えている
- ・大規模ではないので、個々での関わりが出来ている

【雰囲気よさ】

- ・みんなの笑顔とアットホームな雰囲気
- ・アットホーム
- ・素敵な仲間がいる
- ・お弁当配布と会話を通して、「ホッ」と安心してほしいと心がけている
- ・嬉しい気持ちになる人がいる
- ・大人が楽しんでいる
- ・時間に余裕がある

【立地や会場】

- ・学校から近い
- ・3つの区の境界に位置しているので、色々な区の人が集まりやすい
- ・場所が使いやすい
- ・広さがある
- ・開催場所が綺麗・音楽がかけられる・立地がいい
- ・駐車場がある

【スタッフ】

- ・スタッフが想いのある人ばかり
- ・スタッフが積極的に活動してくれること
- ・ボランティアスタッフが熱心に取り組んでくれる
- ・スタッフ頑張り屋さんです
- ・ボランティアさんはみんな明るくてよく気がつく
- ・スタッフ達の信頼関係が密になっており、笑顔が絶えない
- ・スタッフがいつも笑っている
- ・スタッフがいきいきしている
- ・ボランティアのリポート率が高く、それぞれの得意なことを活かしてお役に立っている
- ・継続して来てくれるボランティアが数名いる
- ・スタッフの年代が幅広い
- ・幅広い層のスタッフがおおり、みんな心優しく、あたたかく和気あいあいとした雰囲気
- ・スタッフの年齢層が高校生～75歳と幅広く、様々な職業の方がかかわってくださっている
- ・スタッフやボランティアの社会的立場や職種が、調理師、ナース、管理栄養士、会社員などいろいろなのでいろんな悩みや健康相談などができる
- ・学生ボランティアが多い
- ・学生、若者が多い
- ・スタッフが若くて、テキパキしている。
- ・スタッフのテキパキした動き
- ・スタッフの人数が多い
- ・スタッフの数
- ・スタッフの数が多く、子どもたちと一緒に元気に遊べること
- ・調理ボランティアの方にたくさん支えていただいている
- ・スタッフの団結力
- ・民生委員を中心にスタッフが協力し合っている
- ・スタッフは少ないが、チームワークが良く、連携が取れている
- ・調理場が高齢者のボランティアの居場所になっている
- ・定例的にボランティア会議を開催している
- ・スタッフも活動を楽しんでいる

- ・スタッフが子どもの為に楽しんで活動し、イベント等も積極的にお手伝いしてくれている
- ・子どもの明るさと笑顔でスタッフは頑張っている
- ・スタッフ一同、子ども達の「笑顔」を楽しみに活動中

【利用者の参加】

- ・ボランティアとお客という線引きのハードルが低い

【連携】

- ・小学校との連携ができています
- ・学校の先生の協力なしにはできない
- ・地域の委員さんが学校の活動報告をしてくれる
- ・学校でつくったり、近隣の畑で取れた野菜をもって来てくれる
- ・食材提供してくれる方が多い
- ・地産地消
- ・明るく優しいスタッフと様々分野の専門家による体験レクリエーション
- ・歯科医の先生
- ・子どもたちの怪我の対応
- ・同じ場所で4つの子ども食堂が活動しているので助け合え、イベントも行える
- ・東北大震災被災地のボランティアとの交流も大事に継続しており、活動内容と幅で「日本一の子ども食堂になろうね」と頑張っている
- ・お店でしているので食料などにはあまり困らない
- ・運営母体が社会福祉法人のスーパーマーケットなので、食材の調達や調理の機材が豊富

【その他】

- ・他に例がないユニークさ
- ・地域で唯一の存在
- ・いつも通り開催が出来ている
- ・強みは無いけど、子育てを終えて孫を見ているようで可愛い

問16 今後の活動で「やってみたいこと」があれば教えてください

【毎日開催】

- ・毎日開催
- ・毎日子ども食堂
- ・毎日開催し「いつでもふらりと立ち寄れる」場所にしたい

【朝食や夕食の提供】

- ・朝食にチャレンジしたい
- ・夜に開催してみたい

【会食の再開】

- ・お弁当配布から、みんなで一緒に食事をするに戻す
- ・現在お弁当配付、フードパントリーが中心の活動だが、会食形式に移行したい

【弁当の配達】

- ・子ども食堂で弁当の配達

【食事の充実】

- ・メニュー開発プログラム

【学習支援】

- ・学習支援
- ・定期的な学習支援
- ・学習支援を全学年に、戸外学習

- ・寺子屋的な活動
- ・コロナ前のように学習支援とお楽しみイベントで子どもの交流ができるようにしたい

【居場所づくり】

- ・学校に行きづらい子ども達が来れる場所として午前中またお昼からの常時開設し、日変わりでイベントなどが開催できるぐらいの頻度で開催してみたい
- ・平日放課後のプロジェクト（子どもと勉強、遊び、温かいご飯など）を始めている
- ・日曜日に子どもの居場所づくり（子ども参加のクッキング教室やミニコンサート実施など）

【文化活動】

- ・人形劇や音楽会など子ども達の体験をもっと増やしたい
- ・みんなで芸術鑑賞
- ・子どもによる演奏のミニコンサート
- ・子どもたちへの文化活動支援
- ・文化・芸術関係のイベントを地域で開催したい

【イベント】

- ・イベント
- ・子どもが喜ぶイベント
- ・子ども達のイベント等やってみたい
- ・季節ごとのイベント
- ・まぐろ解体ショー
- ・お店屋さんごっこ
- ・子ども縁日、駄菓子屋さん
- ・夏祭りを予定している
- ・今年初めて夏祭りをしたが、好評だったので恒例行事にしていきたい
- ・夏祭り
- ・祭り
- ・おまつり
- ・地域の子どもの食堂と一緒に、広場などで地域の子どもの対象のイベントをしてみたい

【子どもの体験】

- ・経験や体験
- ・色々な体験ができる場として取り組んでいきたい
- ・農業体験
- ・お泊り、職場体験、農作業、清掃活動
- ・デイキャンプなども行っているが、そうした色々なことを経験する機会を与えていきたい
- ・地域のゴミ拾いをみんなで
- ・もっと余裕があれば子どもたちを外に連れて行きたい
- ・自然の中で子ども食堂
- ・遠足
- ・バーベキューやすいか割りなど屋外での活動
- ・コロナで出かけられずできなかった野外学習、工場見学会の体験の場を提供し、高学年の子たちが下の児の面倒を見る場にしたい

【子どもの参加】

- ・子ども達と調理をする
- ・子ども達にも手伝ってもらい、一緒に料理を作ってみたい
- ・こどもが調理をして大人が食べに来るこども食堂
- ・子ども達とカフェを経営してみたい

- ・子どもの発想力を出せる取り組み

【生活支援】

- ・現状を維持し、誰もが悩みや思いを相談できる場所になれば良い

【活動の頻度】

- ・もっと回数を増やし、参加者との交流を強くしたい
- ・今年度から夜ご飯を始めたが、ニーズがあるので回数を増やしたい

【拠点】

- ・拠点を持って自由に活動したい
- ・出来れば全学年一緒に食べられたらと思う

【組織】

- ・NPO法人格の取得

【連携】

- ・他の子ども食堂との運動会などの交流
- ・他の子ども食堂との合同企画
- ・他の子ども食堂とのコラボイベント
- ・利用者のネットワークをひろげる
- ・人とのつながり
- ・世代間交流もやってみたい

【現状維持】

- ・スタッフ全員仕事をしているので、無理なく現状維持

【その他】

- ・振り向いた時そこに居る人になれるように継続して活動続ける
- ・子ども食堂の枠を超えた、子供達の為になる活動
- ・今はイベント型が休止中なので、再開してから検討する
- ・子ども食堂の再会

問19 他の団体や機関と具体的にどのようなかかわり方をしていますか

(※) 同様の記述が多かったため、類型を基本として整理して記載しました。

- ・食材の支援、物品の支援・貸し借り
- ・就労支援事業所の野菜の購入
- ・寄附金
- ・会場の提供
- ・情報の提供
- ・運営方法の相談やセミナー
- ・会議での報告や情報交換、定例会議
- ・ボランティアとしての協力、相互の協力
- ・ワークショップ、歯科健診、認知症キッズサポーター養成講座等の活動支援
- ・イベントの協力・共同開催
- ・他校区との同時開催
- ・地域のまつりやイベントへの参加
- ・チラシの配布・配架・掲示・回覧、SNSでの相互の宣伝
- ・気がかりな子どもや世帯のケースの情報交換、相談、支援の指導
- ・区の子ども食堂ネットワークでの交流

- ・グループLINEでの交流、メールでの交流

問20 今後かかわってみたい団体や機関などがあれば教えてください

(※) 同様の記述が多かったため、類型を基本として整理して記載しました。

- ・自治会、校区福祉委員会、民生委員児童委員
- ・地域の学校、小中学校、保育園
- ・企業
- ・市内の企業に地域貢献活動として子ども食堂の活動へのご理解と支援について相談し、参加者に楽しんでもらえる企画と考えていきたい
- ・大学や専門学校の福祉や教育に関心のある学部の学生や先生、大学生のボランティア
- ・色々な子ども食堂
- ・ボランティア、NPO
- ・支援団体、むすびえ
- ・役所、こども家庭庁
- ・調理師さんの団体、アウトドア食に通じている団体
- ・衛生指導をしてもらいたい
- ・地域のグループホーム、障害者施設、障害者団体、里親支援
- ・発達障害の子どもたちを支えるフリースクールで現場での対応の指導を願える方々や団体
- ・文化事業やその他の活動を支援、企画してくれる団体、堺市文化財団
- ・ビジネスセンスが必要と感じるので、コンサルタントや広報の方と関わってみたい
- ・社会起業家の講演などを子ども食堂ネットワークで出来ないか
- ・テーマパークのキャラクターやスポーツ選手など来てもらえたら子ども達は喜ぶと思う
- ・交通機動隊（白バイ）
- ・円卓会議に参加できたら他区とのこども食堂の関わりができる（日程が合わないので早めに知らせてほしい）

問21 地域や居場所のことなど、日ごろの活動の中で気づいたことがあればご自由にお書きください

【子ども食堂の運営】

（財源等の確保）

- ・とにかく物価高騰が酷いのでしんどい
- ・LINEが有料化になりダイレクトに情報を届けられなくなり参加者が減ってきているが、参加者が減ると財源が厳しくなるので、イベント開催などの楽しみを削ることになるのが心配
- ・口コミで参加希望者が増えているが、予算の都合で増やすことが厳しく、お断りしているので、もう少し財源を確保したい
- ・運営費や人の確保なども足りないと感じている団体も多いので、人・物・場所をバックアップできてないと、新たに取り組み団体が増えないと思う
- ・活動費用をプリペイドカードではなく現金でいただきたい
- ・在庫の確保

（拠点の拡充）

- ・回を重ねるごとに参加希望者が増え、ありがたいなと思うと同時に施設のキャパ上人数制限を設ける必要があり、葛藤している

（スタッフの確保）

- ・最近若い学生さんが意欲的に子ども食堂のボランティアに来てくれて、とても助かる
- ・ボランティアさんが高齢の為、複雑な作業を頼みにくいので、若手スタッフが継続して来てもらえたらとても助かる
- ・後継者不足
- ・共に頑張れる60代の人材も仲間にほしい

(参加者の拡大)

- ・自分の居場所と感じて毎回来てくれている子もいるが、子どもだけの参加者がもっと増えたら良いと思うので、小学校前でチラシを配りたい
- ・本当に必要だと思う子どもが案内しても来てくれず、手が届かないのが歯がゆいが、個人情報保護で案内できないことも残念である
- ・居場所に来れない子に、もっと焦点を当てていきたい
- ・他校区の方が人目をばばかりながら来てくれており、誰でも入れる子ども食堂にしていきたい
- ・なかなか人数が安定しない

(居場所づくりの取組)

- ・地域の中での良いつながる場所になるなど思っている
- ・子ども食堂ではスマホ禁止で、はじめは文句を言って子どもたちもおしゃべりしたりふざけ合ったりしているので、人と人の触れ合いがある、家庭、学校とは違う第三の場所として、リラックスしてすごせる子ども食堂をめざしていく
- ・子ども達の成長を年齢の枠でぶつ切りにするのではなく、赤ちゃんから大人になっても見続けられる居場所でありたいと思って活動している
- ・ずっと続けていると、子ども食堂に参加してくれていた子達が高校生になり、ボランティアとして戻ってきてくれるので、自然と帰って来れる居場所になっていたのだと気づけた
- ・子どもだけでなく、地域のお年寄りの居場所作りも大切と実感した

(生活の支援)

- ・開設して1年半で沢山の出会いがあり、子どもの成長や親密な話もできるご家庭が増えたが、みんな沢山悩んで、必死に子育てしているなど感じるので、子ども食堂が応援や相談ができる身近な存在であれば良いとおもう
- ・気になる家庭や子どもにも対応出来るように努めている

(活動の継続)

- ・必要な子どもやご家庭に届くように活動を継続していきたい
- ・まずは継続することで色々見えてくるので、それからである
- ・こつこつと続けていく中で居場所に来ることが出来ない方との繋がりも出来ており、いずれ気兼ねなく来ていただける様に、ひるまず声かけを続けていきたい
- ・運営者が健康に気をつけて、元気に活動を続けていけることが基本的に大切な事だと感じる

(活動の再開)

- ・今はお弁当を配布しているが、子どもたちのおしゃべりを聞きたい
- ・また再開できるよう頑張る

(活動に関する連携)

- ・堺市の子ども食堂のメンバーに入ってから色々なところから支援、助成があり、子どもの笑顔がもっと見えるようになった
- ・地域の先輩方との交流や情報提供の中で、アイデアや視点をいただきながら今後の活動を検討できて大変ありがたい
- ・堺市のネットワークは日本一だと思う

- ・各子ども食堂がそれぞれの強みを活かした活動を長く継続できるように、地域や行政、学校等とのつながりがもっと必要だと感じる
- ・自治会や学校の集まりなどで、もっと子ども食堂の多様性やアピールなどとして欲しい
- ・学校や保育園、幼稚園などに市から働きかけをしてほしい
- ・民生委員や青少年育成協議会、自治会や学校の支援があればもっと活動がやりやすいが、分断されているように感じる
- ・子ども食堂に来る子ども達が大変多くなって地域からの苦情が増えてきているので、今以上に活動に理解していただく努力が必要
- ・現場での地道な活動を大切にして色々な気づきや発見を提供したいので、受け皿として市社協の取り組みを期待する

(感謝)

- ・いつもたくさんの支援をいただき感謝している
- ・サポートや情報提供等に本当に感謝している
- ・たくさんの方々に支えていただき、日本っていい国だと感じ、とても幸せになっている
- ・様々な支援に感謝しており、今後ともよろしくおねがいします。
- ・本当に今の時代に必要不可欠で素晴らしい活動だと感じているが、活動をさせていただけるのも、間違いなく沢山の方々の支えがあるおかげであり、人とのつながりの大切さ、温もり、素晴らしさを、改めて身に沁みて感じている
- ・いろいろな情報交換で、大変助けられている
- ・子ども達の日々の笑顔が活動を頑張るエネルギーになっている
- ・助かっているとの言葉と笑顔に励まされており、学校では隅っこにいるがいきいきと手伝ってくれる子の成長が喜びである
- ・色々な子どもがいるが、子どもだけで参加していたのが親と妹とともに来る子が現れ、どのように成長していくのか楽しみである
- ・子ども食堂をはじめてスタッフの笑顔が増え、スタッフの居場所にもなっている
- ・月に一度くらいのほそぼそとした開催だが、皆さんに喜んでいただけ、笑顔を糧として活動させていただいている
- ・子ども食堂が周知され多くの方に参加していただき、地域内でのつながりが広がることはうれしい
- ・世話人にとっても刺激的で楽しい取り組みである

(子ども食堂のあり方)

- ・地域の中で本当に必要とされる子ども食堂が明確ではなく、試行錯誤しながら運営している
- ・食事を提供する日とは別にフードパントリーの日を設けているが、子ども食堂の活動としてはいけないのか
- ・特定の目的をもつ団体が運営されている食堂もあり、いろんな意味で懸念している

【子どもや子育ての課題】

- ・共働き世帯が増え、子どもだけでご飯を食べたり、ご飯の時間が遅くて朝起きられないなどの生活の乱れが気になっている
- ・コロナ禍の3年間で、休日の過ごし方などの子どもたちの生活スタイルが大きく変わり、昼夜逆転でゲームや動画視聴で過ごす子どもがとて増えた（5月以降は活発に子ども食堂に来てくれるようになった）
- ・保護者と子どもとの間に落差があり、保護者はクラブ活動が優先だが、子どもは子ども食堂優先と違いがでている
- ・学校の児童数が激減しており、原因はあるが、私たちの力ではどうにもできない
- ・もっと子どもたちが増えて欲しい

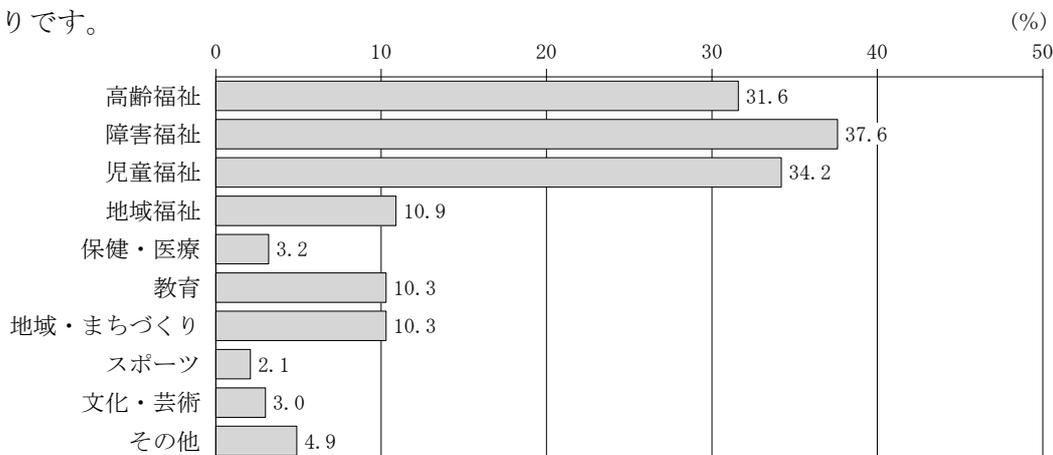
【その他の地域の課題】

- ・食品や光熱費など様々な物資の値上げにより、食材配布を求める世帯が増えている
- ・貧困層が増えていて、心の貧困を強く感じる
- ・物価高騰が進行中で、支援を受けたい子ども達の顔ぶれも更新されるかもしれないと思い、活動継続に向けて、スタッフ一同、無理せず頑張る
- ・貧困家庭ってあるのかなと思ってしまう
- ・認知症の人が増えてきた
- ・災害への日頃の備えが全くないように感じ、居場所が無い状況の子どもたちが被災したらどんな環境に放り込まれるかが不安である

4. 団体・機関調査の結果

問1 貴団体・法人・事業所等（以下「団体等」と記載します）では、どのような分野の事業を行っていますか（複数回答）

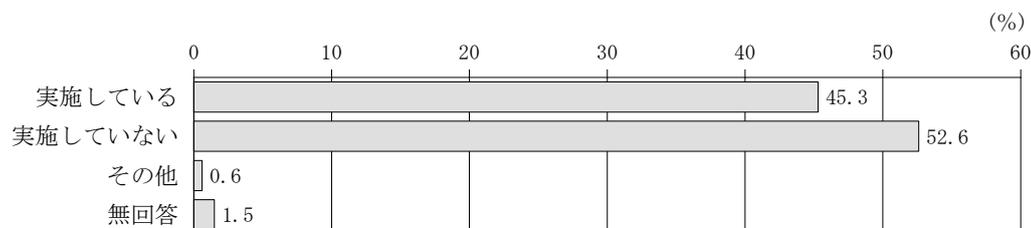
本調査に回答した団体、法人、事業所等が実施している事業の分野は、下のグラフのとおりです。



問2 貴団体等では、本来の業務として地域住民などの居場所となる場やサービスを提供する事業を実施していますか

地域住民などの居場所となる場やサービスを提供する事業を、本来の業務として実施していると答えた団体等は、約半数にあたる45.3%です。

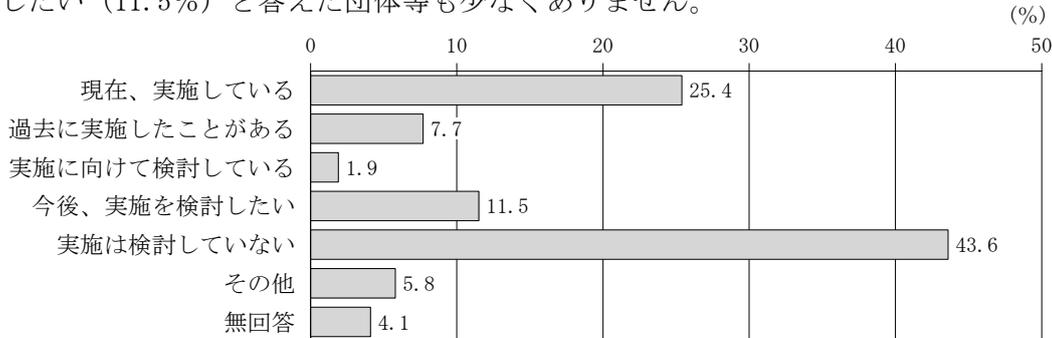
なお、記載された事業にはデイサービスや通所サービスなどもあげられていますが、これらの事業を実施していると思われる事業所で「実施していない」と回答したところもあり、居場所かどうかの判断には差があると考えられます。また、「実施している」には〇をせずに事業内容を記載された場合も、「実施している」に含めて集計しています。



(1) 本来の業務以外で行う、地域貢献としての「居場所活動」について

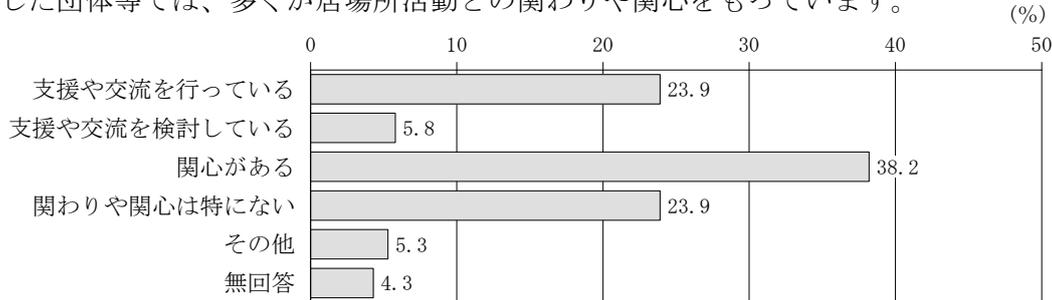
問3 本来の業務以外で行う地域貢献としての「居場所活動」についておたずねします。
貴団体等は、子ども食堂やサロン、喫茶活動など、地域住民が気軽に参加し、交流や相談などができる居場所活動を実施していますか

本来の業務以外での居場所活動を、現在、実施している団体等は25.4%です。また、7.7%は過去に実施したことがあり、実施に向けて検討をしていたり（1.9%）、今後、検討したい（11.5%）と答えた団体等も少なくありません。



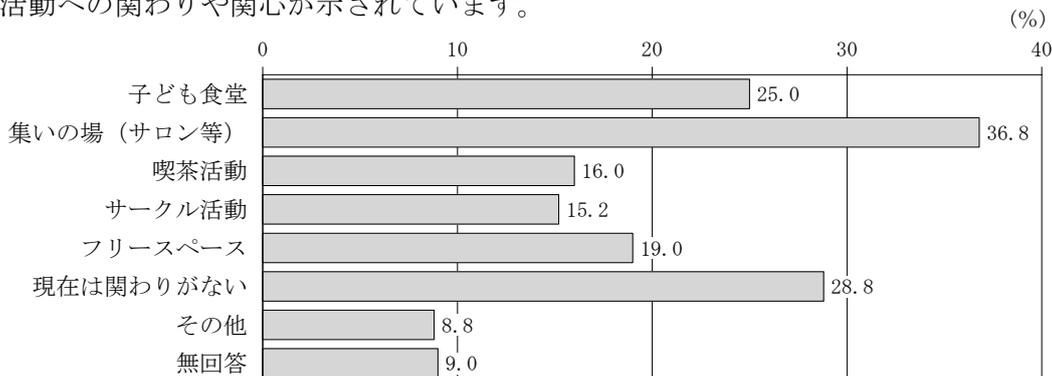
問4 他の団体や機関などが行っている地域の居場所活動について、関わりや関心をおもちですか（複数回答）

自らの団体等での実施とは別に、他の団体や機関等の地域での居場所活動への支援や交流を行っている団体等が23.9%で、支援や交流の検討を行っている団体等も5.8%です。また、居場所活動に関心があり、関わってみたいと答えた団体等も38.2%で、本調査に回答した団体等では、多くが居場所活動との関わりや関心をもっています。



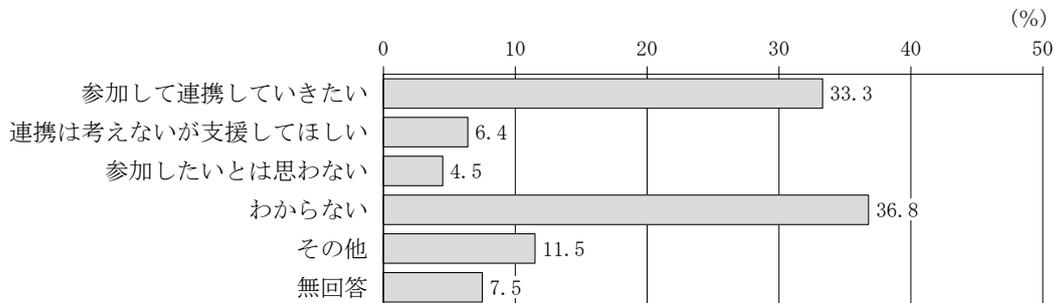
問5 どのような居場所活動に関わりや関心をおもちですか（複数回答）

関わりや関心のある活動として、サロン等の集いの場を36.8%、子ども食堂を25.0%、フリースペースを19.0%、喫茶活動を16.0%、サークル活動を15.2%の団体があげており、多様な活動への関わりや関心が示されています。



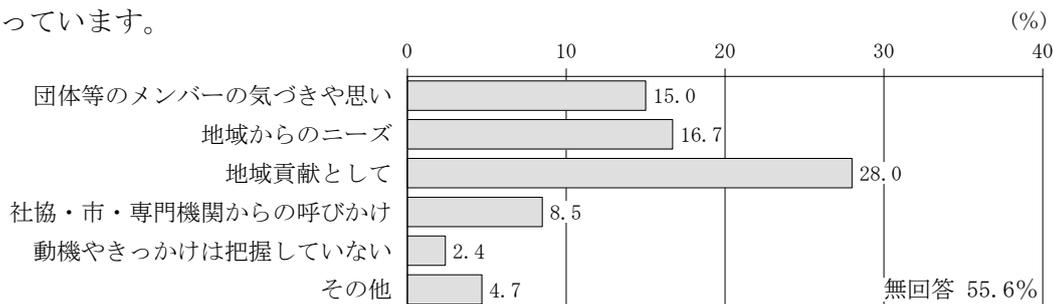
問6 堺市社会福祉協議会は、多様な居場所活動を行われている団体等の連携や支援に取り組みます。貴団体等は、この取組について、どのように思われますか

堺市社協が取り組む居場所活動を行う団体等との連携や支援については、具体的な内容を示していないため「わからない」と答えた団体等も多い（36.8%）ですが、3分の1にあたる33.3%の団体等が「参加して連携していきたい」と答え、「連携はあまり考えていないが支援はしてほしい」と答えた団体等も6.4%と、一定の関心が示されています。



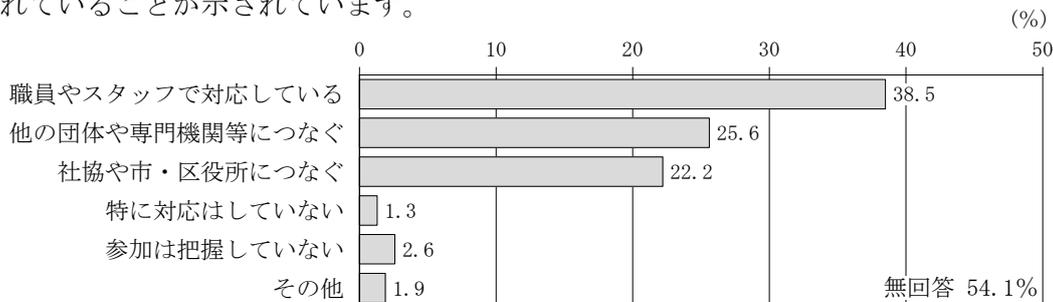
問7 居場所活動を実施（または検討）した動機やきっかけはどのようなことですか（複数回答）

居場所活動を実施、検討した動機やきっかけとしては、地域貢献が28.0%で最も多くなっています。また、地域からのニーズ（16.7%）や団体等のメンバーの気づき（15.0%）とともに、社協や市、専門機関などからの呼びかけ（8.5%）も活動の動機、きっかけになっています。



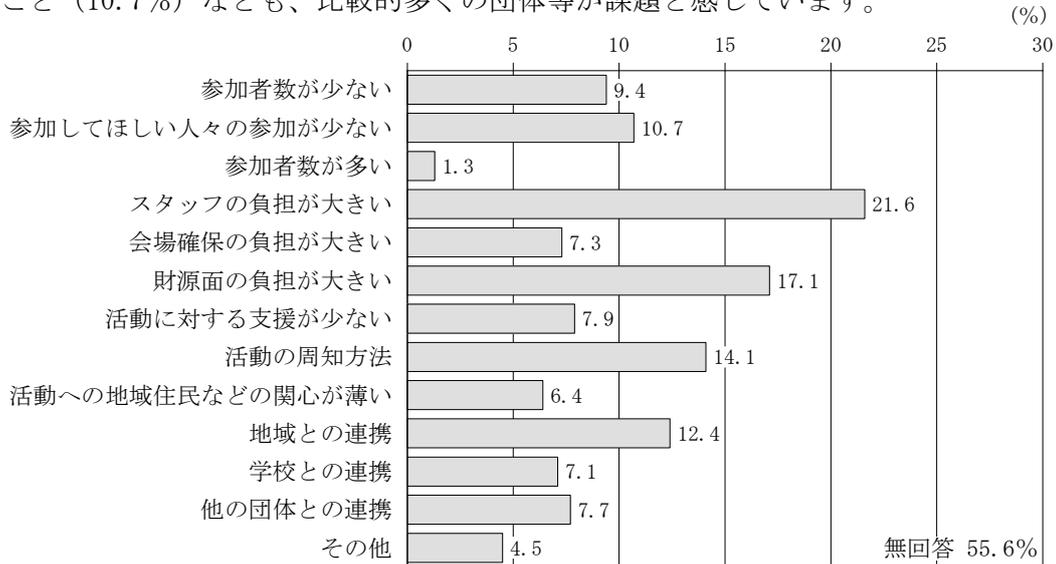
問8 居場所活動に、生活上の困りごとがあるなど相談や支援が必要な人が参加された場合は、どのように対応していますか（複数回答）

回答した団体等の多くは福祉の事業や活動を行っているため、職員やスタッフで対応している団体等が38.5%と多いですが、他の団体や専門機関等につなぐ（25.6%）や社協や市・区役所につなぐ（22.2%）という回答も少なくなく、内容によって連携した対応が図られていることが示されています。



問9 居場所活動を実施するうえで課題だと感じていることがありますか（複数回答）

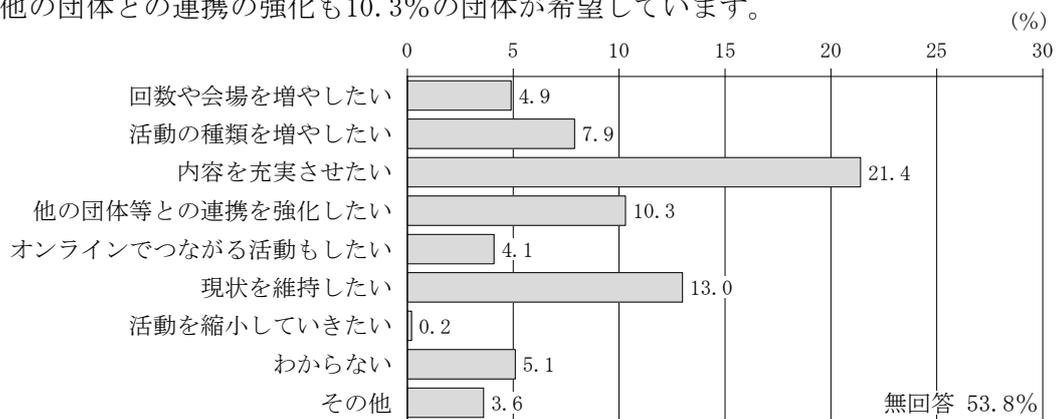
スタッフの負担が大きいことを21.6%、財政面の負担が大きいことを17.1%と多くの団体等があげています。ついで、活動の周知方法（14.1%）や地域との連携（12.4%）をはじめとするさまざまな連携や、事業や活動の目的に即して参加してほしい人の参加が少ないこと（10.7%）なども、比較的多くの団体等が課題と感じています。



問10 居場所活動について、今後、どのようにしたいと考えていますか（複数回答）

内容を充実させたいと考えている団体等が21.4%と多く、活動の種類（7.9%）、回数や会場（4.9%）を増やしたり、オンラインでつながる活動をすること（4.1%）も考えている団体等もあります。

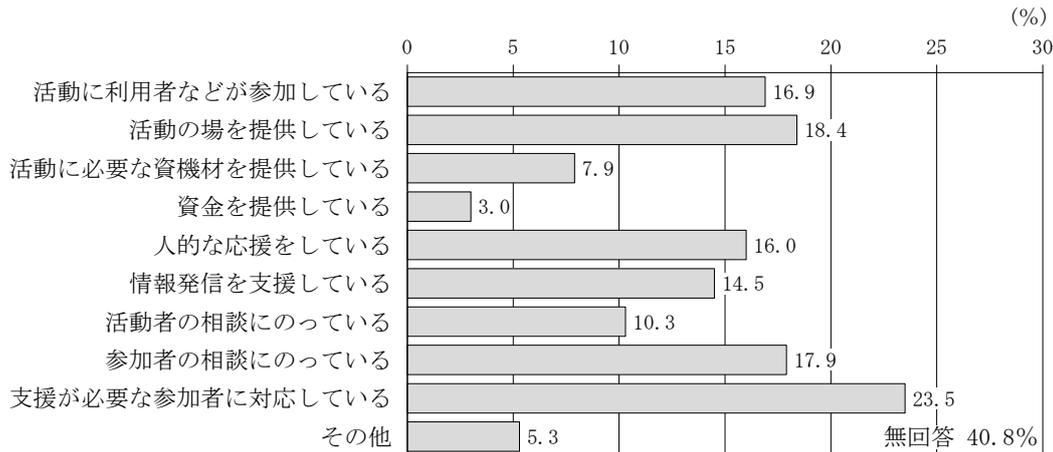
他の団体との連携の強化も10.3%の団体が希望しています。



(2) 地域で居場所活動を行っている団体等への支援や交流について

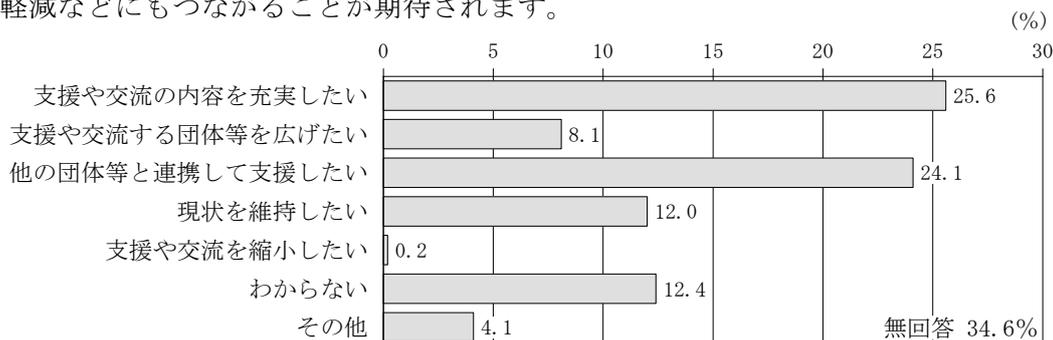
問11 行っている、もしくは行ってみたい・関心がある支援や交流は、どのようなことですか
(複数回答)

福祉の事業や活動を行っている団体等が多く回答しているため、支援が必要な参加者への対応が23.5%と最も多くあげられており、多様な居場所のひとつとして「支援型」の活動を広げていくうえで、団体、法人、事業所等が大きな役割を担える可能性の高さが示されています。また、活動の場の提供や(18.4%)や人的な応援(16.0%)、情報発信の支援(14.5%)などの面でも、地域の資源として役割が期待されます。あわせて、団体等の事業の「利用者の参加」は、団体の事業の充実にもつながると考えられます。



問12 地域の居場所活動への支援や交流について、今後、どのようにしたいと考えていますか
(複数回答)

支援や交流の内容の充実(25.6%)が多くあげられていますが、ほぼ同じ割合で他の団体等と連携した支援(24.1%)を希望する団体等が多くなっており、そうした団体等を的確にコーディネートすることで、支援等の内容の充実や、問9で課題として示された負担の軽減などにもつながることが期待されます。



(3) 記述回答の要旨

問13 貴団体等の活動や取組、事業などを通じて感じておられる地域の課題はありますか。

① 団体等の運営に関する課題

【連携体制】

- ・各団体の取り組みがしっかりしている。各団体の連携が希薄になりがちなこともあるので会議や交流を重ね、強化していけたらと感じます。
- ・地域の高齢化、自治会は活発だが、事業所としての自治会との連携、防災関係の連携など。
- ・地域支援を考える場合、どのような団体とどのような関わりをしたら良いのか？また、どのように繋がりを作っていけば良いのかが分からない。
- ・企業との連携
- ・コロナ禍もあり、当施設が地域等での関わりが薄いため、今後、連携や交流と図っていききたい。
- ・学校や保育園との連携が難しいことがある
- ・学校や子ども園との連携
- ・地域・自治体とのつながり方がわからない。(放課後デイサービス以外の機関)
- ・大阪市内では地域によって違いがあること。堺市ではこれからののでよくわからないが、どちらにしても知ってもらうことがなかなか難しく時間がかかるのかなと思っている。学校との信頼関係をどう結べばいいのか？とも思うが、どこまでの関わり方がいいのかもわからない。
- ・学校・園との連携
- ・地域の社会福祉法人の横のつながりが希薄であると感じる。
- ・他の機関などと連携を図る事、どの様な団体や機関があるのかも把握する事。
- ・たてわり、つながりにくさ
- ・別事業所では相談活動も行っています。音楽会や学習などのイベントも行っており、地域の方々の参加も得られています。それでもまだまだ孤立している人は多いだろうと思います。そうした人たちが気軽に利用できる公共の場や相談できる場を町単位ぐらいのメッシュで行政が作り、それを核として民間の事業所、団体が連携できればなあと思います。
- ・地域との連携をどのようにすすめていけばよいのかよくわからない。
- ・地域も当事業所もお互いのことに興味持っていないと感じているので、地域とどのようにつながりをもっていき、運営していく方法が分からない。メリットもあいまいなところがある。
- ・行政支援中心での支援はあるが、世代別の部署で取り組んでいるので地域を全体的にまき込むような活動になるとお互いの負担も軽減するかもしれないと感じます。
- ・各団体、各分野が独立している感が強い
- ・地域内の他法人との温度差を非常に感じる。
- ・コロナ禍で減っていた外出や地域との接触の機会が回復しつつある現状下、孤立する高齢者に対して、地域住民と関係機関との協働したアプローチの強化が必要である。
- ・高齢者が住み慣れた地域で安心していつまでも心豊かに暮らし続けていくには、地域における社会資源の不足や制度の使いにくさが課題となっている。課題解決に有効な社会資源の活用ができるよう、また、資源がない場合は連携による解決も図れるよう、多職種・多機関との連携が必要である。
- ・地域住民と専門職との連携が難しい
- ・学校との連携の難しさ

【人材不足】

- ・現在、子ども食堂を行っている当社の拠点は堺にはありません。なかなか広げていくのは人員面でむずかしいです。
- ・人材が足りない
- ・地域との関りは少ないと思っている。活動を行った場合、スタッフの負担が大きくなってしまう。
- ・団体でのスタッフの確保（職員不足の中での）
- ・社会福祉法人として何かしていくべきだと考えていますが、人手不足でなかなか本来業務外に手が回っていない。ぜひとも地域に役立つ事をしていきたいです。
- ・地域とのよりよい関係性をつくりたいが、現場以外、外へ出かけて、つながりを構築していくところに時間がさけない。
- ・担当する企画運営する人材がないこともある
- ・現状の活動の中で、職員の資質が内容におよぼす影響が大きい。
- ・いろいろ取りくみたいですが人材がいなく保育で精一杯になっています。
- ・スタッフなどの協力者への理解がなかなか得られない
- ・ヘルパー不足、運営スタッフの充実
- ・地域への施設解放等、地域貢献に繋がる、活動を積極的に取り組みたいと思っておりますが、職員確保が困難なことや、現状で時間外勤務が、なかなか減少できない状況もあり、実施には至っておりません。
- ・今は他人との関わりが少なくなってきました。時代の流れではあると考えますが、こういった取り組みが行われている事を知っている方もごく一部に限られていると思います。学校や病院、福祉施設(事業所)など、人の多く集まる場所へ連携を働きかけ、もっと伝える人を増やして行ってほしい。

【業務負担】

- ・自園はまだ開園し今年で3年目ということもあり、地域の方にはまだまだ知られていないこども園です。又、自園の中の運営や取り決めを1つひとつ、築き上げようとしているところですので、地域活動まではまだまだ手が伸びないという現状です。
- ・社会福祉法人は本来、主導して地域貢献事業にとりくんでいかないと感じているが、地域の主だった課題を把握できていない現状こそが問題と思っている。
- ・業務負担
- ・当施設は現在、地域活動は諸藩の事情等により、以前のような幅広い活動はできておりません。
- ・弊社は介護スクールがあり、教室にて学びの場、交流の場として提供することは可能で積極的に取り組んでいきたいが、集客が難しい。
- ・本事業を行う事が必死で余裕がない
- ・日頃はこども園を運営し、多団体にスペースを提供することは難しい為、地域からのニーズに応えたい気持ちはあるが、なかなか応えることができない。
- ・子供食堂では、子供の集まりやすい曜日や時間は事業所としては難しいです。
- ・地域でしている子ども食堂やサークルなどにはすごく興味があるのですが、なかなかふみだせていません。
- ・自治会には加入していますが、活動には参加できていません(日曜日などで定休日のため)

【資金不足】

- ・きちんと対応してくれるスタッフへの賃金が払えるだけの収益
- ・ボランティアマネジメントできるほど財源的にも余裕がない
- ・活動資金の確保

- ・収入が安定しない（その年の0歳児の数や全体の児童数による）
- ・人件費の支出が大きい（都合で辞めた人の追加確保で人材紹介手数料がかなり大きく負担）
- ・委託金、補助金、助成金等の資金で運営となると、事業の維持だけで精一杯。
- ・古くなったクッションシート等の備品を買い替えることができない。長期持続活動をしている所に準備金に代る整備資金が欲しい。
- ・運営における資金面の調達
- ・運営資金の調達

② 地域コミュニティに関する課題

【社会的孤立】

- ・困難家庭の孤立
- ・閉じこもりがちの方など、本当に来て欲しい方がなかなか来ない
- ・子育てに困難を抱える家庭から、ひろばを利用してもらえるまでの流れが必要だと考えている。（孤立している保護者をどのように居場所まで誘い出せるかが課題である。）
- ・地域にはまだまだどの事業にもつながっていない方々がおられること
- ・高齢の方、精神不安のある方など、外出しにくく引きこもりになる場合がある。
- ・世代間での孤立が進んでいると思うので、横のつながりを強く出来る取り組みが地域内で進んでいけると暮らしやすくなるのかもしれないと思います。
- ・家に引きこもっている方が多い
- ・園へ来ていただける方や電話で話ができる方への支援は区役所や保健センターと連携をとりながら行っているが、コロナ禍もあり、交流の場が減り情報が得れなくなっている。困り事を抱えている方が多くいらっしゃるのではないかと心配している。個人情報のこともあり、地域の支援団体との情報共有も難しい。
- ・引きこもりの方が多いのでは？と思います
- ・引きこもりの方や困っている方が、相談できているのか、どの程度いらっしゃるのか？等
- ・福祉サービスにつながない人が少なくないと感じている。
- ・身近にひきこもり当事者が通うことのできる場所が少ない。（支援の狭間となってしまうため）
- ・コロナ禍で地域との交流が途だえた。
- ・一時預かりの利用家族などから、孤立しているご家庭がまだまだ有るように思われます。
- ・8050問題、ひきこもり等が課題に思われる。
- ・外での活動に興味が無い自宅に引きこもっている方たちにどうやったら興味を持ってもらえるかが課題に感じている。
- ・ひきこもりの「8050問題」等を高齢者支援機関が把握していても、相談先がわからず抱えこんでしまいがちとなっている。
- ・コロナによって人とのかかわりが寸断され、五類に変わったが人の気持ちの中は、関りに対する後遺症のようなものが残っている。それを上手く切り替えられないのが障害者の人達で益々落ち込みを感じている。今になって社会の副反応を感じている
- ・孤立化している方は自分から声を出さないし、近所すぎて困っている事は言いづらい
- ・ひきこもりの方が多いこと、一歩外に出る場としても就労移行を活用してもらいたいです。
- ・地域につながりがある方とそうでない方の差が著しく大きい地域があり、こまりごとを抱える人が表出しにくい。

【少子高齢化】

- ・高齢世帯、独居世帯が多い。困りごとがあれば相談を受けている。
- ・人口減少

- ・ 少子高齢化が進んでいる区域のため、親子の参加数が減少している。
- ・ 地域住民の高齢化と、独居の方が多くなっていること。
- ・ 地域は高齢者が多く、子育て世帯が少ない現状です。その中で高齢者は基より子育て世帯の孤立化の予防に課題があるように思います。
- ・ 少子化が刻々とすすんでいること。
- ・ 地域の高齢化、老々介護が増えつつある。
- ・ 少子高齢化
- ・ 少子化
- ・ 少子化や地域格差による利用者の減少
- ・ 高齢化
- ・ 高齢の方が多。
- ・ ボランティアの高齢化
- ・ 高齢化と知識不足
- ・ 利用される方も支援する方も高齢化しています。
- ・ 高齢化によるマンパワー不足
- ・ 福祉、高齢等事業所が地域内に数多くあり、やはり少子高齢化が課題となっている。
- ・ 以前自治会の活動の中でも高齢者により活動ができないとの話があがっていたことがあります。また、デイサービスのご利用者においても一人住まいで自宅でお亡くなりになられていたことがありました。ただ、校区は商業施設も多く買い物に困ることもないようですし、活動もされているため、私どもも現在地域の課題について把握しようと努めているところです。
- ・ 少子化により年々利用者が減少している。
- ・ 地域の子どもの数が減っている。
- ・ 子どもの減少により継続していけるかどうかの不安があります。
- ・ 圏域全体において、総人口は減少しているものの、わずかながら65歳以上人口・高齢化率、65歳以上の一人暮らし人口は増加している、一人暮らし高齢者の方が心配しがちになるが、高齢者二人世帯等への支援が漏れる可能性があり、意識して見守りをしていく必要がある。
- ・ 少子高齢化が進んでいると感じる

【担い手不足】

- ・ 民生委員や福祉委員などの新しい担い手が出てこない。世代交替が進まない。
- ・ いきいきサロンの運営者側の担い手、後継者不足
- ・ 担い手のすそのをひろげる
- ・ 一部組織の弱体化、メンバーの脱退など
- ・ ボランティアの方も高齢化、マンパワー不足
- ・ 地域活力の衰退。
- ・ 地域ボランティアの高齢化、後継者がいない
- ・ ボランティアさんをどう集めたらいいのか？ボランティアさんへのお願い範囲
- ・ 高齢者が多く、若年世代が少ない。
- ・ ボランティアの参加者が年々少なくなっている。
- ・ 地域の担い手の高齢化。これまでの活動を引き継げる人材の不足。
- ・ 一部の老人に仕事が集中
- ・ 後継者がいない。
- ・ ボランティア不足

【つながりの希薄化】

- ・ 自治組織が弱い（基盤が出来ていない。）

- ・自治体活動が難しくなっている
- ・他人への関心の薄さ
- ・自治会の過疎化により、住民同士がつながりを作る場が少なくなっている。
- ・地域との関わりが少ない
- ・独居が多く自治会等に参加していない。
- ・地域の高齢化により他者との関わりが希薄になっていること。
- ・自治会未入会の方への利用

③ 地域活動に関する課題

【移手段】

- ・参加される方は、歩いて、来所が条件となってしまう為、送迎などがあれば、参加しやすいのではと思います。高齢化で出られない方が増えているため、その方たちを連携できる所へつなげたい。
- ・コロナの影響でそれまで地域の老人会で行われていた活動がほぼなくなり、集まって話をする機会がなくなった。元気な（介護サービスは不要）高齢者の集える場所が少ない、又は集う場所がみつかっても移手段が少ない。もの忘れカフェに参加したくても、移手段が無い人がいる。
- ・開催場所が限られており、移手段がなく参加できない人も多いと考えられる
- ・移手段に困っている高齢者の方が多いと感じています。その中での一部の方は長い距離を歩けないから車に乗るといふ方もいます。運転は危ないので止める声かけは行いますが、免許は更新されるので乗り続けています。高齢者の方の移手段を支援することも必要かと思えます。また、社会福祉協議会の方で把握している課題があれば教えて頂きたいです。
- ・森（里地里山）の整備を行うボランティア活動を続けているが、公共交通手段の乏しい地域なので、交通弱者の方に来ていただくことが難しい（含、ボランティア活動をする会員そのものにも）（コロナ禍が静まりかけた中で、ボラ活動の居場所提供効果を会員皆が認識したと思います。少し視点はズレますが。）
- ・気軽な便利な移手段が必要。
- ・交通の便があまり良くないので、特に障害当事者の方々にとっては活動の幅が限定される。
- ・電車、バスなど公共交通機関の利用を避けられ、ご家族が体調不良などで送迎ができないと「欠席します」と仰る方がいます。利用しずらさを減らしていかないと行動範囲が広がらないのではと思います。（エレベーターの設置場所など）
- ・交流（移動）手段、買物、運転免許の返納等。
- ・高齢者の方については、外出が出来なくなったり、買い物やちょっとした事が自分では出来なくなっている方が増えています。介護保険制度ではカバー出来ない事があります。
- ・交通安全
- ・カフェを行っていますが、カフェに来るまでの移手段が課題、歩ける方ばかりではなく電車やバスに乗ることも難しい人もいます。
- ・坂道が多い為居場所を作っても、自力で行ける人が限られる。
- ・高齢者の外出手段が少なく活動が制限されてしまうこと
- ・健康福祉プラザの交通の便が悪い為、交流の場として活用しにくい。

【居場所の必要性】

- ・当事業所は就労支援の事業所ですが、生活面で支援というほどのサポートではなくても「顔を出せる場所」があるといいなあと感じることがあります。（利用者さんが）
- ・グレーゾーンの方々には就労後も1人で過ごされている方が多い。当事者会などで「いつで

も参加できる」「いつでもぬけられる」「いつでも戻ってこれる」地域活動の場が必要だと感じている。

- ・御社は就労移行ですが、プライベートの交流のうすさから家族間の依存度が高くなったり、リフレッシュする場（方法）の少なさが継続就労のさまたげになっているケースが散見されます。地域の中でホットできる場所・仲間の必要性はとても感じます。
- ・安心して障害者がすごせる場が少ない。
- ・障がいをおもちの子どもさんが参加できる子育てサロンが少ない。その親御さんがつながりをもり、相談し合ったり情報交換できる場面が少ない。
- ・孤独を感じている人が、居場所を見つけ、他者と接する喜び。
- ・福祉的支援は、横軸の輪切りになっているので多世代で交流できる場が必要と感じています。
- ・小学生、中学生も近隣センター付近で集まっていることがあるが、小・中学生が自由に入りできる居場所も必要かと感じます。
- ・高齢者の方の交流する場所が少ない
- ・地域会館が高齢者の集まる場となっているが、女性が多く、高齢男性の地域での居場所が少ないように感じます。
- ・出生率の低い地域で子育てサロン利用者は非常に少ないですが、サロンや子ども食堂等居場所を開けておくことが大切なので取り組みを継続して行って欲しい。
- ・身近に行きたい(通える)場所があるとは限らない。
- ・異世代間の交流
- ・子どもたちが安心して社会性を養える場が不足している。
- ・福祉サービス以外での地域の居場所や見守りなどに期待します。
- ・コロナ禍の時より子育て広場などの参加者がとても増えていて地域をこえて参加しておられる方もいます。そういった場を切望されている方の多いことを感じます。
- ・子ども達とお年寄りが一緒につどえるとりくみ

【活動拠点の整備】

- ・地域会館以外の場所で、地域で集える場所の確保。歩いていける距離もしくはもう1か所くらいが望ましい。
- ・体育館使用をインターネットで予約する体制づくり。
- ・保育園の前の公園には、たくさんの親子や子どもたちが遊んでいます。猛暑や雨の日など集える児童館などがたくさんあればいいのに。と思います。
- ・集まりの場が遠い（高齢化している）
- ・場所と広報。自主的な取り組みは、場所の確保に苦労しました。近隣の人でもわかりにくい場所だと広報もしづらい。
- ・学校の体育館等の使用が可能な方策があれば良いのですが。
- ・明るく開放的で広がり（広さ）もある、そういう場を確保しにくい（主に経済的理由）。
- ・もう少し身近で身軽に利用できる福祉施設がほしいです(スポーツ・文化・美術など)

【活動の継続】

- ・私個人的な意見として（現在子ども食堂でのボランティア活動をしています）食材提供などの確保が難しく居場所となる場所もなかなかない。
- ・コロナ禍での活動や取組のむずかしさ（状況により中止、縮小を考慮しなければいけないこと）
- ・年1回のバザーを通じて、地域との交流を図ってきました。地元のまつりにも参加させてもらっています。が世代も交代していき継続の難しさを感じています
- ・スポーツ活動をする体育館が定期的に使用することができないので、継続した活動の計画

が難しい。

- ・継続や広がり

【防災体制】

- ・防災力向上
- ・防災について地域との連携のとり方がわからない、見えない
- ・防災…障がいのある方が地域で防災対策や備えをすることができるが、また発災時の的確な対応など、どちらかという事業所がまず地域のことを知って地域とその地域に住んでいる障がいのある方をつなぐことができるかが課題(事務所としての)
- ・施設の近くに高齢者が何人か住まわれているが洪水などの有事の際どのように避難されるかのような情報をどのように受けるのかなどの課題があるように思われる。

④ 支援体制について

【子どもに関すること】

- ・堺市には自立支援援助ホームが1つもないという事。
- ・子育てに関心を示さない親御さんが増加しているように感じる。
- ・園庭開放を積極的に利用してくれている保護者に関しては課題は感じないが、相談する人がいなくて家にいるような保護者などには、アウトリーチ型の支援を充実させるような必要性を感じる。
- ・子育てのこと、家族のことについて誰にでも相談できる、いつでも気軽に遊びによれる、地域にとけこんでいく難しさ。
- ・医療的ケア児の問い合わせに対応しきれていない。
- ・不登校になっている子どもたちへの支援の充実、(その家族への支援)の充実
- ・弊社の放課後デイサービスでは、特に家庭全体への支援が必要な子どもが多く、年々このような家庭及び子どもが増えていくように感じる。
- ・保育園では保護者が労働と子育ての両立でゆとりがなくなっているように感じます。ゆったりと子育てができるよう、いろいろな支援が必要だと思います。
- ・地域の子育て支援として、子育てサロンに参加しているが、子どもの減少で年々参加者が減っている為、継続できるかを懸念している。
- ・少子化やコロナ感染症の不安のため母親の交流場所や子どもたちの遊び場が少なくなっている
- ・子どもの育て、遊び場、子育て相談、家族間交流。
- ・園庭開放…月に1度。それ以外では、安全面(通園の子供達)や施設の安全(人員の確保)などを考えると難しい。
- ・子育てのしんどさを感じている方への支援
- ・園庭開放は参加者が多いが、地域でしている子育て広場は、なかなか参加者が増えず、役を引き受ける保護者さんもいなくなってきた。(年に1回地域サークルとコラボしていたが、だんだんなくなってきた。)
- ・核家族が多い中、家で1人で子育てをしてひきこもりがちの人にもっと気軽に遊びに来て欲しい。子育ての悩みや情報交換などできる場にしたい。
- ・子育ての課題を抱えている世帯の掘り起こし
- ・地域の行事や居場所など、例えば小学生なら、すべて学校につながっているか、つながっていることが多くある。学校がいやな子どもは、地域の行事にも居場所にも参加しにくくなる。
- ・少子化の影響もあり、園庭開放などに参加する親子は減少傾向である。現在は、場の提供にとどまっているため、内容の充実を検討しなければならないと感じています。

- ・地域的には乳幼児の人口が少ないことやここ数年のコロナによる交流ができなくなってしまったり制限がまだ残ってしまっている現状がある。
- ・地域の世話役の方が高齢となっているのでサロンなどの取り組みの際に当園職員が中心的にあそびを実施している。
- ・地域の乳幼児が減って、高齢化している。いきいきサロンへの園児参加が、コロナ禍ではできなくなっていたが、今年度より再開していく。(昨年はいきいきサロンや親子教室へ子どものビデオで歌など見てもらった)
- ・1才児と2才児を預かる保育園・こども園が足りていない。
- ・地域の子育てひろばは月一回だし、コロナ禍で開催していない間に利用者が入園してしまった為、再び情報発信していく必要がある。利用者が定着しにくい。
- ・ほんとうにこまっている子どもが上手につかえることができるのか…と今の現状では考えることがある…
- ・以前は、子ども会との交流をしていたが、地域の子ども会がなくなり実施できていない
- ・のびのびルームでの子ども達に対する配慮が必要
- ・不登校児へのケアー
- ・子育て中の保護者の話し合いの場等
- ・教室では、保護者さまと子育てのおこまりごとなど話していますが、保護者の方にとって話をしたり相談できる場所が多い方が良いと思います。しかし、どこにどんな話せる場所があるかなど、情報共有できる方法が自主的にネット等で調べるしかなく、それを知るところまでたどりつかない方もいるのではないかと思います。
- ・園庭解放を行っているが、地域の少子化もあり参加する方が少ない。
- ・利用者同士の関わりや保護者会等で保護者同士の関わりはありますが、地域の方や他事業所の方との関わりは中々増やせていないことが現状です。
- ・親子での集いを行って来たが参加者が減っている
- ・子どものみの参加や就園、保育所の入所などが求められている。
- ・低年齢化している。
- ・小学生、中学生の子どもや親の気軽に相談や居場所がないように思われる
- ・学童
- ・支援の必要な子どもの保育
- ・今、0～3歳ぐらいまでこどもさんを持つ保護者さんは、コロナ禍の中での出産であり、親子で他の子育て親子と交流する機会がなく、孤立化が目立つ。そしてそのまま就労される保護者さんが大半なので、地域とのつながりが無いままとなっている。
- ・地域には若年で出産された人や外国から来られた人も多く、様々な困り事を抱えていたり、虐待傾向が多い世帯も多く、地域内での人とのつながりや見守りが必要。
- ・地域の中の園として園庭開放などの利用につながるように知らせていく機会をしっかりともっていききたい。

【障害のある方に関すること】

- ・自分のできる仕事(事)をみつけ、工賃を貰いながら自信をもって生活できる場として、地域と連携し、利用できる方を増やしていきたい。
- ・作業活動が少なく、頂ける工賃額が少ない。
- ・障害のある方の居住について、1人暮らしを希望する方に対する支援のあり方。
- ・障がいのある方が利用できる場所以外の地域会館や体育館なども気軽に利用できるようなれればと思う。
- ・通所介護という位置づけで法律上「居場所活動」はどう考えたらよいかわからない
- ・我々は障害児童の支援を行っています。放課後等デイサービスだけでは特に軽度の児童は

これからの成長には他の活動の場所が必要だと思い他の場所のアート展、スポーツ活動をすすめているが、その場所活動をすすめた以上、多少の関わりを持つには、スタッフの負担があります。

- ・児童発達支援、放課後等デイサービス事業において、コロナ禍等で、地域交流の場が少ない事が課題と考えています。
- ・難聴児の療育が事業の中心。利用者の住所もいろいろで遠くは和歌山や奈良なども。そのため利用児個人の幼稚園、保育園、学校での聞こえやすい、過ごしやすい環境作りが取り組みの1つ。居場所という視点からは大きくはずれている。
- ・診断を受けていない方、手帳をお持ちでない方。知的にグレーゾーンの方など制度の狭間にいる方へのアウトリーチは早急に必要と感じている。
- ・障害福祉の各サービス事業の支援者同士の交流が少ない、放課後デイサービス、相談、作業所など、事業所数が多いことでも交流はとりづらく支援者同士のつながりがなく、気軽に相談できる場がない。
- ・就労されている世帯が多いため、平日、日中の動きがとりづらく相談につながらない。土日、夜間に活動されている資源の把握、開発が必須と捉えている。
- ・障害のある人の余暇の充実、経験を広げていくこと
- ・移動支援は1対1の支援であるため、集団でたのしめるような活動の保障が必要であるが、地域活動支援センター事業など以前はおこなっていたが事業を中止した（人材、財政面）経緯があります。
- ・私は、現在児童発達支援を事業として1年2ヶ月たちました。将来的には、社会福祉法人を設立し保育園を設立したいです。自閉症児さんが豊かな人間関係を多様化園で過ごす場合にどういう形がよいか日々考えております。自閉症児童ははじめはできるだけ少人数クラスに入り、通常クラスからわけてあげて園の環境になれてきたら通常クラスと自閉クラスの行き来ができる園を私は設立したいです。
- ・障がい特性の理解
- ・障がい児通所事業所をやっています。夏休みや冬休みに外に遊びに行ける場所や施設が少ないように感じます。
- ・我々の事業所は知的障害の方を対象に支援を長年やってまいりました。その中で自閉的傾向や重度の知的障害の対応をする時に、どうしても外部との交流が持てず、閉鎖的になってしまう傾向があります。また、コロナ対策も引き続き必要で、感染対策の難しい利用者が外部の方との交流の機会を持つ事の困難さを日々感じています。
- ・地域の方々と挨拶を交わしたり、お話をしたりする事はある。地域のお祭りにも参加したりはあるが、こども園や学校関係との交流が課題であると考えています。
- ・移行支援は通過型の施設なので居場所としての機能に重点を置くのも難しいなと思います。
- ・(当事者目線で)障害福祉サービスの認知度が低い、偏見が大きいと感じる。
- ・障がいの子供達が利用できる場が少ない
- ・障がいをもった子供の親御さんが相談出来る場が少ない
- ・児童専門のショートステイなどの社会資源の少なさが課題として感じています。家庭内トラブル時などに緊急で利用出来る場所がもっとあればと感じています。
- ・重度障害や支援学校へ通っているお子さんは放課後デイサービスの利用に繋がりがやすく、相談支援も付いてもらいやすいが、地域の小学校の支援級もしくはグレーと言われるお子さん達がサービスに繋がりにくい。不登校の子ども達も多い。
- ・障がいのある人でも気軽に参加できる（手続き含め）イベントがあれば活動に組み込みやすい。
- ・就労継続支援A型事業所の数が年々少なくなり働きたくても働けない障がい者の方がいます。助成金や工賃で悩まれている事業所もあります。市と事業所が連携し、どうすれば事

業を継続していけるか？工賃向上に向けた各業者への工賃交渉など具体的なアドバイスをいただけると幸いです。

- ・障害理解。地域の認定こども園との交流の場があります。そこで感じるのは子ども(園児)は障害児・者に対して普段通りであるが、保護者の方が、そうではない。理解してもらおうと受け身では、いつまでもかわらない。こちら側も理解を得られる活動は必要だと感じますが、何ができるのか、分からない状況です。
- ・福祉事務所としてまだまだ地域の理解が乏しく、交流なども難しい状況である。利用者の障がい特性上も困難なことが多い。
- ・障がい者が地域(住んでいる)ところで公園や施設を利用し活動するには様々なハードルがある。事業や活動するにはまず安全の確保、利用者の利便性、サポートする人の確保、資金など準備も大変であり、まず当日は他の一般の利用者への理解を深めてもらうために声かけ、活動の説明などを行い多方が認めあって尊重する場づくりをしなければならない。地域の課題は多様な人々を認め合う経験を増やすことであると思う。
- ・まだまだ障害者に対する理解が浅い。
- ・障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生社会を実現する為には、地域社会において関心と理解を深めることが必要不可欠です。
- ・堺市内には数多くのインフォーマル活動が展開されていると思うが、必要な方への情報提供まで至っていない。
- ・障害のある方の相談窓口がまだまだ地域の方に分かりにくさはあると思います。
- ・地域の活動に障害があってもなくても交流(→参加)できるようになればと思います。
- ・障害児への支援を主体とした同じような事業を展開してるところがあればつながりたいと感じる。情報共有などできればと思う。
- ・堺市の各区によって提出書類の種類が違うので統一してほしい(例えば就労継続支援A型事業所の利用者暫定期間後の書類)
- ・地域住民には高齢者が多く、障害を持つ子どもに対しての理解がまだまだむずかしい様に思える。
- ・情報の多様化により地域での障害理解がすすみにくくなってきているように感じます。
- ・地域の課題というよりは私達の問題であるが、精神障害者(主に精神の方が多い)のことを地域にどのように受け入れてもらえるか、さらにていねいに取り組む必要があると思う。
- ・障害福祉事業者を運営する上での地域の理解
- ・当事業者には重度の障害を持つ方が多く、地域との交流がなかなかできない、かつ、大きな声で叫ぶ児童もおり、気をつけてはいるが、苦情につながることもあり苦慮している。
- ・就労を継続する上で生活の安定が大切であるが、既存の福祉サービスを希望しない、ニーズに合わない利用者が多い。
- ・援産製品の販売をフリーマーケット等で行い、地域との交流を図りたいが、地域内でフリーマーケット等、ハンドメイド作品を販売できるイベントが無く地域交流の機会が少ない

【高齢者に関すること】

- ・高齢者対象であると、声の聞き取りが難しく、コミュニケーションが自治会館にあれば、様々なサロン活動で利用できる。
- ・ひとり暮らし高齢者の数が多く、ワンルームマンションがあり、見守りが働きにくい。業務中におこなうか、ボランティアでおこなうかが難しいところだ。
- ・介護拒否のある独居の高齢者の支援
- ・地域包括支援センターがまだまだ知られていない(周知されていない?)と感じます。
- ・MCIの状態でも来所し、予防に取り組んで頂きたいが、初期の段階で来所される方が少ない。早期対応の必要性を皆様知って頂きたい。

- ・子ども食堂を中心に活動していますが年配者の孤食も広がっているように思います。
- ・施設を認識されている方がいらっしゃいますがまだまだ施設の事を知ってもらえていない事が多いため、カフェを開催することで相談できる場所として認識していただけたらいいと思っています。
- ・高齢になってからの居場所参加は難しい。若いころから地域とのつながりを持つことが必要。
- ・高齢者の活動の場、やりがい、人生を楽しむ、後世に継がれていく事など。
- ・周辺地域の高齢化→介護予防の必要性が高まっている。
- ・シルバー人材サービスなど利用したくても地域によって使えない、また予約がとれないという声をよく聞きます
- ・高齢者はインターネットetcが使いこなせない為、情報が入手しにくい
- ・この地域の高齢の方（が多いように思うので）との交流なども考えていけたらと思います。
- ・デイサービス等の利用が増える一方で、デイ等でのコミュニティはあるが、住んでいる地域とのつながりが薄くなっている気がします。
- ・地域の方々が高齢なのでその方々のつながりを意識する事。
- ・高齢化に伴い、一人暮らし、高齢者世帯（老々介護）が増え、見守り支援、孤立しないように体制や環境づくり。
- ・地域における現在の地域活動のニーズがわからない。60～70代向けの活動は現行通りの活動でよいのか。地域のニーズ収集が難しいと思う。
- ・独居の高齢者が多く日常の居場所がなく認知症の発症が現れる人が多く感じます。
- ・コロナの影響や高齢化等で外出して人と接する機会が減っている話をよく聞きます。久々のオレンジカフェを再開しました。広い場所で換気注意しながらで予想より多く来ていただけました。初めてオレンジカフェを知っていただいた方、以前から参加いただいていた方（他の参加者の方、スタッフも含め）との再会をととても喜んでくださり、こういう（人と会い自由にお話できる）場の大切さを改めて感じました。
- ・地域の高齢者に存在を知っていただく事。
- ・老健施設を運営する中で、地域の高齢化、認知症高齢者の増加を感じます。その方々の生活の場の提供や生活継続支援の必要性を感じます。
- ・身寄りのない独居高齢者や精神疾患をおもちの方が非常に多く介護保険（＝社会保障）制度では対応不可なインフォーマル支援が不足している。
- ・もっと気軽にデイサービスを利用していただきたいと思いますが、お金のことなど心配されているようです。
- ・買い物に行きにくい高齢者や身体的な病を抱える人たちへの支援
- ・家族や地域とのつながりが希薄化していることから、孤立や閉じこもりの方、サービスの必要性があるも拒まれる方（高齢者・家族）、身寄りのない方等への見守り体制を構築し、支援を必要とする高齢者の早期発見・早期対応・予防対応ができるよう、ネットワークの強化をしていく必要がある。
- ・支援を必要とする高齢者の方が、早い段階で支援に手を挙げるができる体制づくりも必要である。
- ・高齢者の方自身が横のつながりを持ったり、自分のことを周りの人に知ってもらう自分発信の啓発が必要である。
- ・地域において、まだまだ認知症のことが正しく理解されていない。
- ・高齢者の方が道に迷われたときに、地域住民がどう対応しているのかわからない。自然な声かけがしやすい地域づくりをしていく必要がある。
- ・介護者の抱え込みや孤立している可能性がある。
- ・コロナ禍で、フレイル状態に陥る高齢者が見られたことから、介護予防の啓発をする必要

がある。

- ・団地などの高齢者が入浴に困っている。(設備が古く、狭いため介護がしにくい)
- ・地区高齢者の方偏見強く利用進まない

【周知・広報】

- ・地域の方へ認知症カフェを知ってもらうために、自治会などへチラシを載せていただいているが、参加者が少ない自治会に入っていない方も多く周知方法が難しい。
- ・国籍のちがいが等による情報の伝達度の低さ
- ・支援が本当に必要としている人への支援が届いていないことやそういった人たちがどこに？何人？何を求めているかなどわからないこと
- ・周知不足
- ・感染症流行により3年弱、カフェ等の開催ができていなかったですが、参加して頂きたい方や、助けを求めている方等の参加が少ないと思います。ただ、施設としても周知はおこなっているが、限界がある為、そこに関して今後どうしていくかを考えていかないといけない。
- ・活動や取り組みの案内を広く行っているが、本来支援が必要な方や興味のある方へ行き届いていない。もしくは参加しにくい環境かもしれない。おそらく地域とそういった方を把握されていると思うが、声をかけにくかったりつなげられていないのではと感じる。
- ・何かは始めるにしてもどのように広報すれば良いのかもわからない。
- ・一戸建てで以前から住んでいても、生活が困窮していると近隣住民へ伝えることができない人がいること
- ・各活動に対しての地域住民の参加状況（なかなか参加してくれない）周知方法の問題？
- ・地域の交流が一部の方にかたよっている。皆に知られていないなどの課題があると感じる。
- ・子ども食堂のPRを学校に広げたいが学校長の判断となっている。重要なことを市で広げてほしい。
- ・自由に生徒が知ったり、堺市に広報にのせてPRしたりが必要。
- ・「新聞」を刊行し、依頼があれば主婦などに届けているので、よろこばれている。
- ・老人が多く、元気に清掃活動を楽しんでくれています(ホウキを動かすより口を動かして楽しんでいます)。宣伝はSNSで募集するため他地域の方が多く、地元への宣伝が難しいです(ポスター、チラシ、口コミ)
- ・地域活動支援センターでは、様々な方が自由に来所されていますが、障害者手帳を持っていない方からの問い合わせも多くあります。通院歴がある方など少し幅広く受け入れをして社会に出る一歩手前の場として開放していきたいと思っています。そのような取組を知っていただきたいのですが、なかなか地域活動支援センターを知らないという方も多く、知っていただく機会を増やしたいと思っています。
- ・まだまだ地域包括のことを知らない方が多く、もっと気軽に相談できる場所があることを知ってもらう必要がある。
- ・認知症の早期発見と、相談機関の周知が必要である。
- ・身寄りのない家族との関係が希薄な人で成年後見制度利用の必要性があるのに、利用をしていない人が多い、制度自体、地域住民にはあまり知られていない。
- ・当法人や施設がどのような事業展開をしているのか確認してもらう機会がなく困る。

【アウトリーチの必要性】

- ・福祉サービスにつながらない、つながっていない方々の情報把握についてとくに自治会会員外の情報収集が難しいかと思う。
- ・こんがらがった住民さんの暮らしの課題：アウトリーチが成立してもなかなかうまく次がつかない。

- ・高齢化がすすんでいると言われているが、どうアウトリーチしたらいいのかわからない。また、地域活動をされているグループもあるが連携や協力が出来ていないこと。
- ・現在、参加されている高齢者の方々は、地域でのフォローもできる環境にあると感じる。このような場に出て来る事が難しい方々への支援が課題ではないかと考えます。
- ・高齢の方、障害をお持ちで一人で暮らしている方などが相談できる場が少ない
- ・活動地域(圏域)が広いため、地域ニーズをひろいきれない。
- ・子どもの貧困へのアウトリーチ

⑤ その他

【今後の方向性】

- ・コロナ禍でもあった為多く活動はできませんでした。今後活動や取り組みを通じて感じて参りたいと思います。
- ・なかなか入れない雰囲気がある。
- ・地域課題としてとらえるのであれば、障害のある方々が地域を支える一役となっていることをより地域の人々が理解できるようにすること。手帳の有無やサービスを利用しているかに関わらず、当事者が主体となって活動できる場が増えるよう地域活動支援センターの運営を通じ貢献しなければと考えています。
- ・認知症カフェの担当になったところですので、今後課題につきましては、前担当者から引き継ぎをしてから具体的に考えていきたいと思います。よろしく願いいたします。
- ・成年後見制度や介護保険等の制度では支援が難しい方が増えてきているように感じます。また、独居高齢者は地域や支援者とのつながりが希薄で見過ごされがちである一方、単独で支援を行う困難さも抱えています。居場所活動が支援者の連携の場としても機能することを期待します。
- ・私達は6年前より15名で集まり毎月1回定期会議を実施。2年程かけ「何をやるか！」を議論しました。そもそも、この会は「高齢社会をどうのりきるか！」がテーマです。メンバーは30代、40代、50代、60代、70代の高齢者です。2年の議論で目的を2つに絞り込みました。①高齢者への人・もの・サービス(ケアマネ、医師、老人ホーム、包括等)が知られていない。知ってもらおう・広報的役割。②おせっかいさんを増やそう。現在、専門家をお呼びし、3回の講演会を実施。1回目-相続に関して。2回目-知ってもらいたい「地域支援包括」。3回目-特別養護老人ホームには入れるかも。1人でも多く参加してもらう為にコミュニティ、地域SNSに投稿等PRしています。やはり、「高齢者の各種サービス」を知っていただく為には堺市広報や、社会福祉協議会のお力が必要です。私達のメンバーに社会福祉協議会の方も入っていただいておりますが、ほとんど不参加の状況です。「協議会」のお力があれば、テーマを同じくする人達ともっと輪が広がると思います。よろしく願いします。
- ・希薄になりつつある近隣同士のお付き合いを地域交流や防災訓練を通じて、一定保っていければと思います
- ・デイサービス内でも徐々にコロナへの感染対策をしながら活動を再開している行事などもあるが、外部への再開も上の指示をあおぎながら進めていきたい。
- ・大きいことはできませんので卒園児、その保護者がいつでもこれる場で有りたいと思っています。そこから卒園児の友達、その保護者の関係する人に広がり、助け合いができればと考えています。年々卒園児が増えますので広がりつつあります。地域貢献をふくめ社会福祉施設のできる事を考えて行きたいと思います。
- ・当施設で今後ご本人をめぐるサポート環境を作り対応していきたい
- ・近くでイベントやまつりなどがあれば、交流の場のひとつとして、参加できたらと思います。

- ・自施設が拠点となりスタッフの悩み相談、救急救命等の研修なども参加して頂ける場も設けていきたい。
- ・地域コミュニティの場として各種団体に利用して頂いているが福祉活動に対しての地域住民の関心度を高めたい。
- ・今のところ特に感じることはありませんが、このアンケートに回答することによって、地域についてのことにも目を向けていく必要性も感じました。
- ・居場所づくりより、集いのサロンやサークルなどのご依頼を受けてサポートやサービス提供を行っています。ご依頼希望の方とつながりたいと思っています。
- ・居場所活動の必要性は感じているので考えていきます

【その他】

- ・世代間の交流が進むと地域の活性化に繋がると感じます。
- ・日々、通って来る利用者さんは、健康にとらわれがちですが、腰痛、膝痛等老化といわれるような症状をかかえています。主に介護や孫守りの最中の人も多く、日常、絶えず自分の健康管理は二の次になりがちです。また改めてスポーツジム等に通い体力強化する状況でない人達が、気軽に自分の健康・体力維持をする為にすぐ近くにある自分の居場所を持つことが不可欠であると感じています。
- ・地域にかぎらず、我々の事業を理解している人は少ないと感じている。
- ・参加者が定着化しており、新規参入がしにくい。
- ・時の政治に左右されず継続実施の必要あり、地域、エリアによってニーズがちがうのでその実情に合わせた支援をのぞむ。
- ・どんな人も受け入れる、ただし、犯罪防犯には注意、人間関係作り重要、近所づきあい難しい。
- ・地域の方々にはそれなりに受け入れて頂いているように思います。
- ・コロナで地域とのつながりが見えにくくなった。薄くなったりなくなったわけではないが、距離感が（利用者、対象者の）計りにくい。
- ・感染対策を考えるとあまりオープンな活動には躊躇がある。
- ・大型集合住宅が建設できない地域である。
- ・祭りでつながっている地域なので今の所、課題はわかりません。
- ・対象世帯数のニーズに対して数が少ない
- ・自治会等のイベントに参加しながら交流を図っている。本園での行事にも協力していただき感謝している。
- ・地域に入り込む突破口が見いだせない
- ・活動、行事等で地域の方との触れ合いがないので、少しずつでもいいので関わりを持てるような活動を取り入れたい。
- ・地域課題の多様化
- ・支援の垣根
- ・支援をしたいけど、どのように支援したらいいのかわからない＝支援したい人とのマッチング
- ・どんなことをしていいのか？支援団体と支援する側、される側のミスマッチ
- ・以前ふれあい喫茶を実施していた時に地域の方々に来て頂き喜ばれていました。しかし、ふれあい喫茶を運営、活動するには場所や職員、材料等が必要でありボランティア精神では難しい面がありました。
- ・地域の方は、高齢の方が多く、自治会での交流(回覧板を流しているだけですが)があるだけです。
- ・喫茶やリサイクルショップの利用など、多くの地域の方が利用されています。

- ・自治体活動は活発に行われていると思うが、参加する人は限られていると思う（夏まつりは例外）。
- ・地域交流も限られた団体等になりがち
- ・主に食料における貧困
- ・消費者被害の事案はあるも相談が少なく、把握が困難。消費者被害の防止に努める必要がある。
- ・福祉活動にとっても力を入れておられる地域です。
- ・出来るかぎり参加させて頂いています。
- ・窓口になる地域の役員さんを見つけられなくて困る。
- ・地域の催しに声がかからず困っている。
- ・地域の範囲はどの程度かと悩むことがあります。

問14 貴団体等の活動や取組、事業などを通じて地域福祉をすすめるうえでの資源として把握していることはありますか。

① 人に関すること

【地域活動者】

- ・人
- ・障害・介護サービス事業所、地域の商店や企業、地域住民にも地域づくりや社会課題に対する意識を持った人々がいる為、フリーな交流の場をつくり、課題解決に向けた取り組みができればよいと考えています。
- ・一言で「人」「マンパワー」です。地域の居場所として活動を始めて6年。利用者の中で、知り合い、友人となり、仲間作りができ、退職して地域に戻ってきた人、退院した人、パートナーを亡くした人他、そんな人々に気付き、声をかけ、居場所に誘い、新しい一歩の道しるべとなる。この現実を目の当たりにして来た6年間です。「人」ってすごい財産です。
- ・子育て支援として、子ども園に入園を迷っている方や入園できなかった方が、子育てについての不安を相談できる地域貢献員（スマイルサポーター）がいる。
- ・当事者の方々だと思います。
- ・社協のボランティアさん
- ・民生委員さんが家族と関わっていることもある。身近な支援者が実は少しの関わりを持つことで支援を担っている。支援者同士がつながることができれば、より早く、身近に支援の網が構築されると思う。
- ・人材
- ・近隣の住民とは少し交流あり。民生委員や地区会長などとの交流はありません。
- ・地域福祉活動に地域住民の力をかしていただきます。（七夕をまちに飾る時のこよりづくりを教えてもらうなど）
- ・地域の理解、地域住民の方々の理解がある上で、安定した支援や安全な支援ができると理解しています。
- ・地域のボランティアさん、子ども達etc. マンパワー。

【専門職】

- ・相談員
- ・基幹型包括支援センターの方や地域のケアマネ事業所の方も熱心に活動されており、活動に声をかけてくださり、日頃よりお世話になっております。感謝申し上げます。
- ・育児相談に応じることのできる人材がいる。

- ・発達障害者支援センターや各区障害者基幹相談支援センターなどをはじめとした地域の機関の方々。
- ・相談員の方や公共機関の方等
- ・機関や施設、人など
- ・「ひきこもり」については、高齢支援機関が把握してくださっていることが多い。各区保健センターですでに相談にのってくれていることも多い。
- ・ボランティア精神が旺盛で見識あるスタッフが多い
- ・職員の中に保護者（地域の親子）の相談交流の場をつくりたいと考えている人がいる。来年4月以降を目処に作っていききたい。

② 団体・組織に関すること

【専門機関】

- ・地域活動支援センター
- ・市などの公的機関、発達が気になる子などの相談機関
- ・社協
- ・自治会や府社協（オールおおさか、しあわせネットワーク）等
- ・法人内に子ども、高齢の施設が複数あり、総合的な支援や窓口の機能として支援できればと考えている。
- ・弊団体はママと社会をつなぐことを目的とした団体で、幅広い活動やとりくみを行っています。ママ向けに口コミサイトを軸に活動する大阪最大級のママコミュニティサイトを運営し、企業様向けにママのスキルや視点を活かしたサービスを展開しています。
- ・保育園としては何もできませんが、月～土で（土）も開園し、保護者を支える施設としての役割を果たすことが資源になっているのかなと思います。
- ・地域包括支援センター、保健センターの活動
- ・障害者基幹相談支援センター
- ・地域生活支援センター
- ・堺市健康福祉局長寿社会部長寿支援課など
- ・コノミヤ、保健センター、障害基幹相談支援センター、エマリス
- ・行政機関、病院、その他福祉サービス機関
- ・行政だけでなく、社会福祉協議会をはじめとする地域の関係者、団体
- ・当センターにさまざまな営業や地域とのつながりを作る上で、相談に来られます。→営利だけでなく。障害に関する情報が多いですが、工夫しだいでは地域福祉につながる資源にもなりうると思います。
- ・本業が精神障害を主とした障害者福祉なので、保健センターや障害福祉サービス課はお世話になっています。
- ・生活困窮者の支援という点では社会福祉協議会、生活援護課です。民間団体では、生活と健康を守る会、医療関連では耳原鳳クリニック等の無料定額診療など相談にのっていただいております。
- ・堺市立人権ふれあいセンター
- ・堺市市民活動コーナー（NPO支援）
- ・ファインプラザ
- ・地域のスーパー
- ・地域で長く商売をされているお店など、ひきこもりの方のことなどご存知なのではないかと思います。美容院など。一緒に参加して、地域に広げていきたいと思っています。
- ・広範囲に展開しているスーパーや大学など、大規模な組織が存在するので、商品や場所の提供が資源となり得ると考える

【活動団体】

- ・自主グループ（ウォーキング、体操、太極拳など）
- ・ボランティアグループ
- ・子どもとあそぶボランティア団体など
- ・地域住民団体について
- ・グループ内でのたまり場支部
- ・女性団体等
- ・担当校区の地域団体及び地域活動。
- ・各種団体における強みを活かした支援（お金や物、人等）
- ・他のボランティア団体、当法人とはテーマの異なるNPO法人など
- ・ライオンズクラブ
- ・ボランティアサークル「ニューウェーブ」の活動

③ 地域活動に関すること

【活動内容】

- ・企業の地域貢献活動。
- ・地域の方々の多くの目が事業や取組を知ると、大切な資源として輝くかと考えています。
- ・健康福祉プラザの趣味講座。
- ・地域会館での「げんきあっぷ教室」やクボタランドでのランドゴルフなど。
- ・野のちから（社会福祉法人）が行っているフードバンク
- ・当法人のみみはら友の会が行っているふれあい昼食会、子ども食堂
- ・身体障がい者ピアサポート「やっちゃんカフェ」inちぐさのモリ
- ・地域の高校生との交流
- ・中区ふれあい体操や美原区フェニックスなど、元気あっぷ教室
- ・障がいがあっても気軽に参加できるイベント
- ・地域活動支援センターかたくらも「ふれあいの里かたくら」を拠点として活動しているので地域のイベント（おまつり）等に呼んで頂いて存在をアピールしている
- ・月一回程度、施設職員による、お習字教室を行っているので、地域の人々も参加をしてもらうことは可能である。
- ・支援学校での就労移行支援事業所の合同説明会
- ・堺市役所での就労移行支援事業所のパネル展
- ・地域の養鶏場に毎日半日、利用者が通い、作業を行っています
- ・地域のお祭りやイベント事も居場所作りとして大切だと感じている。
- ・地域祭りの参加、施設近くの駅内ショッピングモールでの買い物活動、など
- ・各校区のいきいきサロン、お食事会
- ・多世代（こども）食堂、コーディネーターセミナー、学校ごっこ（生涯学習）、キャンドルナイト、ビアガーデン、ボランティアビューロー（ぶらりルーム）等 若い世代の方や男性の方などが参加できる活動の取組み、自治会未加入の方も参加できるように「まちづくり協議会」で取り組まれ、ボランティアを含め連携している。
- ・認知症サポーターの会「きずな」、定期的に予防教室、「家族の会」交流会、きずな相談日（地域包括支援センター、在宅介護支援センター連携）
- ・近隣の飲食店が職場実習を受けいれてくれていて助かっています。
- ・各種子育て支援施策の取組み・支援
- ・マンションの清掃、公園内の除草等に取り組む際に、地域の方々からのあたたかい声掛けが利用者の向上の為にとても大切と思っています。精神を安定していく上で貴重な資源であると考えています。

- ・子ども食堂（障がい児の受け入れも行っている）。年会費（材料費等の必要経費）を徴収している。
- ・近くに作業所運営の食堂があり、そこからお弁当注文と配達してもらいました。知らなかったのもっとまわりの人にも広がればいいのに、と思いました。
- ・以前に近くの子ども食堂さんに、利用児が外食体験として行かせていただきました。とても心快くうけて下さり、個別対応もしていただきよい経験となりました。
- ・周囲には大きな団地やマンションがあり、一人暮らしの高齢者は多くいらっしゃると思うが楽しめる場が少ないように思う。地域の資源として利用できる場としては、ゼロワンネーブルハウスで行われているクラブ活動の利用だと思っている。ただ資源として良いかどうかはわからないが利用者にもすすめている。
- ・使用しなくなった物を頂いて、東北の保育園に送ったり、社協さんや保健所からの依頼で困っている人に支援しています。
- ・子育ての集い、子ども食堂
- ・2つの新しい子ども食堂ができました。
- ・育児相談（電話、直接）対応
- ・高齢者個人の興味や意欲を引き出せるような地域の社会資源を共有し、社会資源リストを作成。その資源を上手くマッチングできた事例も追加し、利用者ニーズを資源のマッチングに活用していただいている。
- ・コロナなどのためみんなの食堂で給食を提供できない時食材提供をしています。フードバンクから食材をいただいています。
- ・町内会の活動に参加できること（清掃、夏まつり、文化祭に出展）。

【施設・拠点】

- ・団地の空きスペース等のストックなど？
- ・学校等公的施設、公園
- ・泉北ニュータウン内の近隣センターを多世代がそれぞれの居場所となるような場所になったらいいと思います。
- ・健康福祉プラザ
- ・福祉会館
- ・活動場所のスペース
- ・安全に子ども達が遊べる場がある。
- ・地域で活動している茶山台図書館、やまわけキッチンなど、大阪府公社の活動も資源として注目している。
- ・小学校の空き教室などの社会資源を子どもの為に有効活用することをのぞむ。
- ・学校等公的施設、公園など
- ・公民館の利用
- ・美原区には、こども館がございます。
- ・空き家の活用。
- ・福祉プラザ、図書館、
- ・近くの公園などを花見などで使用している。
- ・場所の持主(大家さん)の好意で経費のみで開放していただいているので、参加者のワンコイン会費のみで運営しています。
- ・建物(浜寺公園駅旧駅舎)
- ・障がいがあっても気軽に遊べる、立ち寄れる施設
- ・作業所のスペースを活用してもらおう、新しくAEDを設置しているところ。
- ・自施設の建物、土地

- ・隣が公園で、運動会等で使用を申し出たときなど心よく応じていただいている。

④ 連携に関すること

【連携体制】

- ・こども園や堺市みんなの子育てひろば、南区役所、堺市区役所、社会福祉貢献支援員との連携がとれていること
- ・社協さんとのつながり（法人として）
- ・通所施設においては市、相談支援との連携で情報を集め補助金や助成金に関しては活用させていただいている。
- ・小学校、大学、地域のコミュニティ、NPO等の協力体制が整っています。
- ・地域の学校、園との関わり。協力することで何かできることはあるはずです。我々の事業との関係性は、うすいと感じています。
- ・堺区内の他の障害児通所施設や障害者作業所とは連携もっています。
- ・地域でのボランティア活動などを長くされている元気な高齢者の方々、又、その方々のネットワークや人と人とのつながりなど。
- ・民生・主任児童委員さんが中心となって関わりを工夫してくださっている。園との連携は密にとれているので今後も会議などで連携強化していきたい。
- ・常に区社協や地域、行政と連携・連絡を密にとるよう心がけることで場面に応じた資源を提供してもらえている
- ・他の機関と顔の見える関係を築いていきつつあるので、何かあれば相談できていると思う。地域で活動する人全てが資源だと感じる。
- ・小地域ネットワークの行事等で、参加・お手伝いさせていただいて福祉委員会の資源を共有している。
- ・いきいきサロン、老人会、最近子ども食堂、エールDeさかい（障害作業所）との連携もある
- ・常に児童が通っている学校との連携や、成人サービス事業所と連携を行って必要な社会資源の確保が出来る様努めています。
- ・自治会に属する各種団体や民生委員や主任児童委員、子育て支援に関わりのあるNPO法人、小学校、中学校や高校との連携。

【情報共有】

- ・いきいきサロン、ふれあい喫茶、子供食堂、地域の健康体操の開催日、時間、主催者連絡先は把握しています。
- ・校区福祉委員会に参加しており、そちらからの情報提供にて状況を教えていただいている。
- ・西区在宅ケアを考える会に参加して情報交換をしている
- ・堺市のHPに記載している情報など。
- ・行政支援の内容は把握している
- ・地域の学校や幼・保育園、また民生委員などと情報の交換、共有を心がけている
- ・NPO発信のチラシ等
- ・地域における子育て関連情報
- ・(区)市役所や保健センターから得られる情報（あいの一となど）
- ・パンフレット
- ・ポスター
- ・SNSでの発信等
- ・堺市社会福祉協議会とも共有し、活動を行っているのでボランティアの紹介などもして頂いている。

- ・堺市立健康福祉プラザなどの情報
- ・フォーマルな情報は一定集まってきている。(社会福祉協議会を通じて)ex. 各区こども食堂の現状他。
- ・当事業所を資源としてとらえると情報の発信や提供
- ・社会福祉協議会等の情報源の把握
- ・当事業所が資源として活用しているものは、ボランティアや講師の派遣、他事業所とのつながりからもらえる情報
- ・B型作業所からの新聞
- ・年に1回行われる「サワリ感謝祭」として、地域啓発活動で、どんな事業を日頃から行っているのかを見て頂ける様、パンフレット等でアピールを行っている。
- ・ホームページを作成し、対外的に施設を見て頂けるきっかけを作っている。
- ・障害をお持ちの方が利用できる資源についてはある程度把握はしており必要な方に必要な資源をご紹介させて頂くよう努めており本当に重要な事と思っております(地域に貢献したい思いはあるのですが現状当事業所の業務に全力をそそいでおり関わる事ができず申し訳ございません)。

【会議・研修】

- ・毎月区役所で実施している高齢者関係者会議に参加させてもらい、地域活動の取り組みや活動の情報を確認、共有しています。
- ・保健センターの研修、講習会に参加している
- ・施設のある地域の社会福祉協議会への参加や、地域行事への協力要員は積極的に参加させて頂き、情報の共有をさせて頂いております。
- ・保育研修
- ・育児講座

⑤ その他

【課題】

- ・一時保育の要望が高いのですが、人員不足で、いつも受け入れられるとは限りません。
- ・把握していないので、何処に頼ったら良いか分からない。
- ・人、もの、お金などの資源を使える人達は団体としての大きさが必要だと感じます。小さな団体には向かっていないと思います。
- ・1つの団体で、地域貢献などの居場所作りとボランティア（無償）や低額で参加してもらうこと。また運営の人手を確保することが、事業所や団体によっては、大きな負担になっていることがある。せつかくの活動が継続できなくなることが懸念される。
- ・人材不足（業務だけで精一杯の人達がほとんど）の為、考えた事がない。
- ・フォーマルな情報は把握していると思うが、インフォーマルな情報が少ない。
- ・福祉委員会、ボランティア団体、・割り当てられている財源が少なすぎる
- ・資源とは？金銭面では色々あることは知っているつもりでも、まだまだわからない
- ・どの活動も取り組みも資源不足があると思います。
- ・どのような支援が、どのような活動にはあるのか知りたいです。
- ・事業収入があるが、コロナで赤字なのでボランティアする間なし。
- ・身体活動の格差をいかにして減らすか
- ・把握できていないので勉強したいと思っています

【その他】

- ・地域の社会資源
- ・必要に応じて介護保険を利用している。

- ・社会資源の活用が本来業務なので、十分に活用させていただいています。
- ・長年周辺地域との関わりがあまり持てない状況でできていましたので、あまり把握できていません。何か我々でも参加できる様な機会があれば参加してみたいと思っています。
- ・主にイベント、セミナー、研修などの参加費を活動費にあてています
- ・たくさんあります。
- ・デイサービス知識等
- ・交流を深める事
- ・自己資金のみ。たまに他方（八尾）の地域食堂の方々からの応援物資の提供がある。
- ・本団体は、医療と福祉サービスの発展に努め、認知症介護を必要とする方が、時とともに心身とも健やかに醸成され、地域において精神や肉体の変化の状況に応じた必要な福祉サービスを提供できるように目標を置いています。そのために、デイサービスとグループホーム2つを通じた活動をしております。

問15 その他、堺市の地域福祉や地域の活動に関するご意見があれば、ご自由にお書きください。

① 団体等の運営に関すること

【連携体制】

- ・各施設の良さを活かした、連携しやすい環境づくりの必要性。
- ・保健師さんを以前の人数に戻してもらい、きめ細やかなケアをして、そこからの情報で私たちが対応するなど縦にも横にも連携できれば良いと思います。
- ・どのような活動をされていて、どこに連絡したらどんな支援を受けられるのかを知りません。地域にいる支援者同志がつながることができる仕組みを作ってほしいです。
- ・分野を越えた居場所作りが必要
- ・地域住民の気づきが、必要な時代になってきている。周りの方との交流が減っている方、助けが必要な方を早い段階で気付く為には、施設や地域、住民、自治会の連携がもっと必要になる為、輪を広げる機会を増やして欲しいと思います。公的機関も含めて。
- ・南区役所のギャラリーみなみかぜの福祉ネットワークや南区役所との連携がさらに出来ると良いと思います。地域連携が出来ると思います。
- ・堺市内にも大手の企業や会社があり、地域貢献、社会貢献、興味があったり、取り組もうと考えている所もある。1つの団体へは企業や会社としては協力しにくいこともあるみたいでした。公的な機関やネットワークや連絡会などの複数の団体が所属するグループとの協力など、関係作りができればと思っています。
- ・世代・分野を越えてつながるしくみがあればいいと思います。
- ・地域福祉課の方と交流をお願いしたいと考えています。
- ・それぞれの機関、場所ではすでに様々な課題、問題に取られると思います。少しずつ支援が重なっているところを意識するだけでも地域の支援力が高まると思います。我々も重なりを意識していこうと思います。
- ・様々な団体の方と連携を取れたらよいと思う
- ・堺市では、「行政だけ」・「官だけ」ではなく、地域の関係者、団体、みんなで力を合わせ進めてくださっている歴史があります。これからもみんなで力を合わせ、いっしょに歩みを進めていただけてますようよろしくお願いします。
- ・地域との連携等については、まだまだ不十分なところがあるので、堺で協働をすすめるソーシャルワーク研修が増えるように期待しております。
- ・出会いがない。つながっても限定的でとぎれてしまう。

- ・各区、相談機関や他職種との会合等交流の場を沢山作ってほしい。
- ・関心のある団体や個人が参加できる会議等開いてほしい
- ・地域の社会福祉法人が交流できる場をつくっていただきたい。
- ・地域福祉デザインを堺市と共有できる場が欲しい。
- ・当法人は、地域や関係機関と常に連携をとりながら地域ケアシステムを構築する上で、地域に貢献できる様な社会資源となる施設づくりを目指しております。

【情報提供】

- ・反対に、堺市では、どのような活動があるのか、こども園ではどのような活動をされているのか、情報をいただければ嬉しいです。ありがとうございます。
- ・なかなか、他では、どんなことを行っているのか情報が少なくわからない。
- ・私個人の意見ですが、地域の活動を把握している方が困っている方と団体をマッチングさせるシステムが重要であると思います。それらの人材も大事ですが、困っている人がいれば「こんなところがあるよ」と誰もが教えることができるよう、堺市の地域活動がどこで、どのようなものがあるか地図で把握できるようにホームページやアプリを作成してはいかがでしょうか。ご検討よろしく申し上げます。
- ・現在地域福祉への参加はできておりませんが、実際のところ住所だけでは場所を特定するに至りません。MAPなどがあれば場所の特定がわかりやすく、関係者にも情報を発信しやすいのではないかと思います。
- ・つなぎの役割として地域と接点を持つ場を企画、情報提供があれば積極的に活用したいです。
- ・地域でどのような団体があり、何をしているのか、その情報をどう知るか→自ら積極的に働きかけることには躊躇する。誰かから声を掛けていただければ参加したい。
- ・色々な問題を抱えた保護者が頼れるよう、相談などできる場についてのパンフレット等があれば、もっと、困っている人によりそった対応ができると思います。
- ・地域の情報を社協から提供してほしい。
- ・なかなか、他では、何を行っているかなど情報が少なくわからない。
- ・堺市からチラシ等がたくさん送付されてくるがHPでの掲示で良いのではと考えます
- ・平等な広報と参加のしやすさが求められると思います。
- ・引きこもりや困っている方の情報がもっとほしいです。
- ・本当に困っている人はどんな福祉をしてもらえるのか知りませんので公表してほしいと思います。例えば孤独死や孤立です。公表すれば大変な事になると思いますが、受けられる支援がわからず困っている人もいました。よく知らないのでこれから知っていきたいと思います
- ・地域活動支援センターとして、重層的支援での役割を確認していきたい。「地域活動支援センター」という事業の知名度がまだまだ低いと感じるので周知がもっとできれば…と思う。
- ・生活保護基準以下の収入で保護を受けずにおられる方、病気等で収入のとだえる方、シングルマザーや貧困学生など、制度の網にかからない方が多くいると思います。その方たちが気がねなく相談できたり、経済的にも支援されるような窓口を多く作ってほしいと思います。
- ・常に情報を確認、把握し色々な活動ができるようにしていきたいと思います。

【人材不足】

- ・地域の子ども会活動などでも、ご参加くださるところが限られていて、スタッフを確保することが大変そうです。うまくいってあたりまえの風潮も気になっています。
- ・活動するためには、人材が必要である。保育現場にいる人材も不足している現状があるため、取り組むにあたっては、困難と思われる。しかし、これからも地域福祉や活動に関しては考えていきたいと思います。
- ・人員不足が解消されれば、できる協力はさせていただきたいと考えております。
- ・民生児童委員会や保護司など、なり手が少なく、高齢化している。もっと若い世代（小学校、中学校の保護者）を巻き込む、活動に参加したいと思える活動を実施していかなければ、地域福祉は衰退する。
- ・支援員の高齢化
- ・後継者不足
- ・取り組みたい意欲はあるが、スタッフの負担や財源面等の自施設からの持ち出しに限界を感じる。
- ・安心して生活できるだけの給与が少ないので人材があつまらないし退職する。何とかしてほしい。
- ・現在は施設運営に注力していますが、施設として地域貢献活動にも取り組めるようにしたいですが、その人員の確保が難しいです。
- ・現在、課題としては、賃金が処遇改善に頼る部分が大いにあると感じている。手当ではない、低賃金からの根本的な脱出方法が何かあれば…と思う。今のままでは、福祉に対して消極的な法人が増えると考える。

② 地域活動に関すること

【地域福祉活動の推進】

- ・やりたい事があっても、個人が一から始めるには、かなり高いハードルだと感じる。箱物があったり、相談体制があったりすると、取り組み易いと思う。初めは特に、堺市が主導したほうが良いと思います。
- ・主体が自治連合町会、校区福祉委員会でなくても、自治会組織の中のどこかが関われば、補助金が出たり理事の協力が求められるといった柔軟な運営方法の確立が必要ではないか。
- ・事業を実施する場合、堺市や団体等の経済的援助及び立ち上げ助言を期待可能と考えて準備していくのは無理ですか。
- ・地域活動の支援者として若い世代に積極的に関わってほしいと思う
- ・堺市全体での格差があると思う。ボランティア精神では続けていけない。行政が先導して行く必要と思っている。きっかけがあれば参加しやすいと思います。
- ・地域の自主的な取り組みをもっと支援する制度があればいいと思います。
- ・校区福祉委員会の今後のあり方
- ・軽度の障害児者が参加できるユニバーサルな（インクルーシブな）コミュニティーが少ない。また障害福祉による利用者の囲い込みが少なくなく、自由な活動を阻害していると思われることがある。
- ・ボランティアグループや地域の自治会や子供会、老人会の得意な事を生かして住民や社協と双方向に情報を共有しながら多方面に支え合える活動が増えるといいですね。色々な人を巻き込めると地域とのつながりが深くなるように思います。
- ・どんな活動も現場や各区社協や区役所などの細かなところはとても一生懸命、親身に毎日動かれているのに、市としての大きな指針というか体系的なところがあまり示されていないように思う。現場まかせなバラバラの取組みという印象があり、もっと大きなところで決めて動くことができればもっとスマートな活動になるように思われます。

- ・地域福祉活動全般においてサポートを拡充させて欲しい。
- ・当事業所では、地域貢献活動として周辺のゴミ拾い活動を行っています。
- ・地域福祉活動に対する住民全体の意識付けの向上を望みたい。
- ・「居場所」づくりを目的として活動を行うのか。様々な活動をつづけて行うことで「居場所」ができるのか。いずれにしても、様々な形の間があれば、人生のステージのあらゆる場面において、選べる自由があると良いと思います。このためにも人と人のつながりは大切だと思います。つなげていく「しくみづくり」に期待しております。
- ・コロナでこれまでの活動がストップしていた所が再スタートしはじめている中で、今の時代にあった活動にうまく変換していけると良いのでは... と。
- ・自治会とのおつき合いのしかたにとまどう時がある。
- ・ボランティアが途絶えず地域に存在する仕組み作りを考えて欲しい。地域まかせでは継続が難しい。
- ・大人向けの出前講座の充実
- ・何があって、又、援助を受けられるのか不明。子供食堂に重きがあり、地域全体として地域食堂だけでは難しいので、各々個人で展開するしかないのではないかと思う
- ・近隣の方が自由に出入りし談話する場になってきている。
- ・今後さらに自治会やこども会、PTA等への参加や加入者は減り、もっと地域でのつながりが希薄になっていくと考えられるので、地域内の誰でもが気軽に足を運ぶことができる場所を作り、そこで関係を築きながら様々な困り事や相談ができるようにし、必要とする専門機関へとつなぐことができる場所は本当に必要だと思います。子育てひろばのような市からの助成金で運営ができる形でこども食堂ができると運営が安定し、地域支援を継続しやすくなると思います。
- ・支援を必要とする方が、なかなか自治会や近所の方とは接触がないことが多いので、社協や市の福祉でできるだけアウトリーチしていただきたい。

【移動手段】

- ・高齢者は足が悪い。地域とスーパーを結ぶ安価なタクシーなどあれば良いのでは（乗り合いで）
- ・地域の人に参加をしてもらう時に、送迎が必要な方などは参加への促しがむずかしい。
- ・ご自身で移動できない方が参加できるような所がないように感じます。

【活動拠点】

- ・スペースの確保が難しく老人福祉センターなどに出向き、体操やゲームなどの提供は可能です。しかし、5類に移ったとしても利用者様がコロナにかかり入院というケースも未だにあります。活動はもう少し先にしたいところです。
- ・施設の確保が難しい。安価で借りられる施設があれば良いと思います。
- ・小中校生、お年寄りなど市民が気軽に無料で使える場所が必要、異年齢の交流もできる。

③ 支援体制に関すること

【子どもに関すること】

- ・自立援助ホームが無いとの事なので、ぜひ私達が居場所を提供し、自立支援、メンタルケア等をして、貢献できればと考えております。
- ・要支援の家庭への家児相等の対応の拙さ
- ・子育て広場は未就学児対象の為、小学校に上がると気軽に利用できる場が急になくなり、園などのお迎えもなくなるので、話す機会も少なくなります。利用者さんの中でも小学生の兄弟がいる方は、その子達をつれて広場に来ることができないので、夏休みや冬休みなど長期の休みの間、どうしてすごそうかと悩んでいる声も聞きます。小学校低学年の間だ

- けでも、親子が気軽にすごせる場があればいいと思います。
- ・障害のある子供、親に障害がある子供の居場所を考えるにあたり、子ども食堂との交流をする予定です。（自立支援協議会にて）
 - ・堺市の子育てアドバイザーの資格をいただいたが、各区での温度差がありすぎるように感じている。西区の社協の方が熱心で「ああ、がんばろう」という気になる。
 - ・5才ごろから、こども園に不登校になる家庭がある。
 - ・小学校に進学後も登校しない。
 - ・親に対して、もっと園や学校へ通わして、基本的な生活リズムをこどもに教えるよう、啓発していきたい。
 - ・こども園を使用しない日(日曜・祝日・夜間等)であれば、施設の使用は検討できるが、他施設は提供することができているのか知りたいと思います。協力したい気持ちでもなかなか難しい現実だと感じています。
 - ・中区にも児童養護施設もあり、施設の子どもの交流ももっと行いたいと考えている。
 - ・室内で子ども達のがのびのびと体を使ってあそべる場所やイベントを増やしてほしい。
 - ・大学生ボランティアに学習に困難を感じている子ども達のサポートをしてもらいたい（そういう場所を常に確保）いつでも誰でも気軽に使えると良い
 - ・ご利用頂いているお子さんたちを、地域全体で見る、育てるという視点に立ったとき、今は目に見えた活動にとりくんでいないので、何から始めれば良いのだろうと思います。2時間レッスンを受けに来てもらう教室であるためイベントのようなこともできていないため。
 - ・元が私立幼稚園であり福祉の観点が弱いので今後勉強したいと思います。
 - ・今私たちは子育て支援に取りくんでいます。堺市は中学校区に1つということで「ひろば」を進めてきました。随分助かったと言う声を聞いています。でもそこで終わりではなく小学生、中学生の子ども、親たちの声も深刻です。不登校や引きこもりなど身近でささえていけたらと思います。
 - ・いつもありがとうございます。新しく出来た子ども食堂サポートしてあげてください。
 - ・堺市の子ども達のがのびのびと明るく地域に守られ育てしてほしい
 - ・親御さん達も地域に支えられ心に余裕を持って子どもを育てる事を楽しめる環境をつくってあげてほしい。どんどん子ども達の笑い声が町中にふえて行ってほしいです。
 - ・堺市の子ども達のがのびのびと明るく地域に守られ育てほしい。親御さん達も地域に支えられ心に余裕を持って子供を育てる事を楽しめる環境をつくってあげてほしい。どんどん子供達の笑い声が町中にふえて行ってほしいです。

【障がいのある方に関すること】

- ・知的障害の方の余暇について一緒にとりくんで頂きたいと思います。障害のある人の暮らしの場の圧倒的な不足（特に行動障害や重度の身体障害、24時間の医療ケアを必要とする方々の暮らしの場）
- ・障害種別ごと、年齢ごとに、どのような居場所を利用されているのか分かれば、当事者同士の交流が進み、居場所が確保されていくと思います。
- ・当センターとしては、委託事業ではありますが、長年の取組の中で、当事者の方々、障害福祉に関わる支援機関にとっても、必要かつ頼られるセンターになってきていると感じています。ぜひ引き続き事業ができるよう支援いただきたいと思います。
- ・障害者福祉についての偏見をなくす様な取り組みをしてほしい
- ・障害特性に対してあまりにも理解がない
- ・活動出来るのは障害の無い大人だけ？
- ・「いつでも、障がいのある人は肩身が狭い」活動したくても周りに気をつかう、周りの視

線がつらい

- ・中途障害者のサロンも行ったりましたが、やはり人的確保が一番難しいです。どうしても日々の業務が優先になってしまい居場所作りは継続できません。
- ・車椅子での飲食、トイレの配慮
- ・障害を持つ方々との活動の場が広がるよう、さらなるバリアフリー化をすすめて頂きたいと思います。
- ・重度の障害をお持ちの方でも地域に貢献できる活動を増やしていけたらと思っております。
- ・清掃作業を紹介していただき、ご利用者とともに週1回清掃作業をおこなっております。ありがとうございます。
- ・就労を目指す方は生活や余暇支援の重要性が低いと感じられることが多いかもしれません。高機能タイプの方であっても地域とつながる、支える基盤が必要。必要とされていることを知って頂きたいです。いつもご支援頂きありがとうございます。
- ・地域活動支援センターのことを、もっと多くの人に知ってもらいたい。「あったかぬくもりプラン」にも地域活動支援センターが出てこないです。もっと知って利用して欲しいと思います。

【高齢者に関すること】

- ・認知症高齢者の徘徊の問題として、さかい見守りメールがあるが、他市が実施しているようにQRコードシールと併せて地域と連携を促進して行ってほしい。
- ・介護認定を受けていない方でも、気軽に立ち寄ってもらいたい。子どもの支援をしてみたい。
- ・元気あっぷ教室やボランティア活動、喫茶などは高齢者の活動にとってとても大切なことだと思います。男性の方の参加が少ないと感じています。もっと男性の方をふくめ、多くの方が参加してくればいいのと思います。
- ・元気で、独歩ができる人は、自身で活動的に過ごしているので、わざわざ、サロンなどに来る必要を感じていない。
- ・認知症カフェへの支援が手薄いと思う。特に参加費について扱いに困っています。
- ・家族介護の会の復活を願う
- ・高齢者に対するサロン等がもっとあればよいと思う。
- ・短期集中事業に「力」を入れて欲しい。事業の内容等の見直しも含め、利用者も受け入れる事業所も使いやすい中身に改善していただきたいと願っている。高齢者が一人一人孤独にならない為の居場所作りはとても大切な地域の問題であろう。その為の努力はみんなで努力・協力していきたいと考えている。
- ・地域ケア会議を開催する際は基幹型包括支援センターさんとともに区事務所の日常生活圏域コーディネーターさんに参加して頂き、助言や意見をもらい助かっています。

【防災体制】

- ・福祉避難所としての役割を考えると、当方として優先すべきは、その時の利用中の方への対応、次に緊急性のある地域の方、そして登録されている利用者、スタッフと考えています。そのためにも、普段からの関係づくりは大切と考えていますが、キャパシティを考慮すると、どこまで積極的に活動すべきか、悩むところです。
- ・安全である、安心できる、自然災害発生時
- ・今後、大規模災害が想定される中、一法人だけでは、高齢者を支えていく事に限界があると思っています。(職員も被災者になる為) BCP計画策定していく中、地域とのつながりの重要性を痛感しているのですが、どんな事が地域にとって、事業所にとってベストな事なのか、考えあぐねています。今回の話からそれてしまいましたが、災害時、入居されている利用者のケアの継続が難しい場合堺市や社協が中心になって頂き（一ヶ所に入居者や被災

高齢者を集めてケア出来る場所、その場所にいろいろな入居者、各施設職員でケアする場所を検討して頂けたら有難いです。

④ その他

【今後の方向性】

- ・両隣や近隣センターには、たくさんの福祉・医療・子供に関する事業があり、とても恵まれた地域だと思います。久しぶりに先月開催されたお祭りにもたくさんの団体が参加し、活気に満ちあふれた楽しい時間でした。毎回出店させて頂き、関わらせて頂いています。地域全体で高齢者や子供たちを見守っていきたいです。
- ・市全体で地域に安心となる居場所となれるよう、通所介護事業としてですが運営していきたいと思います。
- ・もっといろんな活動に参加し、自身の施設でもできる事があるのではないかと思います。地域の方の活動にも参加できる様に行きたいです。
- ・堺市外から通勤しています。堺市は様々なことをとてもきちんとしてくださっている印象です。今後も当施設にできることを考えつつ、業務に取り組みたいと思います。
- ・日頃気になること、不安なこと、どのようにすれば良いのかきっかけづくりも必要。人と人が交流するという言葉は、文字はサッと書けるが、実際人と人が関わる中で良い面、そうでない面あり。人とのつきあい交流がわずらわしい、若手な人もいるので、また周囲の人から難しい人といわれている人もいます。さあどうやって交流するか、かかわっていくか、障害者の対応もです。生活困窮の方々の支援、行政とともにしていく事大事ですね。
- ・社会福祉法人として地域貢献や、SDGsの取り組み等、今まで以上に積極的に取り組んでいきたいと法人全体で考えております。現状では、微力な協力しかできておりませんが、今後とも宜しくお願い致します。
- ・これからの共生社会に期待します
- ・コロナ禍ではありますが、地域との交流や我々の様な施設を認知して頂く事も大切な事だと思います。
- ・コロナでの行動制限も解除されたので地域資源を有効活用しての取り組みを増やしていきたいと考えます
- ・現状行っている事業の妨げにならない様に行きたい。
- ・自助、共助も大事だが公的資源に求められることは多いと感じている。その中で何ができるのかと常に考えていきたい
- ・社会事務所の職員が、各校区からの声掛けだけでなく、もっと各行事に参加、見学をしてほしい。
- ・市の活動を見ていきます
- ・地域活動を、行政や社協と連携して行えたら地域の方も関心を向けてくださるかもしれません。今後ともよろしく申し上げます。
- ・こんにちは。いつも大変お世話になっております。地域をつなぐ活動をありがとうございます。地域の社会資源になれるよう活動したいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。
- ・事業所で参加させて頂けるような活動があれば参加させて頂きたいです。
- ・困っている方がおられたら協力したいと考えています。
- ・言葉で、高齢者福祉、障害者福祉、どこにでも誰にでも出来る、言えることばかり。実際は目に見えてません。アンケートをとって仕事は終わり、何につながったか、見えていません。私達の活動も、「介護保険のお世話になるのは、先延ばしにしろ！」と地道にコツコツとしています。これもデータもなく、可視化できないから、評価を受けないのです。

実際に動いていける所をもっと取り上げて知るべきです。

- ・堺区の活力をどのようにして取りもどすことができるかをもっと考え、議論しないといけないのではないか。
- ・各々に役割をはっきりと設定していく事が活動の入口になると考えている。

【その他】

- ・南区内の近隣センターの活性化
- ・スーパーの閉店など、高齢者が多い中、不便だと感じると同時に若者離れを感じている。若者が住みやすい街作りを行って欲しい。
- ・今年から活動（事業）を始めたばかりでよくわからない
- ・「誰の居場所？」と思う事が多い
- ・なかなか協力できず申し訳ありません。いつもご支援ありがとうございます。
- ・福祉が事業として、とらえられるようになったことが問題
- ・今後共よろしくお願い致します。
- ・いつもご尽力下さりありがとうございます。
- ・宜しくお願い致します。
- ・大変なお仕事かと思いますが、今後ともよろしくお願い致します。
- ・尽力されていると思います。
- ・現行のままで結構です
- ・今後もいろいろな活動に取り組み継続してほしいです。
- ・今後とも宜しくお願い致します。
- ・手書きではなくGoogleアンケートetcの方がやりやすい。
- ・堺市は福祉のとりくみが充実している。と他市の方からよく聞きます。今後も連携してとりくんでいきたいと思えます。
- ・楽しく参加させて頂いています。
- ・貴団体のHPetcでひろえる情報は、先にひろって把握してもらいたい。

5. 調査票

【校区福祉委員会調査票】

グループ援助活動（居場所活動）に関するアンケートのお願い

【新たな縁をつむぐ、多様な「居場所」が求められています。】

平素より地域福祉活動の推進にご協力いただき、ありがとうございます。

わが国では、血縁、地縁、社縁、学縁など、既存の人と人のつながりが希薄化し、社会的孤立の問題が拡大するなかでだれもが心豊かに暮らしていくため、新たな縁をつむぐしかけが必要となっています。

そのひとつが、さまざまな人が“自分らしく”参加でき、地域の一員として承認されて役割を担うことを通じて、安らぎ、元気になることができる「居場所」をつくる取り組みだと考えられます。

堺市は約80万人の多様な人々が暮らす都市ですが、校区福祉委員会をはじめとして、歴史のあるさまざまな「地域型」の活動が継続して行われています。校区福祉委員会で取り組まれているグループ援助活動は「つどいの場」をつくる活動であり、まさに居場所としての役割を担う活動として、地域の方々に親しまれてきたものです。

また、堺市では、新たなニーズに基づいて、さまざまな「テーマ型」の活動も広がっており、子ども食堂をはじめとする多くの居場所が運営されています。

これらの地域型、テーマ型のさまざまな居場所が安定的に運営されるとともに、場の数や機能がいっそう広がっていくことで、より多くの人に参加できるようにすることが求められています。

【多様な居場所活動の連携が、多様なニーズへの対応と、地域づくりにつながります。】

これらの居場所に、さまざまな人が“自分らしく”参加するには、一人ひとりのニーズに応じた、多様なかたちの居場所が必要です。

堺市でも、大きく分けると、だれもが参加でき、ふれあうことをめざす「交流型」と、暮らしのなかの“困りごと”をもつ人とつながりをつくりながら、必要な相談やサービスなどにつなぐ「支援型」の居場所が開かれています。居場所に参加する人のニーズは多様かつ変化することから、さまざまな機能をもつ居場所を増やし、専門的な支援ができる機関などが連携して対応することが望まれます。

さらに、こうした多様な居場所づくりや居場所を拠点とした連携を、小地域ごとに地域の特性に応じてすすめることで、だれもが暮らしやすい地域づくりや、ともに創りあう「地域共生社会」を推進することができると考えられます。

【居場所活動の支援に向けて、活動の実情や団体等の“思い”をお聴きする調査を行います。】

堺市社会福祉協議会は、休眠預金を活用した先進的な事業として採択を受け、堺市や地域のさまざまな団体・機関とも協働して、居場所づくりや活動を持続するための支援に取り組んでいます。今年度からは、居場所活動の現状や課題、活動に携わる方々の思いを把握し、地域の状況に応じた支援や連携を広げるための方策を検討して、さらに具体的な取り組みをすすめることにしています。

そのため、現在、グループ援助活動なども含めた居場所づくりの活動を行っている団体や機関に、活動の実情や活動に対する思いをお聴きするため、アンケート調査を実施することにしました。この調査票は、堺市の全校区の福祉委員会に回答をお願いしています。調査の結果をふまえ、各校区の活動や連携をいっそう発展させていくための支援の方策を検討、推進していきたいと考えています。

お忙しいところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解のうえご協力くださいますよう、お願いいたします。

令和5年7月

社会福祉法人 堺市社会福祉協議会

裏面の記入上の注意事項をお読みいただきご回答くださいますよう、お願いいたします。

ご記入いただくうえでのお願い

*このアンケートは、貴校区のグループ援助活動の状況をふまえ、役員の方や実際に活動をされている方がご記入ください。

*恐れ入りますが、校区福祉委員会名は必ず記載してくださいますようお願いいたします。

*ご回答いただいた内容の確認やご意見をお聴かせいただく場合がありますので、差し支えなければ、ご記入者の役職・お名前、連絡先をお書きいただけましたら幸いです。

*回答は、それぞれの問いについて、お考えに近い答えの番号に○を付けてください。

「その他」を選ばれた場合や具体的なお意見は、()の中にお書きください。

*全校区の状況を包括的に把握・分析するため、全校区に同一の調査票でご回答いただきます。そのため、貴校区の活動に該当しない設問が含まれる可能性があります。ご了承くださいますようお願いいたします。お答えいただきにくい項目は、空欄で結構です。

*グループ援助活動は、新型コロナウイルス感染症の影響で一時的に中止や実施方法の変更などを行われていることがあります。この調査は、基本的に現在の状況でお答えいただくこととしますが、コロナ禍が収束してきたなかで、今後、活動の再開や拡大を考えておられる場合は、可能な範囲で「その他」の欄などにお書きください。

*このアンケートについてのお問い合わせは、下記へお願いいたします。

堺市社会福祉協議会 地域福祉課 地域共生推進係 (担当: 増岡・貞安・岡谷)

電話 072-232-5420 FAX 072-221-7409

※お電話は平日の午前9時から午後5時30分までをお願いいたします。

グループ援助活動（居場所活動）に関するアンケート

| | |
|----------|--|
| 校区福祉委員会名 | |
|----------|--|

- ご回答いただいた内容の確認やご意見をお聴かせいただく場合がありますので、差し支えなければ、ご記入者の役職・お名前、連絡先をお書きください。

| | |
|------------|--|
| ご記入者の役職・氏名 | |
| 連絡先（TEL等） | |

現在実施しているグループ援助活動についておたずねします。

- 校区福祉委員会では、いきいきサロン、ふれあい食事会、地域リハビリ活動、世代間交流、子育てサロン、ふれあい喫茶活動などのさまざまなグループ援助活動が行われています。活動については毎年報告を提出していただいておりますが、堺市全体のつどいの場づくり（居場所活動）をすすめるうえでの参考とさせていただくため、より具体的な状況をお聴かせいただければと考えています。
- グループ援助活動は、コロナ禍の影響を受けて中止や実施方法の変更などもあり、以前の活動状況とは異なるものもありますが、今後の回復の見込みなども含めてご回答ください。なお、活動によって状況が異なる質問もあると思いますが、全体的な状況を把握するため、各活動にあてはまるものすべてを、あわせてご回答くださいますようお願いいたします。
- 複数の活動をされている場合は、各活動にあてはまるものすべてに○を付けてください。

問1 グループ援助活動全体を通じて、どのような取り組みをしていますか。【複数回答可】

| | | | | |
|-------------|--------|------|-------------|--------|
| 1 食事の提供 | 2 喫茶 | 3 談話 | 4 レクリエーション | 5 趣味活動 |
| 6 学習 | 7 スポーツ | | 8 体操や健康づくり | |
| 9 困りごとなどの相談 | | | 10 困りごとへの支援 | |
| 11 その他（ ） | | | | |

- 特色のある取り組みなどがあれば教えてください。

{

問2 活動に参加されている方は、どのような方が多いですか。【複数回答可】

| | | | |
|----------|----------------------------|------------|-------------|
| 世代や年齢など | 1 就学前の子ども | 2 小・中・高校生等 | 3 大学・専門学校生等 |
| | 4 子どもの保護者 | 5 現役世代 | 6 高齢者 |
| | 7 障害がある人 | 8 その他（ ） | |
| 居住エリア | 1 校区内 | 2 区内 | 3 市内 |
| | 4 その他（ ） | | |
| 地域とのつながり | 1 自治会等に加入していて、地域とのつながりがある人 | | |
| | 2 自治会等に未加入でも、地域とのつながりがある人 | | |
| | 3 地域とのつながりが少ない人 | | |
| | 4 その他（ ） | | |

問3 グループ援助活動のスタッフは、どのような方ですか。【複数回答可】

| | |
|------------|----------|
| 1 福祉委員会の役員 | 2 ボランティア |
| 3 その他 (|) |

問4 参加者とスタッフの両方として参加している方（参加者で少しの手伝いをしてくれる方なども含め）がいますか。

| | | |
|--|---|---|
| 1 いる → その方は、どのようなことをされていますか（例：喫茶の配膳、活動の講師など） | (|) |
| 2 いない | | |
| 3 その他 (| |) |

問5 グループ援助活動を実施している場所はどこですか。【複数回答可】

| | | |
|------------|---------------|--------------------|
| 1 地域会館や集会所 | 2 福祉施設 | 3 市・区役所、公民館などの公共施設 |
| 4 学校 | 5 商業施設などの民間施設 | 6 お寺・神社・教会など |
| 7 その他 (| |) |

問6 グループ援助活動の財源はどのようなものですか。【複数回答可】

| | | | |
|---------|-------|-------|-----------------|
| 1 参加費 | 2 補助金 | 3 助成金 | 4 独自の財源（自治会費など） |
| 5 寄附 | | | |
| 6 その他 (| | |) |

問7 グループ援助活動についての情報発信は、どのような方法でしていますか。【複数回答可】

| | | | |
|-------------|--------------------------|------------|--------|
| 1 福祉委員会の広報紙 | 2 地域の広報紙 | 3 チラシ | 4 ポスター |
| 5 ホームページ | 6 SNS (LINE、Instagramなど) | 7 学校を通じた伝達 | |
| 8 口コミ | 9 特にしていない | | |
| 10 その他 (| | |) |

問8 グループ援助活動について、地域の人にどれくらい周知されていると感じていますか。

| | |
|-------------------------|----------------|
| 1 広く周知されている | 2 関係者には周知されている |
| 3 活動の対象としている人々には周知されている | 4 あまり周知されていない |
| 5 その他 (|) |

問9 グループ援助活動に関する情報収集は、どのような方法でしていますか。【複数回答可】

| | |
|--------------------|---|
| 1 社協に聞く | |
| 2 福祉委員会どうして情報交換をする | |
| 3 インターネットなどで調べる | |
| 4 特に情報収集はしていない | |
| 5 その他 (|) |

問10 グループ援助活動について気軽に相談するところがありますか。【複数回答可】

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1 社協に相談する | |
| 2 地域包括支援センターなどの専門機関に相談する | |
| 3 相談したいが、するところがわからない | 4 特に相談する必要性はない |
| 5 その他 (|) |

問11 グループ援助活動に、生活上の困りごとがあるなど相談や支援が必要な人が参加された場合は、どのように対応していますか。【複数回答可】

- | | |
|-----------------------------|---|
| 1 福祉委員会のメンバーで話を聴くなどして対応している | |
| 2 社協につないでいる | |
| 3 市・区役所につないでいる | |
| 4 地域包括支援センターなどの専門機関につないでいる | |
| 5 特に対応はしていない | |
| 6 相談や支援が必要な人の参加は把握していない | |
| 7 その他 (|) |

問12 グループ援助活動を行ううえで課題と感じていることがありますか。【複数回答可】

- | | | |
|--------------------|------------------------|-----------------|
| 1 参加者数が少ない | 2 参加してほしい人々の参加が少ない | 3 参加者数が多い |
| 4 スタッフが足りない | 5 新たなスタッフが増えない | 6 若い世代のスタッフが少ない |
| 7 会場が利用しにくい | 8 会場の利用料が高い | 9 財源の確保が難しい |
| 10 最近の物価高による活動費の高騰 | 11 活動に対する支援が少ない | |
| 12 活動に関する情報が得られない | 13 活動に対して、地域住民などの関心が薄い | |
| 14 その他 (|) | |

グループ援助活動の経過や、今後の意向についておたずねします。

問13 グループ援助活動をはじめた動機やきっかけはどのようなことですか。【複数回答可】

- | | | |
|-----------------------------|------------|-------------|
| 1 福祉委員会の気づきや思い | 2 地域からのニーズ | 3 社協からの呼びかけ |
| 4 その他 (|) | |
| 5 活動をはじめた当時の動機やきっかけは把握していない | | |

問14 グループ援助活動を実施する頻度は変化していますか。

- | | | | |
|---------|---------|---------|------------|
| 1 増えている | 2 変わらない | 3 減っている | 4 活動によって違う |
| 5 その他 (|) | | |

問15 グループ援助活動の参加者数は変化していますか。

- | | | | |
|---------|---------|---------|------------|
| 1 増えている | 2 変わらない | 3 減っている | 4 活動によって違う |
| 5 その他 (|) | | |

問16 グループ援助活動のスタッフの人数は変化していますか。

| | | | |
|-----------|---------|---------|------------|
| 1 増えている | 2 変わらない | 3 減っている | 4 活動によって違う |
| 5 その他 () | | | |

問17 グループ援助活動へのコロナ禍の影響は解消されてきましたか。

| | | |
|-----------|------------|------------|
| 1 解消されてきた | 2 解消されていない | 3 活動によって違う |
| 4 その他 () | | |

問18 グループ援助活動を続けられている要因は、どのようなことだと考えますか。【複数回答可】

| | |
|--------------|--------------------|
| 1 地域のニーズがある | 2 福祉委員会やメンバーの思いがある |
| 3 活動が評価されている | 4 外部からの支援や連携がある |
| 5 その他 () | |

問19 グループ援助活動について、今後、どのようにしたいと考えていますか。【複数回答可】

| | | |
|--------------------|---------------------|------------|
| 1 回数や会場を増やしたい | 2 活動の種類を増やしたい | 3 内容を充実したい |
| 4 他の団体などとの連携を強化したい | 5 オンラインでつながる活動も行いたい | |
| 6 現状を維持したい | 7 活動を縮小していきたい | 8 わからない |
| 9 その他 () | | |

● グループ援助活動以外も含め、新たに取り組みたいことなどがあれば教えてください。

()

問20 グループ援助活動を継続、発展させるうえで支援してほしいことはどのようなことですか。
また、特に支援してほしいことはどれですか。あてはまる項目の数字に○を付けてください。

【いずれも複数回答可】

| | 支援してほしいこと | 特に支援してほしいこと |
|-----------------|-----------|-------------|
| 財源面の補助・助成 | 1 | 1 |
| 物品や備品の提供・支給 | 2 | 2 |
| 会場の提供・利用料・使用方法等 | 3 | 3 |
| 活動に関する情報の提供 | 4 | 4 |
| 活動に関する相談・支援 | 5 | 5 |
| 支援が必要な参加者へのサポート | 6 | 6 |
| その他 | 7 | 7 |

● 「その他」の内容や、希望する支援の具体的な内容などを教えてください。

()

居場所活動（グループ援助活動）の連携についてのお考えをおたずねします。

問21 堺市社会福祉協議会は、校区福祉委員会が行われているグループ援助活動を「居場所活動」だと考えていますが、貴福祉委員会ではどのように思われますか。

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1 居場所活動と意識して活動している | 2 意識していなかったが調査に回答してそう感じた |
| 3 居場所活動とは感じていない | 4 わからない |
| 5 その他（ | ） |

問22 貴福祉委員会では、居場所活動を行っている団体や活動を支援する機関などと交流や連携がありますか。

- | | | |
|--|----------------|--------|
| 1 交流や連携をしている団体や機関がある → 交流や連携をしている団体・機関はどれですか【複数回答可】 | | |
| 1 自治会などの地域組織 | 2 NPOなどの市民活動団体 | 3 学校 |
| 4 企業や商店など | 5 福祉の施設や事業所 | 6 医療機関 |
| 7 社協 | 8 市・区役所 | |
| 9 その他（ | | ） |
| 2 居場所活動をしている団体や支援機関は知っているが、特に交流や連携はしていない | | |
| 3 居場所活動をしている団体や支援機関を知らない | | |
| 4 その他（ | | ） |

問23 居場所活動を行っている団体や支援機関との交流や連携について、今後どのようにしたいですか。

- | | |
|--|---|
| 1 交流や連携をしている団体や機関を増やして（新たに行って）いきたい | |
| 2 現在と同程度の交流や連携をしていきたい | |
| 3 特に交流や連携をしたいとは思わない → それはなぜですか （ | ） |
| 4 わからない | |
| 5 その他（ | ） |

● 新たに交流や連携をしたい団体や機関、行いたい交流や連携の内容などがあれば教えてください。

[]

問24 堺市社会福祉協議会は、さまざまな市民の「居場所」のニーズに応えるため、多様な居場所活動（グループ援助活動）を行われている団体や支援機関等の連携や支援に取り組みます。貴福祉委員会は、この取り組みへの参加について、どのように思われますか。

- | | |
|----------------|------------------------|
| 1 参加して連携していきたい | 2 連携はあまり考えていないが支援してほしい |
| 3 参加したいとは思わない | 4 わからない |
| 5 その他（ | ） |

活動を通じて感じている地域の状況などについておたずねします。

問25 貴福祉委員会の活動を通じて感じている地域の課題がありますか。

.....

.....

.....

.....

.....

問26 貴福祉委員会の活動を通じて感じている地域のよい点は、どのようなことですか。

.....

.....

.....

.....

.....

問27 貴校区で地域福祉の活動をすすめるうえで役立つこと（資源となるもの）や必要なことは、どのようなことだと思われますか。

.....

.....

.....

.....

.....

問28 その他、堺市の地域福祉や活動に関するご意見があれば、ご自由にお書きください。

.....

.....

.....

.....

.....

ご協力ありがとうございました。

【子ども食堂調査票】

子ども食堂のみなさんへ

活動に関するアンケートのお願い

日頃より、さかい子ども食堂ネットワーク事務局の運営にご協力いただき、ありがとうございます。

8月1日現在で、さかい子ども食堂ネットワーク加盟団体は92団体となりました。子ども食堂の「わ」がさらに広がっています。

堺の子ども食堂では、食事や居場所の提供、見守りなどさまざまな取組が、自主・自由な活動として行われています。そのような子ども食堂の活動が地域の新たなつながりをつくり、地域の居場所づくりに欠かせない存在となってきています。

「居場所」とは、さまざまな人が地域の一員として“自分らしく”参加でき、安心して、元気になることができる取組だと考えています。堺には、さまざまな居場所があり、その活動がよりいっそう広がっていくことが期待され、より多くの人に参加できる居場所が求められています。

堺市社会福祉協議会では、堺市や地域のさまざまな団体・機関と協働して、居場所づくりや活動を持続するための支援に取り組んでいます。今年度からは、居場所活動の現状や課題、活動に携わる方々の思いを把握し、地域の状況に応じた支援や連携を広げるための具体的な取組を進めていきます。

そこで、どのような思いで活動されているのか、また、地域の中でどのようなつながりをもっていきたいのかなど、地域で活発な活動を展開している子ども食堂のみなさんにお聴きしたいと考えています。

お忙しいところ恐れ入りますが、ぜひアンケートへのご協力をお願いします。

令和5年8月

社会福祉法人 堺市社会福祉協議会

このアンケートについてのお問い合わせは、下記へお願いいたします。

堺市社会福祉協議会 地域福祉課 地域共生推進係（担当：増岡・池辺・奥田・貞安・岡谷）

電話 072-232-5420 FAX 072-221-7409

メール chiikifukushika@sakai-syakyo.net

※お電話は平日の午前9時から午後5時30分までをお願いします。

②子ども食堂の活動に関するアンケートのお願い

日頃より、さかい子ども食堂ネットワーク事務局の運営にご協力いただき、ありがとうございます。

堺市社会福祉協議会は、「居場所」とはさまざまな人が地域の一員として“自分らしく”参加でき、安心して元気になることができる場所であり、子ども食堂もそのひとつであると考えています。

今年度からは、居場所活動の現状や課題、活動に携わる方々の思いを把握し、地域の状況に応じた支援や連携を広げるための具体的な取組を進めていきます。

そこで、どのような思いで活動されているのか、また、地域の中でどのようなつながりをもっていきたいのかなど、地域で活発な活動を展開している子ども食堂のみなさんにお聴きしたいと考えています。

お忙しいところ恐れ入りますが、引き続きアンケートへのご協力をお願いします。

現在の子ども食堂の活動について教えてください

16. 【問1】 どのような人が子ども食堂へ来ていますか【複数回答可】 *

当てはまるものをすべて選択してください。

- 1. 就学前の子ども
- 2. 小学生
- 3. 中学生
- 4. 高校生など
- 5. 大学・専門学生など
- 6. 子どもの保護者
- 7. 現役世代
- 8. 高齢者
- その他: _____

17. 【問2-1】 子ども食堂の参加者の中で、活動を手伝ってくれる人はいますか *

1つだけマークしてください。

いる

いない

その他: _____

18. 【問2-2】 「いる」と回答した場合、どのようなお手伝いをしてくれていますか
(例：地域の高齢者による調理の手伝い、学生ボランティアによる学習支援など)

19. 【問3】 子ども食堂の財源はどのようなものですか【複数回答可】 *

当てはまるものをすべて選択してください。

1. 参加費

2. 補助金・助成金など

3. スタッフ自身の寄附など

4. 個人からの寄附

5. 企業や商店からの寄附

6. 地域の自治会や町会からの寄附

7. ボランティアグループやスポーツチームなど市民団体からの寄附

8. 法人などからの寄附

9. クラウドファンディング

その他: _____

20. 【問4-1】 子ども食堂にどのような応援を受けていますか【複数回答可】*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 1. 寄附金
- 2. フードドライブなど食材の提供
- 3. 活動に必要な物品の提供
- 4. 活動場所の提供
- 5. スポーツ観戦・文化芸術など体験活動の提供
- 6. 広報・啓発の協力
- 7. ボランティアスタッフとしての協力
- その他: _____

21. 【問4-2】 主にどのようなところからの応援がありますか

22. 【問5】 子ども食堂について、どのように広報・周知を行っていますか【複数回答可】*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 1. 口コミで広がっている
- 2. SNS（InstagramやLINE、Facebookなど）での発信
- 3. 独自のホームページでの発信
- 4. 自治会や町会の広報誌への掲載
- 5. 子ども食堂の案内チラシ・ポスターの作成
- 6. 学校を通じたチラシなどの配布
- 7. 地域の協力団体や企業などを通じたチラシの配布
- 8. 特にしていない
- その他: _____

23. 【問6】 子ども食堂に関する情報収集は、どのように行っていますか【複数回答 *
可】

当てはまるものをすべて選択してください。

- 1. 社会福祉協議会からのお知らせ
- 2. 市・区役所に聞く
- 3. 他の子ども食堂と情報交換をする
- 4. インターネットなどで調べる
- 5. 特に情報収集はしていない
- その他: _____

24. 【問7】 子ども食堂について気軽に相談できる場所がありますか【複数回答 *
可】

当てはまるものをすべて選択してください。

- 1. 社会福祉協議会
- 2. 市・区役所
- 3. 福祉に関する専門機関
- 4. 学校
- 5. 他の子ども食堂
- 6. 地域の自治会や町会など
- 7. 民生委員児童委員、保護司など
- 8. 相談したいがするところがわからない
- 9. 相談したことがない
- その他: _____

25. 【問8】子ども食堂に「ちょっと気がかりだな」と思う参加者がいた場合、どのよ *
うな対応をしていますか【複数回答可】

当てはまるものをすべて選択してください。

- 1. スタッフで話を聴いたり声をかけたりして、まず受け止めている
- 2. スタッフで食糧支援や学習支援などの具体的な支援をしている
- 3. 社会福祉協議会に相談する
- 4. 市・区役所に相談する
- 5. 福祉に関する専門機関に相談する
- 6. 学校に相談する
- 7. 他の子ども食堂に相談する
- 8. 地域の自治会や町会などに相談する
- 9. 民生委員児童委員、保護司などに相談する
- 10. 気がかりな参加者の把握はしていない
- その他: _____

26. 【問9】子ども食堂の活動で、課題だと感じていることはありますか【複数回答 *
可】

当てはまるものをすべて選択してください。

- 1. 参加者が少ない
- 2. 参加者が多い
- 3. スタッフの調整や確保
- 4. 財源の確保
- 5. 食材の確保
- 6. 最近の物価高による活動費の高騰
- 7. 活動場所に関すること
- 8. 活動に必要な物品
- 9. 活動に関する情報発信
- 10. SNS (InstagramやLINE、Facebookなど) の活用
- 11. 参加してほしいと思う人の参加
- 12. 「ちょっと気がかりだな」と思う参加者への対応
- 13. 学校との連携
- 14. 地域との連携
- 15. 福祉に関する専門職との連携
- その他: _____

子ども食堂の経過や今後について教えてください

27. 【問10】子ども食堂をはじめた動機やきっかけはどのようなことですか（例：メンバーの気づきや思い、地域からのニーズ） *

28. 【問11】活動を開始した当初の参加者数から、現在の参加者数はおおよそどのように変化していますか *

1つだけマークしてください。

- 増えている
 減っている
 変わらない

29. 【問12】活動を開始した当初の開催回数から、現在の開催回数はおおよそどのように変化していますか *

1つだけマークしてください。

- 増えている
 減っている
 変わらない

30. 【問13】活動を開始した当初のスタッフ数から、現在のスタッフ数はおおよそどのように変化していますか *

1つだけマークしてください。

- 増えている
 減っている
 変わらない

31. 【問14】子ども食堂を続けられている理由はどのようなことだと思えますか【複数回答可】*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 1. 活動するのが楽しい
- 2. 地域のために何かしたいという思い
- 3. 私にとっての「居場所」になっている
- 4. 子どもの笑顔
- 5. 参加者からの「ありがとう」「おいしかった」などの声
- 6. ニーズがある
- 7. たくさんの方が参加してくれているから
- 8. 家族や友人の応援
- 9. 他の団体とのつながり
- 10. 社会福祉協議会の協力
- 11. 市・区役所の協力
- 12. 応援・寄附
- その他: _____

32. 【問15】あなたの子ども食堂の強みを教えてください
(例：食事の種類が多い、スタッフが明るいなど)

33. 【問16】今後の活動で「やってみたいこと」があれば教えてください

居場所活動の連携について教えてください

子ども食堂は、今や地域の居場所づくりにとって大きな力となってきています。
「居場所」とは、さまざまな人が地域の一員として“自分らしく”参加でき、安心して、元気になることができる場所のひとつだと堺市社会福祉協議会は考えています。
居場所の交流や連携についてお聞かせください。

34. 【問17】 子ども食堂の活動は「居場所」をつくる（提供する）活動だと思います *
か

1つだけマークしてください。

- 子ども食堂を居場所活動だと意識している
 特に意識していない
 わからない

35. 【問18】 子ども食堂の活動の中で、他の団体や機関などのかかわりがあります *
か【複数回答可】

当てはまるものをすべて選択してください。

1. 社会福祉協議会
 2. 市・区役所
 3. 福祉に関する専門機関
 4. 学校
 5. 他の子ども食堂
 6. 校区福祉委員会
 7. 地域の自治会や町会など
 8. 民生委員児童委員、保護司など
 9. ボランティアグループ
 10. NPO法人
 11. 企業・商店など
 12. 特にかかわりはない
 その他: _____

36. 【問19】他の団体や機関と具体的にどのようなかかわり方をしていますか（例：チラシを置いてもらっている、食材を支援してもらっている、イベントに協力してくれているなど）

37. 【問20】今後かかわってみたい団体や機関などがあれば教えてください

38. 【問21】ここまでご回答いただきありがとうございました。
最後に、地域や居場所のことなど、日ごろの活動の中で気づいたことがあればご自由にお書きください

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

令和5年8月吉日

各位

社会福祉法人 堺市社会福祉協議会
地域福祉課長
(公印略)

居場所活動に関するアンケートご協力のお願い

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本協議会では、堺市や地域のさまざまな団体・機関と協働して、居場所づくりや活動を持続するための支援に取り組んでいます。今年度からは、居場所活動の現状や課題、活動に携わる方々の思いを把握し、地域の状況に応じた支援や連携を広げるための具体的な取組を進めていきます。また、国においても今年6月に「孤立・孤独対策推進法」を公布し、改めて居場所の重要性が認識されています。

つきましては、地域貢献活動なども含めた居場所づくりの活動を行っている法人や団体等の皆さまに、居場所活動に関するご意見をお聴きしたいと考えています。

ご多用のところ誠に恐縮ですが、本アンケートにご協力賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 回答内容・・・別紙アンケートのとおり
2. 回答期日・・・令和5年9月15日（金）までに同封の返送用封筒にてご返送ください。
3. その他・・・可能な限り、地域貢献活動などを含めた居場所活動を担当されている方、または居場所活動に関心のある方にご回答いただきますようお願いいたします。

以上

(問合せ先)

社会福祉法人 堺市社会福祉協議会

地域福祉課 地域共生推進係

担当：増岡・貞安・岡谷・池辺・奥田

Tel 072-232-5420 (代表)

Fax 072-221-7409

E-mail chiikifukushika@sakai-syakyo.net

居場所活動に関するアンケートのお願い

【新たな縁をつむぐ、多様な「居場所」が求められています。】

わが国では、血縁、地縁、社縁、学縁など、既存の人と人のつながりが希薄化し、社会的孤立の問題が拡大するなかでだれもが心豊かに暮らしていくため、新たな縁をつむぐしかけが必要となっています。

そのひとつが、さまざまな人が“自分らしく”参加でき、地域の一員として承認されて役割を担うことを通じて、安らぎ、元気になることができる「居場所」をつくる取組だと考えられます。

堺市は約80万人の多様な人々が暮らす都市ですが、校区福祉委員会をはじめとして、歴史のあるさまざまな「地域型」の活動が継続して行われています。

また、堺市では、新たなニーズに基づいて、さまざまな「テーマ型」の活動も広がっており、子ども食堂をはじめとする多くの居場所が運営されています。

これらの地域型、テーマ型のさまざまな居場所が安定的に運営されるとともに、場の数や機能がいつそう広がっていくことで、より多くの人が参加できるようにすることが求められています。

【多様な居場所活動の連携が、多様なニーズへの対応と、地域づくりにつながります。】

これらの居場所に、さまざまな人が“自分らしく”参加するには、一人ひとりのニーズに応じた、多様なかたちの居場所が必要です。

堺市でも、大きく分けると、だれもが参加でき、ふれあうことをめざす「交流型」と、暮らしのなかの“困りごと”をもつ人とつながりをつくりながら、必要な相談やサービスなどにつなぐ「支援型」の居場所が開かれています。これらの中には、社会福祉法人や特定非営利活動法人、社会福祉関係事業所等が行われている事業やサービス、地域貢献活動も含まれると考えています。「居場所に参加する人のニーズは多様かつ変化することから、さまざまな機能をもつ居場所を増やし、専門的な支援ができる機関などが連携して対応することが望まれます。

さらに、こうした多様な居場所づくりや居場所を拠点とした連携を、小地域ごとに地域の特性に応じてすすめることで、だれもが暮らしやすい地域づくりや、ともに創りあう「地域共生社会」を推進することができると考えられます。

【居場所活動の支援に向けて、活動の実情や団体等の“思い”をお聴きする調査を行います。】

堺市社会福祉協議会は、休眠預金を活用した先進的な事業として採択を受け、堺市や地域のさまざまな団体・機関とも協働して、居場所づくりや活動を持続するための支援に取り組んでいます。今年度からは、居場所活動の現状や課題、活動に携わる方々の思いを把握し、地域の状況に応じた支援や連携を広げるための方策を検討して、さらに具体的な取組をすすめることにしています。

そのため、地域貢献活動なども含めた居場所づくりの活動を行っている団体や機関に、活動の実情や活動に対する思いをお聴きするため、アンケート調査を実施することにしました。この調査票は、堺市内の社会福祉法人、特定非営利活動法人、社会福祉関係事業所等にご回答をお願いしています。調査の結果をふまえ、堺市内の居場所活動を行っている団体や機関の連携をいっそう発展させていくための支援の方策を検討し、推進していきたいと考えています。

お忙しいところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解のうえご協力くださいますよう、お願いいたします。

令和5年8月吉日

社会福祉法人 堺市社会福祉協議会

裏面の記入上の注意事項をお読みいただきご回答くださいますよう、お願いいたします。

ご回答いただくうえでのお願い

- *このアンケートは、貴法人・団体等で地域貢献活動などを含めた居場所活動を行っている方または居場所活動に関心のある方にご回答いただきますようお願い申し上げます。
- *ご回答いただいた内容の確認やご意見をお聴かせいただく場合がありますので、差し支えなければ、ご記入者の氏名をお書きください。
- *回答は、それぞれの問いについて、お考えに近い答えの番号に○を付けてください。
「その他」を選ばれた場合や具体的なお意見は、()の中にお書きください。
- *堺市内の地域貢献活動などを含めた居場所活動の状況について包括的に把握・分析するため、全法人・団体等に同一の調査票でご回答いただきます。
そのため、貴法人・団体等の活動に該当しない設問が含まれる可能性があります。ご了承くださいませようお願いいたします。お答えいただきにくい項目は、空欄で結構です。
- *このアンケートについてのお問い合わせは、下記へお願いいたします。
堺市社会福祉協議会 地域福祉課 地域共生推進係（担当：増岡・貞安・岡谷・池辺・奥田）
電話 072-232-5420 FAX 072-221-7409

※お電話は平日の午前9時から午後5時30分までにお願いします。

問4 他の団体や機関などが行っている地域の居場所活動について、関わりや関心をおもちですか。
【複数回答可】 ※「1」～「3」と回答された方は、問11～12もご回答ください。

- | |
|----------------------------|
| 1 居場所活動への支援や交流を行っている |
| 2 居場所活動への支援や交流を検討している（したい） |
| 3 居場所活動には関心がある（関わってみたい） |
| 4 居場所活動への関わりや関心は特にない |
| 5 その他（) |

問5 どのような居場所活動に関わりや関心をおもちですか。【複数回答可】

- | | | |
|----------|-------------------------|-------------|
| 1 子ども食堂 | 2 集いの場（子育てサロン、いきいきサロン等） | 3 喫茶活動 |
| 4 サークル活動 | 5 フリースペース | 6 現在は関わりがない |
| 7 その他（) | | |

問6 堺市社会福祉協議会は、多様な居場所活動を行われている団体等の連携や支援に取り組みます。
貴団体等は、この取組について、どのように思われますか。

- | | |
|----------------|------------------------|
| 1 参加して連携していきたい | 2 連携はあまり考えていないが支援してほしい |
| 3 参加したいとは思わない | 4 わからない |
| 5 その他（) | |

居場所活動を実施（または検討）している団体等（問2で「1 実施している」と回答された方）
におたずねします。

問7 居場所活動を実施（または検討）した動機やきっかけはどのようなことですか。【複数回答可】

- | | | |
|----------------------|-------------------|-----------|
| 1 団体等のメンバーの気づきや思い | 2 地域からのニーズ | 3 地域貢献として |
| 4 社協や市、専門機関などからの呼びかけ | 5 動機やきっかけは把握していない | |
| 6 その他（) | | |

問8 居場所活動に、生活上の困りごとがあるなど相談や支援が必要な人が参加された場合は、どのように対応していますか。【複数回答可】

- | | | |
|--------------------------|-------------------------|--|
| 1 職員、スタッフで話を聴くなどして対応している | | |
| 2 他の団体や専門機関等につないでいる | 3 社協や市・区役所につないでいる | |
| 4 特に対応はしていない | 5 相談や支援が必要な人の参加は把握していない | |
| 6 その他（) | | |

問9 居場所活動を実施するうえで課題だと感じていることがありますか。【複数回答可】

- | | | |
|---------------|-----------------------|-------------|
| 1 参加者数が少ない | 2 参加してほしい人々の参加が少ない | 3 参加者数が多い |
| 4 スタッフの負担が大きい | 5 会場確保の負担が大きい | |
| 6 財源面の負担が大きい | 7 活動に対する支援が少ない | |
| 8 活動の周知方法 | 9 活動に対して、地域住民などの関心が薄い | |
| 10 地域との連携 | 11 学校との連携 | 12 他の団体との連携 |
| 13 その他（) | | |

問10 居場所活動について、今後、どのようにしたいと考えていますか。【複数回答可】

- | | | |
|-------------------|---------------------|-------------|
| 1 回数や会場を増やしたい | 2 活動の種類を増やしたい | 3 内容を充実させたい |
| 4 他の団体等との連携を強化したい | 5 オンラインでつながる活動も行いたい | |
| 6 現状を維持したい | 7 活動を縮小していきたい | 8 わからない |
| 9 その他 (| |) |

地域で居場所活動を行っている団体等への支援や交流を行っている団体等（問4で「1 居場所活動への支援や交流を行っている」、「2 支援や交流を検討している」、「3 関心がある」と答えた方）**におたずねします。**

問11 行っている、もしくは行ってみたい・関心がある支援や交流は、どのようなことですか。【複数回答可】

- | | | |
|--|--------------------|----------------|
| 1 居場所活動に、自団体等の事業の利用者などが参加している | | |
| 2 活動の場を提供している | 3 活動に必要な資機材を提供している | |
| 4 資金を提供している | 5 人的な応援をしている | |
| 6 情報発信を支援している | 7 活動者の相談にのっている | 8 参加者の相談にのっている |
| 9 生活上の困りごとがあるなど相談や支援が必要な人が参加された場合に対応している | | |
| 10 その他 (| |) |

● 支援や交流を行っているのはどのような団体ですか。

[]

問12 地域の居場所活動への支援や交流について、今後、どのようにしたいと考えていますか。【複数回答可】

- | | | |
|----------------------------------|------------------|---------|
| 1 支援や交流の内容を充実していきたい | | |
| 2 支援や交流する団体等を広げたい | | |
| 3 他の団体や専門機関等と連携して、支援や交流をすすめていきたい | | |
| 4 現状を維持したい | 5 支援や交流を縮小していきたい | 6 わからない |
| 7 その他 (| |) |

● 今後、行いたい支援や交流の内容などがあれば教えてください。

[]

※裏面につづきます。

すべての団体等におたずねします。

問13 貴団体等の活動や取組、事業などを通じて感じておられる地域の課題はありますか。

.....

.....

.....

.....

.....

問14 貴団体等の活動や取組、事業などを通じて地域福祉をすすめるうえでの資源として把握していることはありますか。

.....

.....

.....

.....

.....

問15 その他、堺市の地域福祉や地域の活動に関するご意見があれば、ご自由にお書きください。

.....

.....

.....

.....

.....

ご協力ありがとうございました。

居場所活動に関するアンケート調査報告書

令和6年3月発行

発行：社会福祉法人 堺市社会福祉協議会 地域福祉課 地域共生推進係

〒590-0078 堺市堺区南瓦町2-1

TEL 072-232-5420 FAX 072-221-7409

✉ : chiikifukushika@sakai-syakyo.net